平成 28 年度

松山市　市民意識調査

報　告　書

（概要版）

平成 29 年 3 月

松　山　市

目　次

Ⅰ　調査概要 3
1. 調査目的 3
2. 調査方法 3
(1)調査項目 3
(2)調査対象・方法 4
3. 回収結果 4
4. 集計方法 4
5. 注意事項 5
Ⅱ　調査結果 6
1. 回答者について 6
(1)性別 6
(2)年齢 6
(3)職業 7
(4)居住地域 8
(5)家族構成 9
(6)居住年数 10
2. 松山市での暮らしについて 11
(1)松山市のどのようなところを「住みやすい」と感じるか 11
(2)松山市のどのようなところを「住みにくい」と感じるか 13
(3)松山市は住みやすいまちか 15
(4)松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じるか 16
(5)松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくいか 18
(6)松山市に愛着や誇りを感じるか 20
(7)今後も松山市に住み続けたいか 21
3. 市民の地域づくりへの参加について 22
(1)松山市の市政に関する情報源 22
(2)地域活動への参加状況 24
(3)現在の松山市は、住民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思うか 25
(4)市民が主体となった地域づくり活動の促進のために、市としてどのようなことを行えばよいと思うか 26
(5)地域や住民ができること、やるべきことは何だと思うか 28
(6)松山市が主体となってやるべきことは何だと思うか 30
4. 少子高齢化・人口減少社会を迎えて重点的に取り組むべき事項について 33
(1)少子化対策 33
(2)移住定住対策 35
(3)地域経済の活性化 37
(4)暮らしを守る 39
5. 「笑顔のまちづくりプログラム」について 41
(1)笑顔が『集まる』 41
(2)笑顔を『育む』 43
(3)笑顔を『守る』 45

6. 市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について……47
(1)健康・福祉に関する施策……47
(2)安全・安心に関する施策……48
(3)産業・交流に関する施策……49
(4)教育・文化に関する施策……50
(5)環境・都市に関する施策……51
(6)自治・行政に関する施策……52
Ⅲ　調査分析……53
1. 満足度・重要度……53
2. 施策の優先度について……55
3. 重要度及び満足度、優先度の関係……56

Ⅰ　調査概要

1. 調査目的

第６次松山市総合計画に掲げた各施策に対する市民の重要度、満足度、優先度等を把握するため、市民に対して意識調査を実施し、計画的かつ効率的な進行管理を図るための基礎資料とする。

2. 調査方法

(1)調査項目

1．回答者について
（1）性別（2）年齢（3）職業（4）居住地域（5）家族構成（6）居住年数
2．松山市での暮らしについて
（1）松山市のどのようなところを「住みやすい」と感じるか
（2）松山市のどのようなところを「住みにくい」と感じるか
（3）松山市は住みやすいまちか
（4）松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じるか
（5）松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくいか
（6）松山市に愛着や誇りを感じるか
（7）今後も松山市に住み続けたいか
3．市民の地域づくりへの参加について
（1）松山市の市政に関する情報源
（2）地域活動への参加状況
（3）現在の松山市は、住民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思うか
（4）市民が主体となった地域づくり活動の促進のために、市としてどのようなことを行えばよいと思うか
（5）地域や住民ができること、やるべきことは何だと思うか
（6）松山市が主体となってやるべきことは何だと思うか
4．少子高齢化・人口減少社会を迎えて重点的に取り組むべき事項について
（1）少子化対策
（2）移住定住対策
（3）地域経済の活性化
（4）暮らしを守る
5.「笑顔のまちづくりプログラム」について
（1）笑顔が『集まる』
（2）笑顔を『育む』
（3）笑顔を『守る』
6．市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について
（1）健康・福祉に関する施策（2）安全・安心に関する施策（3）産業・交流に関する施策
（4）教育・文化に関する施策（5）環境・都市に関する施策（6）自治・行政に関する施策
7．施策の優先度について

(2)調査対象・方法

1. 調査対象
   2017 年 1 月 1 日現在（無作為抽出）
   ①性別：男女計 2,500 人
   ②年齢：18 歳以上の市民
   ③地域：松山市全域（集計・分析は公民館ブロックの地区ごと）
2. 調査方法
   郵送調査
3. 調査期間
   2017 年 2 月 10 日～3 月 3 日

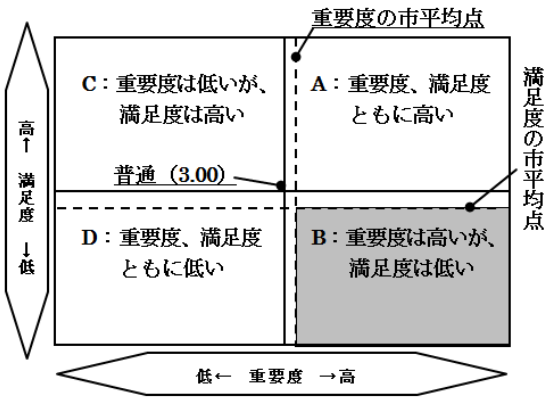
3. 回収結果

	発送件数	有効回答件数	有効回答率
全体	2,500	1,356	54.2%

4. 集計方法

<table>
<tr><th>項目</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>性別集計</td><td>男性、女性毎に集計。</td></tr>
<tr><td>年齢別集計</td><td>20 歳代以下（18～29 歳）、30 歳代（30～39 歳）、40 歳代（40～49 歳）、50 歳代（50～59 歳）、60 歳代（60～69 歳）、70 歳以上の 6 区分で集計。</td></tr>
<tr><td>地域別</td><td>・41 居住地を、8 公民館ブロックに集約。
<table>
<tr><th>ブロック</th><th>公民館区分</th></tr>
<tr><td>第1ブロック</td><td>1. 湯山　2. 日浦　3. 五明　4. 伊台</td></tr>
<tr><td>第2ブロック</td><td>5. 久米　6. 小野　7. 石井　8. 浮穴　9. 荏原　10. 坂本</td></tr>
<tr><td>第3ブロック</td><td>11. 八坂　12. 素鵞　13. 道後　14. 東雲　15. 番町　16. 桑原</td></tr>
<tr><td>第4ブロック</td><td>17. 新玉　18. 雄郡　19. 清水　20. 味酒</td></tr>
<tr><td>第5ブロック</td><td>21. 生石　22. 余土　23. 垣生　24. 味生</td></tr>
<tr><td>第6ブロック</td><td>25. 三津浜　26. 宮前　27. 高浜　28. 泊　29. 由良　30. 中島</td></tr>
<tr><td>第7ブロック</td><td>31. 和気　32. 潮見　33. 堀江　34. 久枝</td></tr>
<tr><td>第8ブロック</td><td>35. 浅海　36. 立岩　37. 難波　38. 正岡　39. 北条　40. 河野　41. 粟井</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>満足度得点
重要度得点

優先度</td><td>・第 6 次松山市総合計画（前期基本計画）の施策毎の評価。
選択肢 1「不満、重要でない」から選択肢 5「満足、重要」までに、それぞれ 1 点～5 点を与え、加重平均を算出した。選択肢 0「判断できない」及び「無回答」のサンプルは集計対象から除外した。
・優先的に取り組むべき施策として選択された項目について集計した。</td></tr>
</table>

満足度・重要度・優先度の関係	・施策の満足度・重要度を得点に基づき可視化するとともに、優先度が高い施策との相関を示した。 

5. 注意事項

○図表中の「ｎ」（Number of samples の略）は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比（%）を算出するための基数です。

○図表中の構成比（%）は、小数点第 2 位以下を四捨五入しています。このため、個々の構成比の合計が 100.0%にならない場合（99.9%、100.1%など）があります。

○複数回答の設問は、回答が 2 つ以上ありうるので、合計は 100%を超えることもあります。

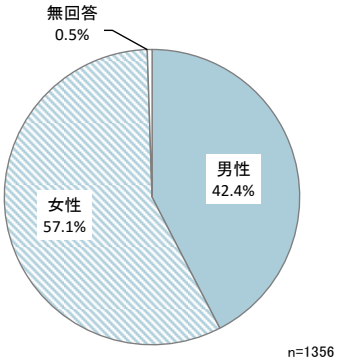
○各設問の集計は、無回答を含めて集計しています。

Ⅱ　調査結果

1. 回答者について

(1)性別

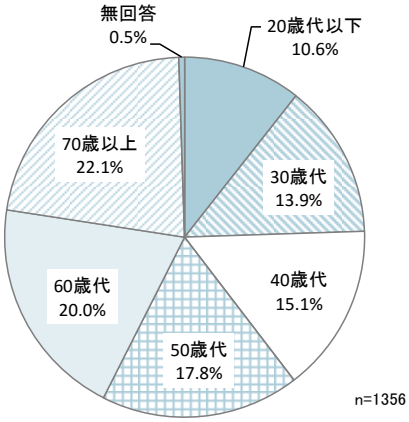
・性別は、「男性」が 42.4%、「女性」が 57.1%であった。

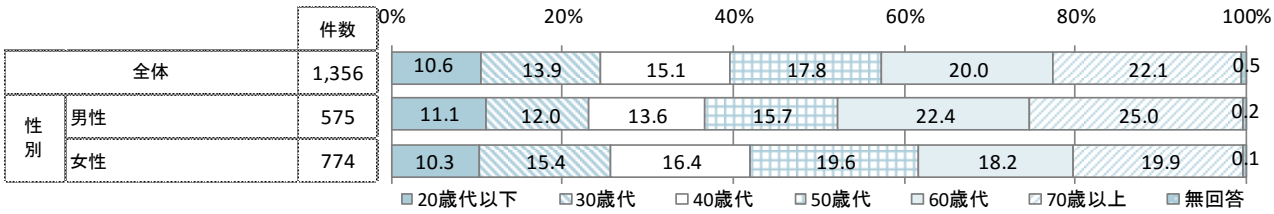


(2)年齢

・**全体では、「70 歳以上」が 22.1%で最も高く、「60 歳代」の 20.0%、「50 歳代」の 17.8%が続いた。**

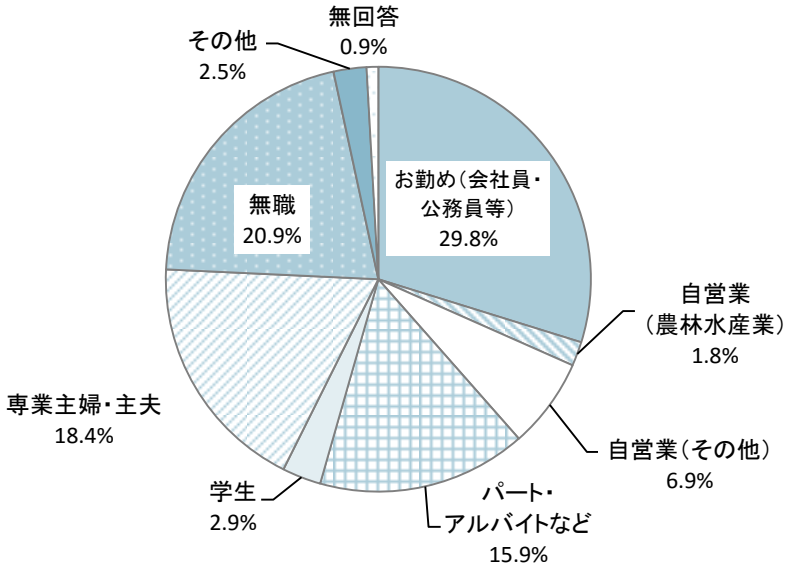
・性別でみると、男性では「70 歳以上」が 25.0%で最も高く、次いで「60 歳代」22.4%、「50 歳代」15.7%、「40 歳代」13.6%、「30 歳代」12.0%、「20 歳代以下」11.1%であった。
女性では「70 歳以上」が 19.9%で最も高く、次いで「50 歳代」19.6%、「60 歳代」18.2%、「40 歳代」16.4%、「30 歳代」15.4%、「20 歳代以下」10.3%であった。

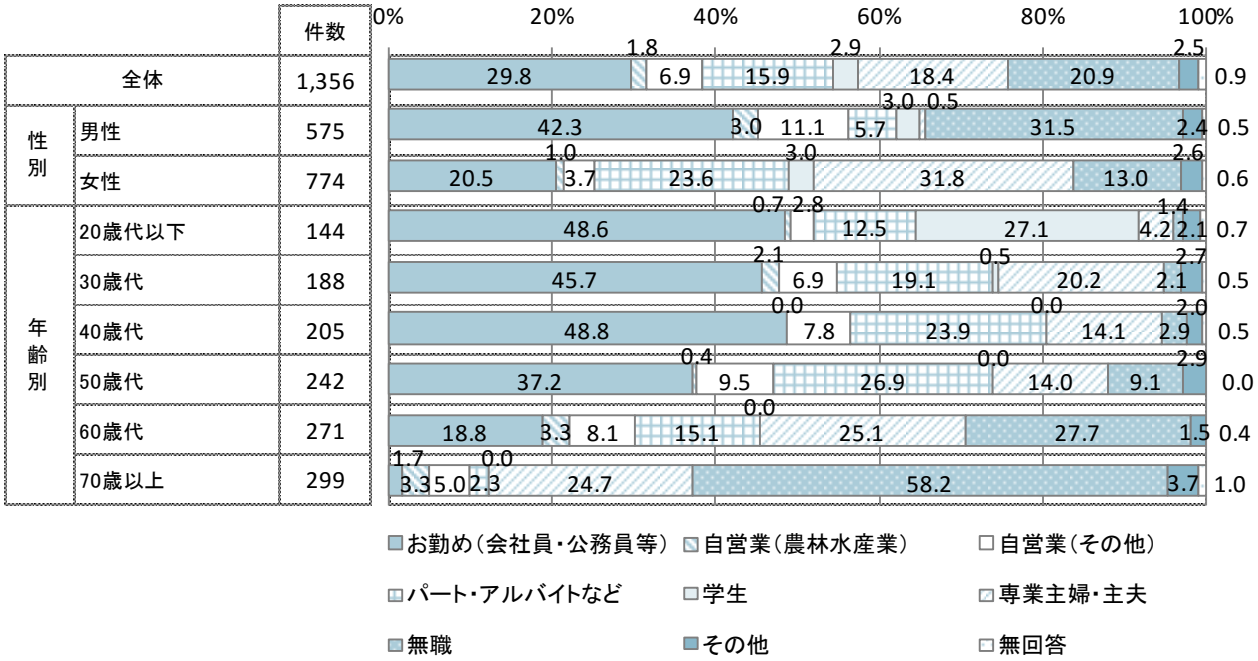




(3)職業

- **全体では、「お勤め（会社員・公務員等）」が 29.8%で最も高く、次いで「無職」の 20.9%、「専業主婦・主夫」の 18.4%が続いた。**
- 性別では、男性では「お勤め（会社員・公務員等）」が 42.3%で最も高く、次いで「無職」が 31.5%、「自営業（その他）」が 11.1%で続いた。
  女性では「専業主婦・主夫」が 31.8%で最も高く、次いで「パート・アルバイトなど」が 23.6%、「お勤め（会社員・公務員等）」が 20.5%で続いた。
- 年齢別では、50 歳代以下では「お勤め（会社員・公務員等）」が最も高く、これに次いで 20 歳代以下では「学生」、30 歳代から 50 歳代では「パート・アルバイトなど」と「専業主婦・主夫」の割合が高くなっている。60 歳代以上では「無職」が最も高く、次いで「専業主婦・主夫」と続いた。

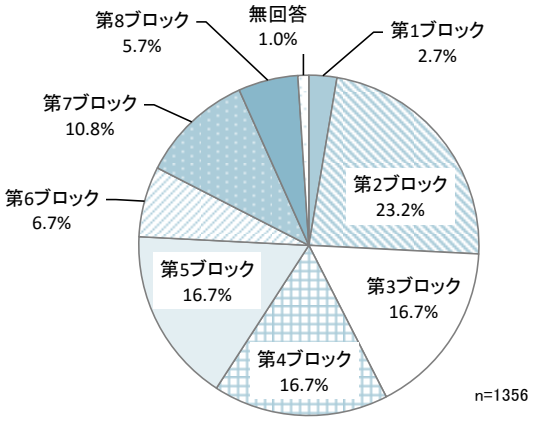


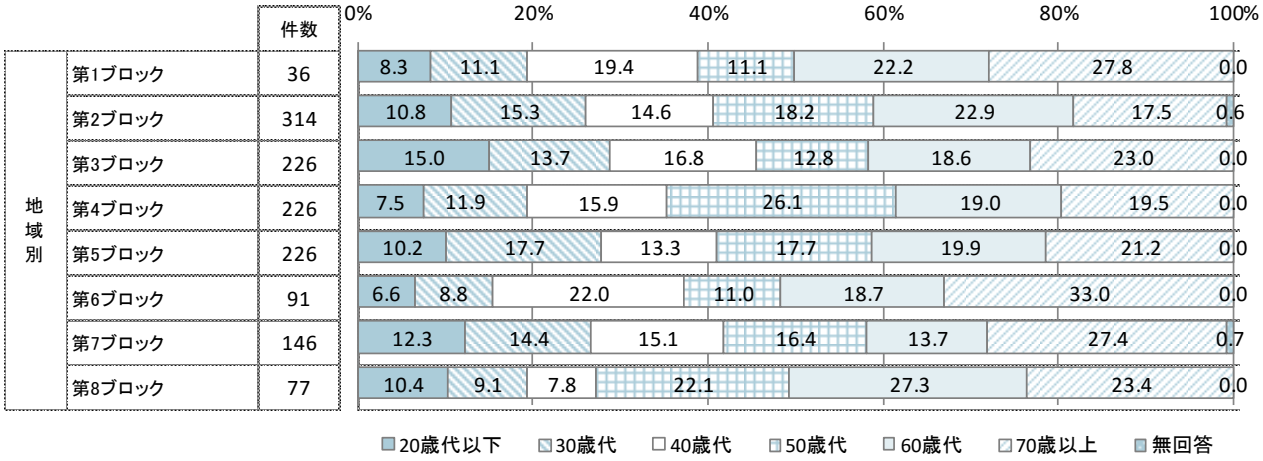


(4)居住地域

・全体では、「第 2 ブロック」の 23.2%が最も高く、次いで、「第 3 ブロック」、「第 4 ブロック」、「第 5 ブロック」が同率の 16.7%で続いた。

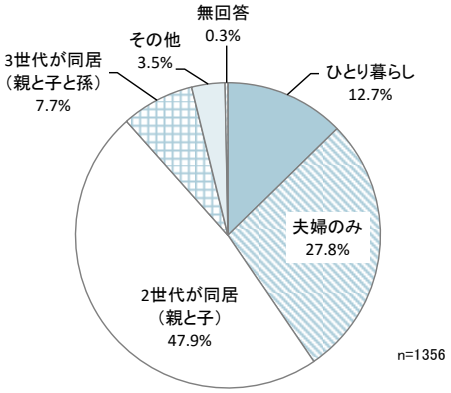
・年齢層をみると、60 歳代及び 70 歳以上の合計割合は「第 1 ブロック」、「第 6 ブロック」及び「第 8 ブロック」で 5 割以上であり、それ以外の地域でも 4 割前後となっている。20 歳代以下及び 30 歳代の合計割合は、いずれの地域も 2 割弱から 3 割弱となり、「第 3 ブロック」での 28.7%が最も高く、「第 6 ブロック」での 15.4%が最も低くなっている。40 歳代及び 50 歳代の合計割合は全ての地域でほぼ 3 割以上となっており、唯一「第 4 ブロック」で 4 割超と、他の地域よりやや高くなっている。

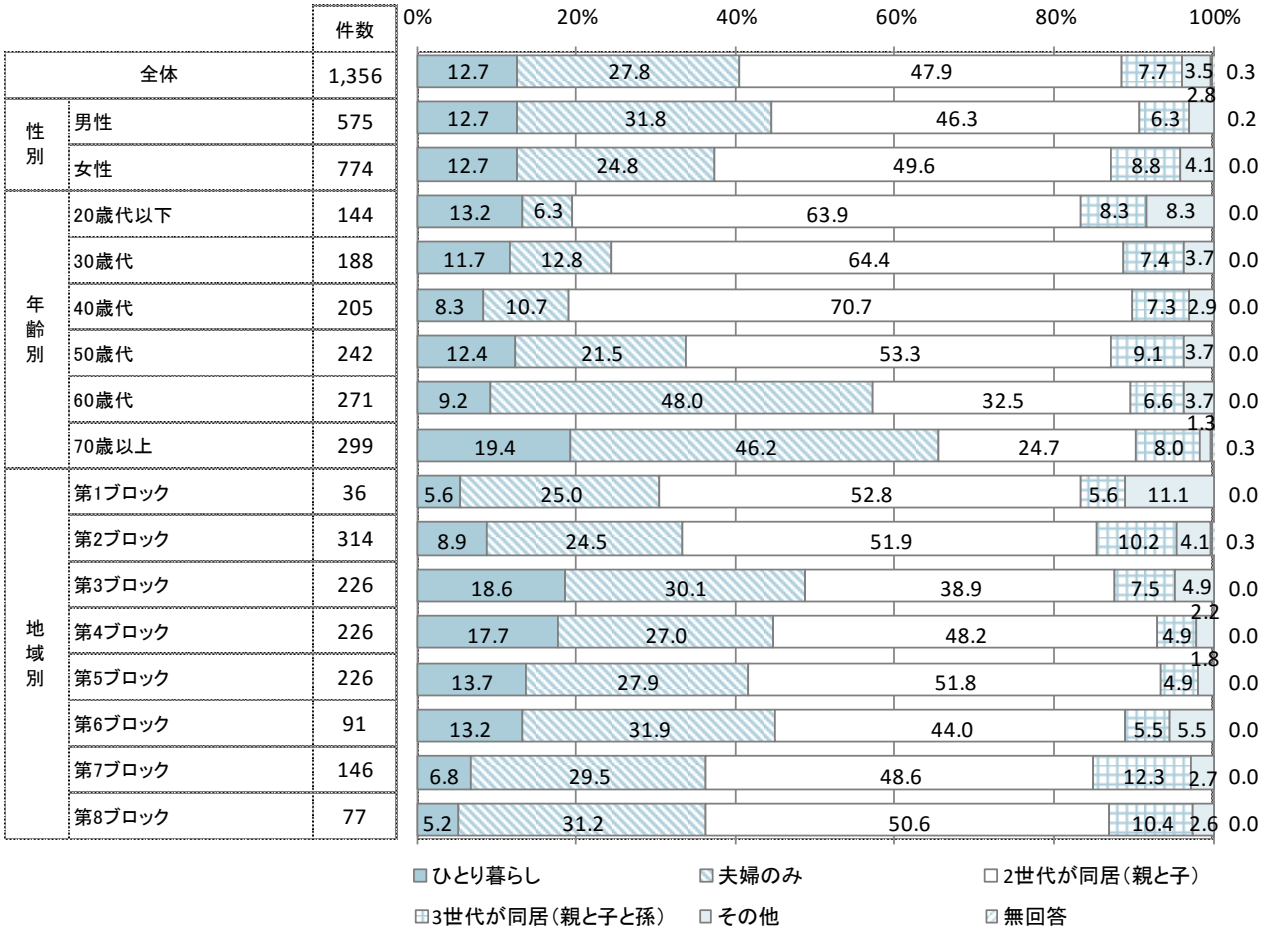




(5)家族構成

- **全体では、「2 世代が同居（親と子）」が 47.9%で最も高く、「夫婦のみ」の 27.8%、「ひとり暮らし」の 12.7%が続いた。**
- 性別では、男性、女性ともに「2 世代が同居（親と子）」が最も高く、「夫婦のみ」「ひとり暮らし」が続いた。
- 年齢別では、50 歳代以下では「2 世代が同居（親と子）」がいずれも半数以上を占め、20 歳代以下では「ひとり暮らし」、30 歳代から 50 歳代では「夫婦のみ」が続いている。60 歳代及び 70 歳以上では「夫婦のみ」が最も高く、次いで「2 世代が同居（親と子）」が続いた。
- 地域別では、いずれの地域も「2 世代が同居（親と子）」が 4 割前後から 5 割台で最も高く、「夫婦のみ」が続いた。

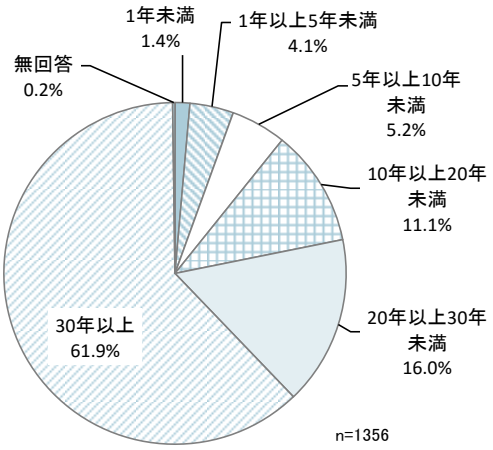


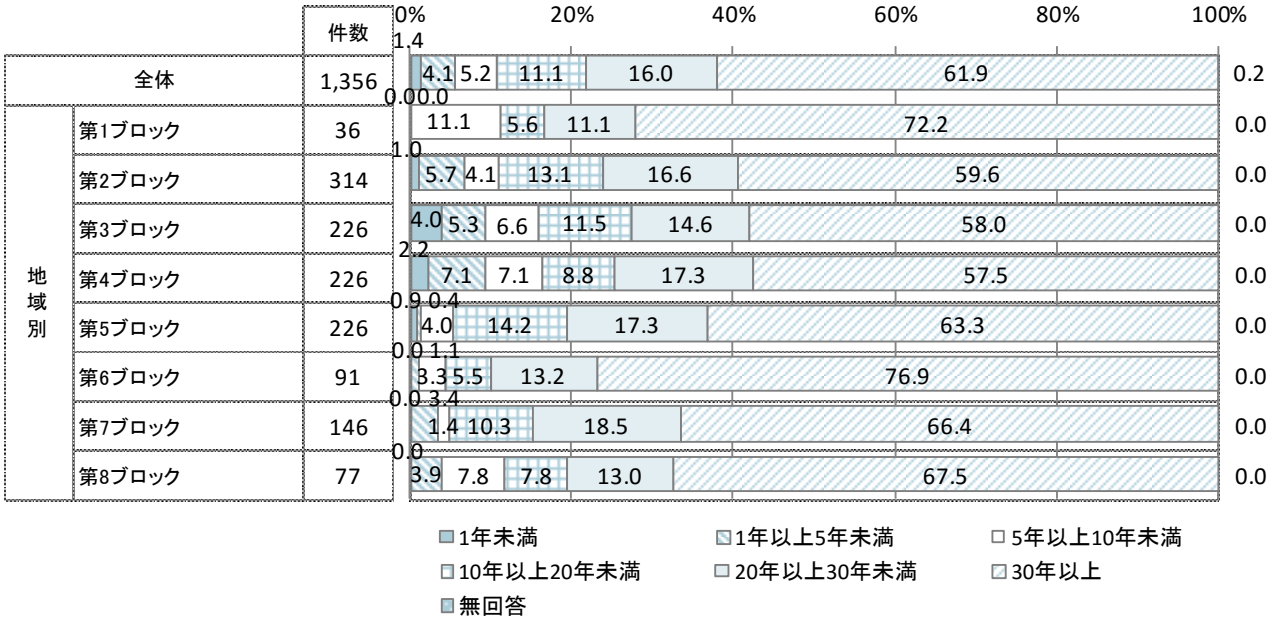


		件数	ひとり暮らし	夫婦のみ	2世代が同居（親と子）	3世代が同居（親と子と孫）	その他	無回答
全体		1,356	12.7	27.8	47.9	7.7	3.5	0.3
性別	男性	575	12.7	31.8	46.3	6.3	2.8	0.2
	女性	774	12.7	24.8	49.6	8.8	4.1	0.0
年齢別	20歳代以下	144	13.2	6.3	63.9	8.3	8.3	0.0
	30歳代	188	11.7	12.8	64.4	7.4	3.7	0.0
	40歳代	205	8.3	10.7	70.7	7.3	2.9	0.0
	50歳代	242	12.4	21.5	53.3	9.1	3.7	0.0
	60歳代	271	9.2	48.0	32.5	6.6	3.7	0.0
	70歳以上	299	19.4	46.2	24.7	8.0	1.3	0.3
地域別	第1ブロック	36	5.6	25.0	52.8	5.6	11.1	0.0
	第2ブロック	314	8.9	24.5	51.9	10.2	4.1	0.3
	第3ブロック	226	18.6	30.1	38.9	7.5	4.9	0.0
	第4ブロック	226	17.7	27.0	48.2	4.9	2.2	0.0
	第5ブロック	226	13.7	27.9	51.8	4.9	1.8	0.0
	第6ブロック	91	13.2	31.9	44.0	5.5	5.5	0.0
	第7ブロック	146	6.8	29.5	48.6	12.3	2.7	0.0
	第8ブロック	77	5.2	31.2	50.6	10.4	2.6	0.0

(6)居住年数

- **全体では「30 年以上」が 61.9%と突出して高く、「20 年以上 30 年未満」の 16.0%、「10 年以上 20 年未満」の 11.1%が続き、20 年以上の居住者が 77.9%を占めた。**
- 地域別では、いずれの地域も「30 年以上」が 5 割半ば以上となって、第 1 ブロック、第 6 ブロックでは 7 割を超えている。次いで、第 1 ブロックを除いて「20 年以上 30 年未満」、「10 年以上 20 年未満」の順に続いている（第 1 ブロックは「5 年以上 10 年未満」及び「20 年以上 30 年未満」が同率となっている）。第 1 ブロック、第 5 ブロック、第 6 ブロック、第 7 ブロック及び第 8 ブロックでは、通算 20 年以上の居住者が 8 割を超えている。





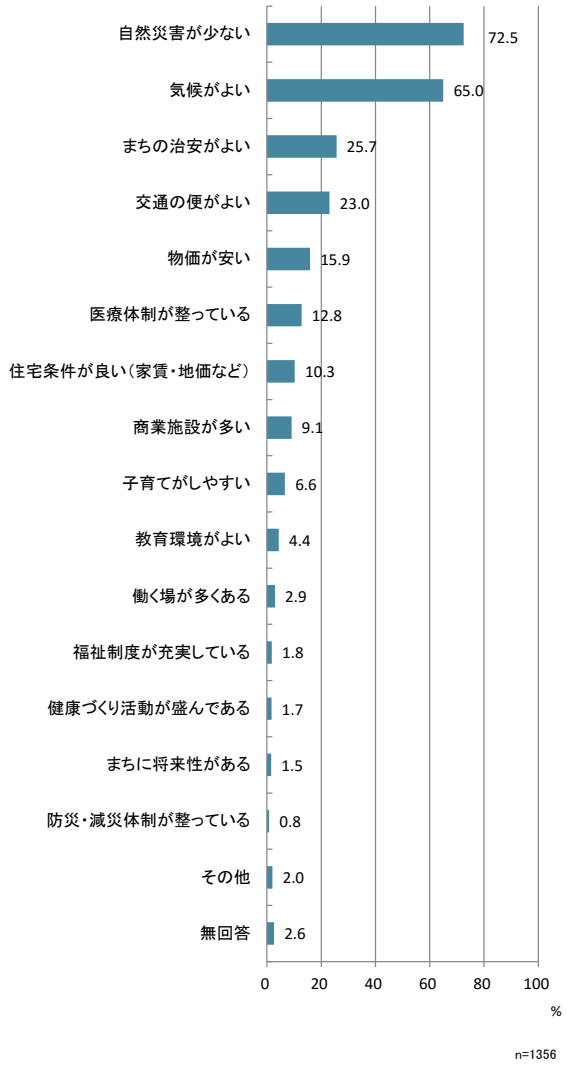
		件数	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	無回答
全体		1,356	1.4	4.1	5.2	11.1	16.0	61.9	0.2
地域別	第1ブロック	36	0.0	0.0	11.1	5.6	11.1	72.2	0.0
	第2ブロック	314	1.0	5.7	4.1	13.1	16.6	59.6	0.0
	第3ブロック	226	4.0	5.3	6.6	11.5	14.6	58.0	0.0
	第4ブロック	226	2.2	7.1	7.1	8.8	17.3	57.5	0.0
	第5ブロック	226	0.9	0.4	4.0	14.2	17.3	63.3	0.0
	第6ブロック	91	0.0	1.1	3.3	5.5	13.2	76.9	0.0
	第7ブロック	146	0.0	3.4	1.4	10.3	18.5	66.4	0.0
	第8ブロック	77	0.0	3.9	7.8	7.8	13.0	67.5	0.0

2. 松山市での暮らしについて

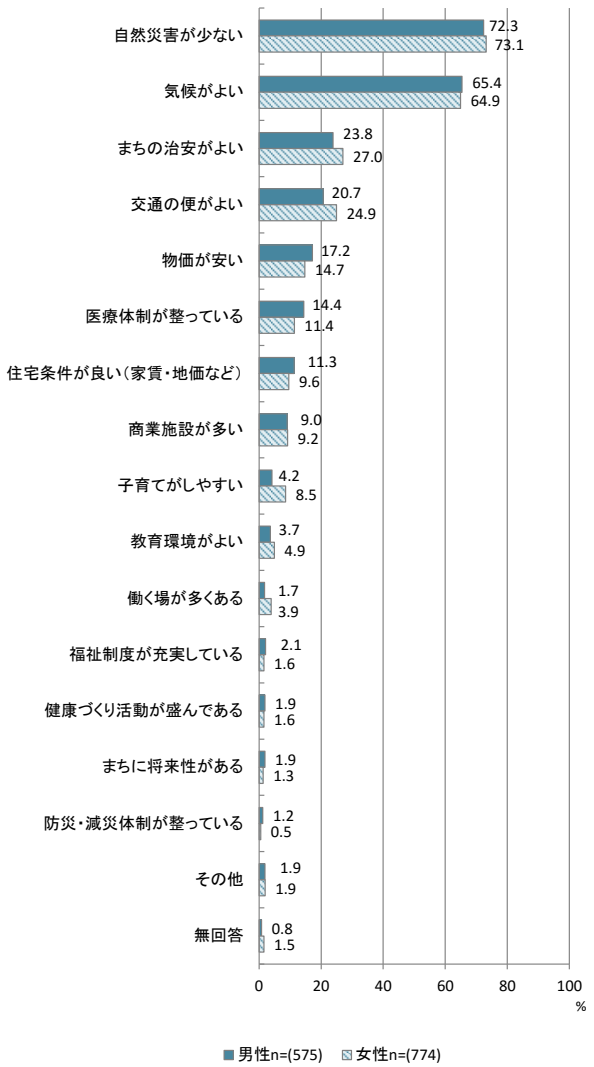
(1)松山市のどのようなところを「住みやすい」と感じるか

- **全体では、「自然災害が少ない」(72.5%)と「気候がよい」(65.0%)が突出し、「まちの治安がよい」(25.7%)、「交通の便がよい」(23.0%)と続いた。**
- 性別では、男性、女性いずれも「自然災害が少ない」が 7 割超、「気候がよい」が 6 割半ばとなって、この 2 項目が突出している。
- 年齢別では、20 歳代以下から 30 歳代では「気候がよい」が 6 割前後に上り最も高く、次いで「自然災害が少ない」、「まちの治安がよい」と続いた。40 歳代から 70 歳以上では「自然災害が少ない」が最も高く、次いで「気候がよい」となり、3 位は 60 歳代、70 歳以上を除いて、「まちの治安がよい」となった。60 歳代、70 歳代以上では「交通の便がよい」が 3 位となっている。
- 地域別では、第 1 ブロック、第 8 ブロックを除いて「自然災害が少ない」が最も高く、次いで「気候がよい」と続いた。3 位は第 3 ブロック、第 4 ブロックでは「交通の便がよい」、その他では「まちの治安がよい」と続いている。第 1 ブロック、第 8 ブロックでは「気候がよい」が最も高く 8 割前後に上り、次いで「自然災害が少ない」、「まちの治安がよい」と続いた。

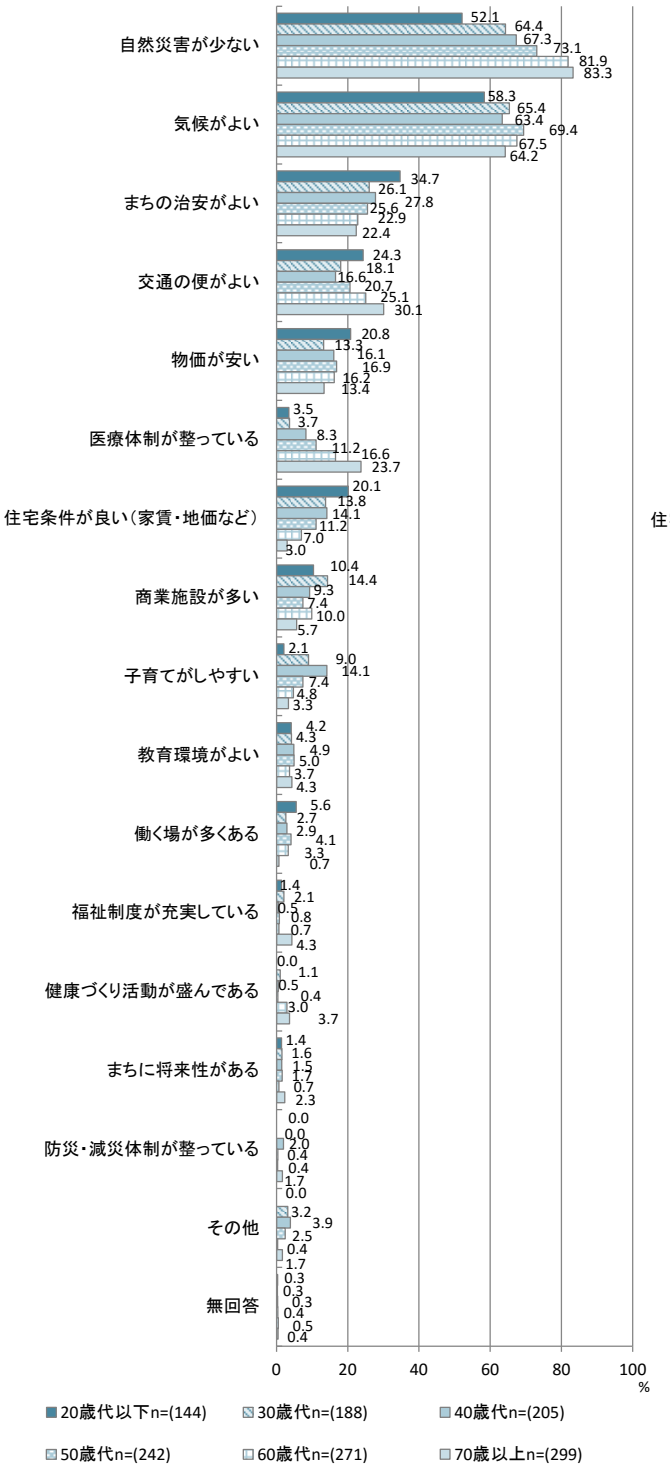
＜全体＞



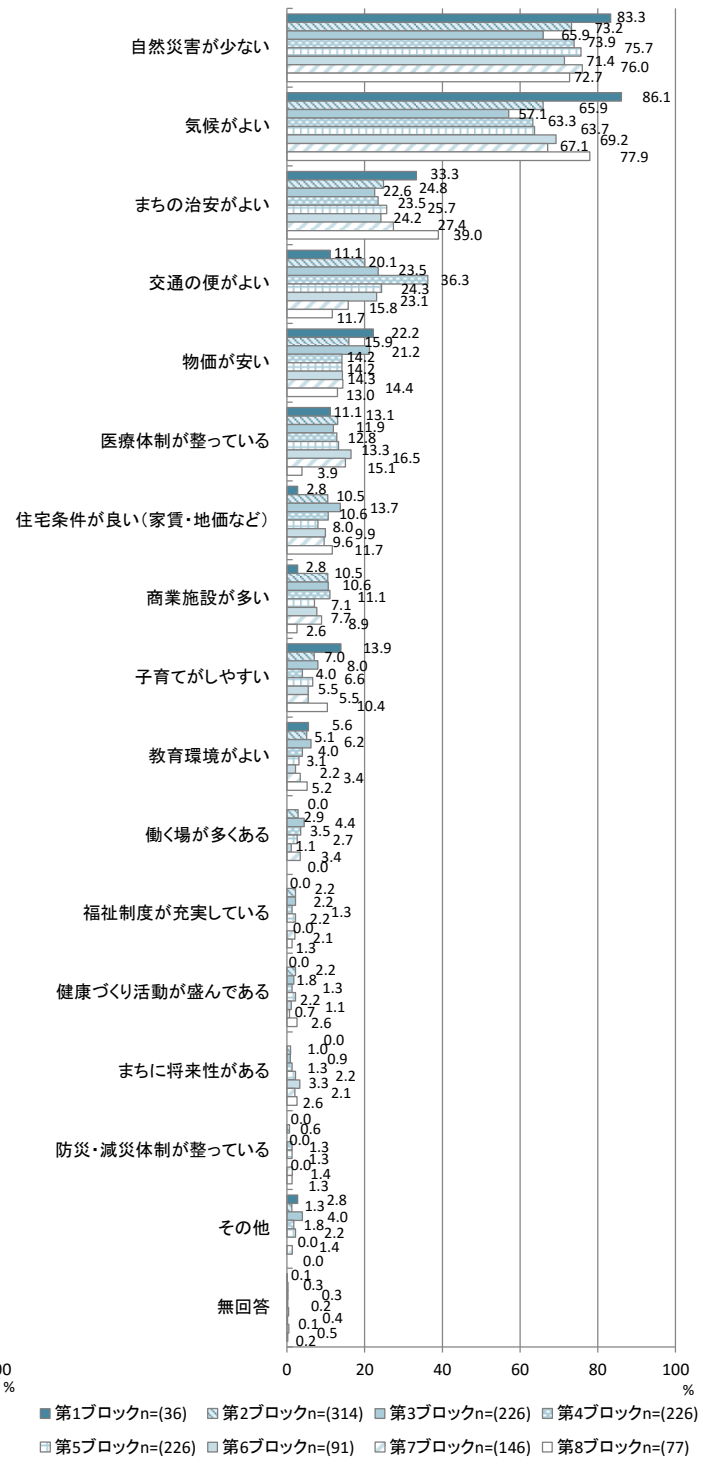
＜性別＞



＜年齢別＞


自然災害が少ない
52.1 64.4 67.3 73.1 81.9 83.3
気候がよい
58.3 65.4 63.4 69.4 67.5 64.2
まちの治安がよい
34.7 26.1 25.6 27.8 22.9 22.4
交通の便がよい
24.3 18.1 16.6 20.7 25.1 30.1
物価が安い
20.8 13.3 16.1 16.9 16.2 13.4
医療体制が整っている
3.5 3.7 8.3 11.2 16.6 23.7
住宅条件が良い（家賃・地価など）
20.1 13.8 14.1 11.2 7.0 3.0
商業施設が多い
10.4 14.4 9.3 7.4 10.0 5.7
子育てがしやすい
2.1 9.0 14.1 7.4 4.8 3.3
教育環境がよい
4.2 4.3 4.9 5.0 3.7 4.3
働く場が多くある
5.6 2.7 2.9 4.1 3.3 0.7
福祉制度が充実している
1.4 2.1 0.5 0.8 0.7 4.3
健康づくり活動が盛んである
0.0 1.1 0.5 0.4 3.0 3.7
まちに将来性がある
1.4 1.6 1.5 1.7 0.7 2.3
防災・減災体制が整っている
0.0 0.0 2.0 0.4 0.4 1.7 0.0
その他
3.2 3.9 2.5 0.4 1.7
無回答
0.3 0.3 0.4 0.3 0.5 0.4
0 20 40 60 80 100
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

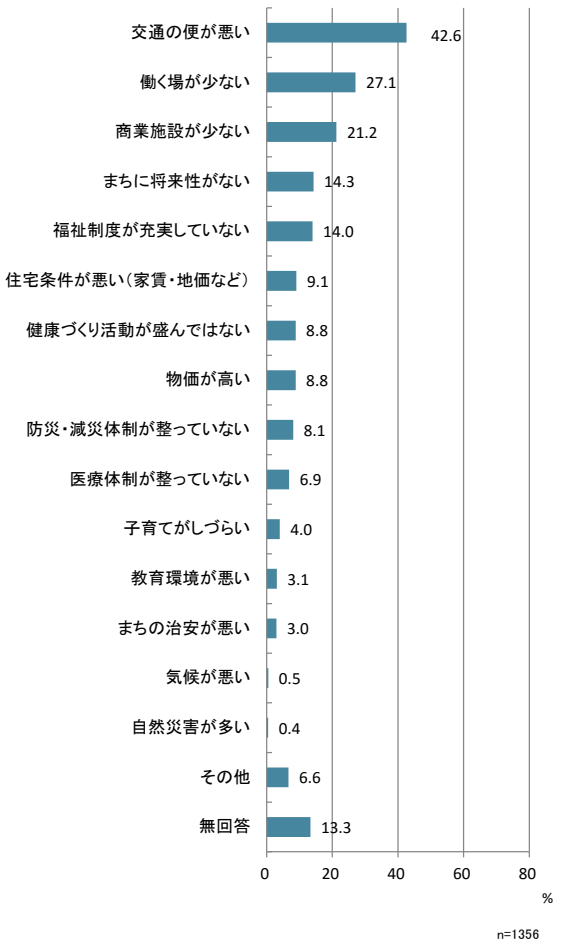
＜地域別＞


自然災害が少ない
83.3 73.2 65.9 73.9 75.7 71.4 76.0 72.7
気候がよい
86.1 65.9 57.1 63.3 63.7 69.2 67.1 77.9
まちの治安がよい
33.3 22.6 24.8 23.5 25.7 24.2 27.4 39.0
交通の便がよい
11.1 20.1 23.5 36.3 24.3 23.1 15.8 11.7
物価が安い
22.2 15.9 21.2 14.2 14.2 14.3 13.0 14.4
医療体制が整っている
11.1 13.1 11.9 12.8 13.3 16.5 15.1 3.9
住宅条件が良い（家賃・地価など）
2.8 10.5 10.6 13.7 8.0 9.9 9.6 11.7
商業施設が多い
2.8 10.5 10.6 11.1 7.1 7.7 8.9 2.6
子育てがしやすい
13.9 7.0 8.0 4.0 6.6 5.5 5.5 10.4
教育環境がよい
5.6 5.1 6.2 4.0 3.1 2.2 3.4 5.2
働く場が多くある
0.0 2.9 4.4 3.5 2.7 1.1 3.4 0.0
福祉制度が充実している
0.0 2.2 2.2 1.3 2.2 0.0 2.1 1.3
健康づくり活動が盛んである
0.0 2.2 1.8 1.3 2.2 1.1 0.7 2.6
まちに将来性がある
0.0 1.0 0.9 1.3 2.2 3.3 2.1 2.6
防災・減災体制が整っている
0.0 0.6 0.0 1.3 0.0 1.3 1.4 1.3
その他
2.8 1.3 4.0 1.8 2.2 0.0 1.4 0.0
無回答
0.1 0.3 0.3 0.2 0.4 0.1 0.5 0.2
0 20 40 60 80 100
%
第1ブロックn=(36)
第2ブロックn=(314)
第3ブロックn=(226)
第4ブロックn=(226)
第5ブロックn=(226)
第6ブロックn=(91)
第7ブロックn=(146)
第8ブロックn=(77)

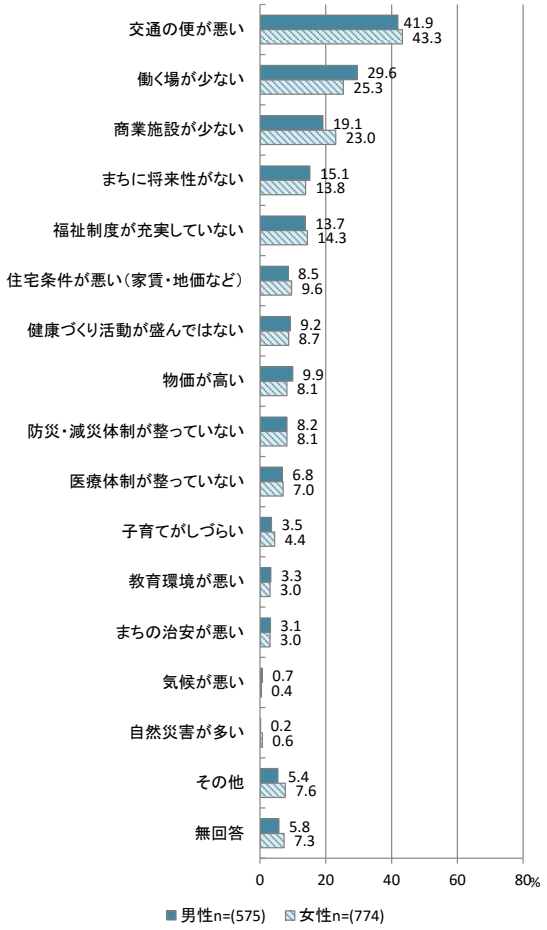
(2)松山市のどのようなところを「住みにくい」と感じるか

- **全体では、「交通の便が悪い」(42.6%)が最も高く、次いで「働く場が少ない」(27.1%)、「商業施設が少ない」(21.2%)、「まちに将来性がない」(14.3%)、「福祉制度が充実していない」(14.0%)と続いた。**
- 性別では、男性、女性いずれも「交通の便が悪い」が4割を超え最も高く、次いで「働く場が少ない」、「商業施設が少ない」の順で続いた。
- 年齢別では、いずれの年代も「交通の便が悪い」が最も高く、20歳代以下、40歳代では5割強に上っている。次いで20歳代以下、30歳代、40歳代では「商業施設が少ない」、「働く場が少ない」、50歳代では「働く場が少ない」、「商業施設が少ない」、60歳代では「働く場が少ない」、「福祉制度が充実していない」、70歳以上では「働く場が少ない」、「健康づくり活動が盛んではない」と続いた。全ての年代で上位3位までに挙げられた「働く場が少ない」は50歳代で35.5%と最も高く、次いで70歳以上29.4%、60歳代28.0%と続いた。「健康づくり活動が盛んではない」は60歳代、70歳以上で1割を超え、他の年代の1割以下に比べ高い。
- 地域別では、第8ブロック以外のいずれの地域も「交通の便が悪い」が最も高く、第1ブロックでは6割強に上っている。次いで「働く場が少ない」、「商業施設が少ない」が続いた。第8ブロックでは「交通の便が悪い」及び「働く場が少ない」が同率45.5%で最も高く、特に「働く場が少ない」は他の地域に比べ12ポイント以上高くなっている。

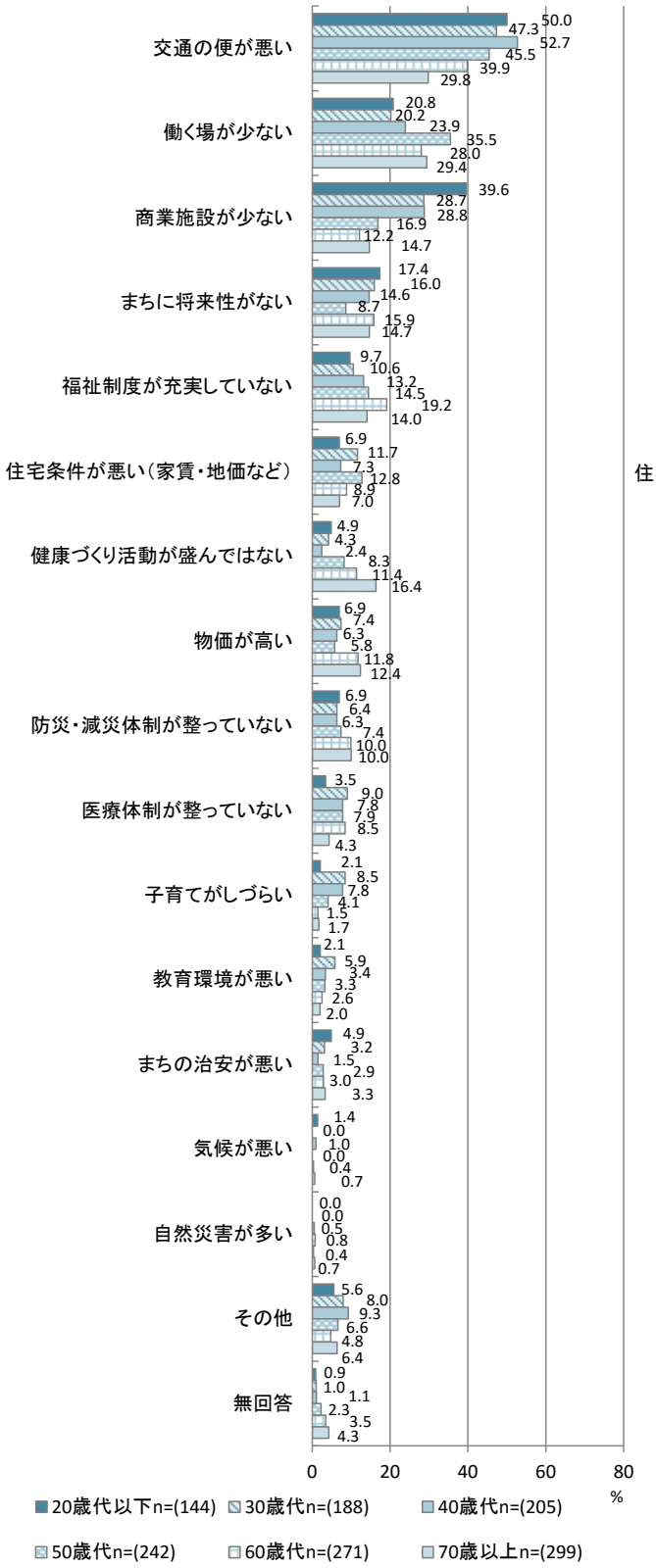
＜全体＞



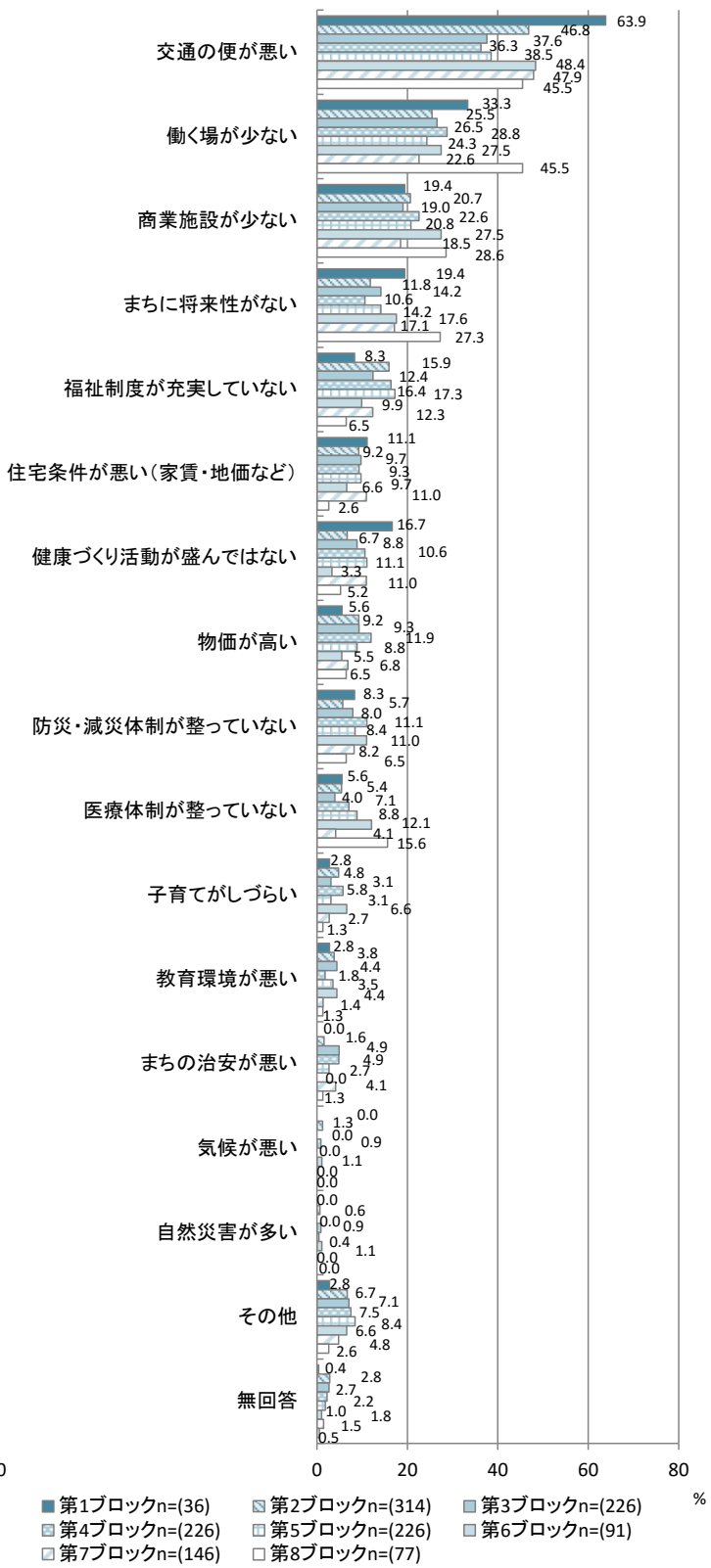
＜性別＞



＜年齢別＞

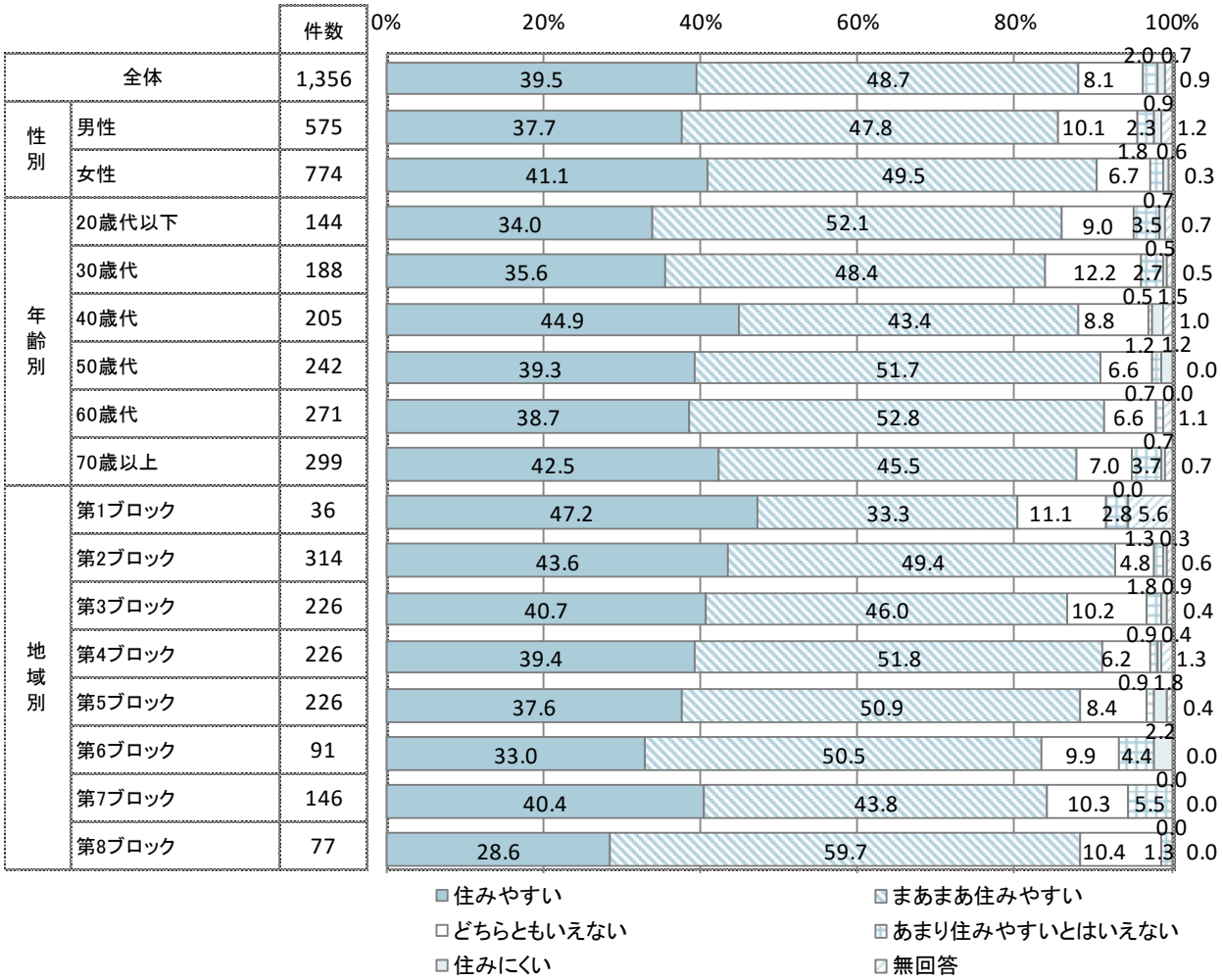

交通の便が悪い
50.0
47.3
52.7
45.5
39.9
29.8
働く場が少ない
20.8
20.2
23.9
35.5
28.0
29.4
商業施設が少ない
39.6
28.7
28.8
16.9
12.2
14.7
まちに将来性がない
17.4
16.0
14.6
8.7
15.9
14.7
福祉制度が充実していない
9.7
10.6
13.2
14.5
19.2
14.0
住宅条件が悪い（家賃・地価など）
6.9
11.7
7.3
12.8
8.9
7.0
健康づくり活動が盛んではない
4.9
4.3
2.4
8.3
11.4
16.4
物価が高い
6.9
7.4
6.3
5.8
11.8
12.4
防災・減災体制が整っていない
6.9
6.4
6.3
7.4
10.0
10.0
医療体制が整っていない
3.5
9.0
7.8
7.9
8.5
4.3
子育てがしづらい
2.1
8.5
7.8
4.1
1.5
1.7
教育環境が悪い
2.1
5.9
3.4
3.3
2.6
2.0
まちの治安が悪い
4.9
3.2
1.5
2.9
3.0
3.3
気候が悪い
1.4
0.0
1.0
0.0
0.4
0.7
自然災害が多い
0.0
0.0
0.5
0.8
0.4
0.7
その他
5.6
8.0
9.3
6.6
4.8
6.4
無回答
0.9
1.0
1.1
2.3
3.5
4.3
0
20
40
60
80
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

＜地域別＞


交通の便が悪い
63.9
46.8
36.3
37.6
38.5
48.4
47.9
45.5
働く場が少ない
33.3
25.5
26.5
28.8
24.3
27.5
22.6
45.5
商業施設が少ない
19.4
20.7
19.0
22.6
20.8
27.5
18.5
28.6
まちに将来性がない
19.4
11.8
14.2
10.6
14.2
17.6
17.1
27.3
福祉制度が充実していない
8.3
15.9
12.4
16.4
17.3
9.9
12.3
6.5
住宅条件が悪い（家賃・地価など）
11.1
9.2
9.7
9.3
6.6
9.7
11.0
2.6
健康づくり活動が盛んではない
16.7
6.7
8.8
10.6
11.1
3.3
11.0
5.2
物価が高い
5.6
9.2
9.3
11.9
8.8
5.5
6.8
6.5
防災・減災体制が整っていない
8.3
5.7
8.0
11.1
8.4
11.0
8.2
6.5
医療体制が整っていない
5.6
5.4
4.0
7.1
8.8
12.1
4.1
15.6
子育てがしづらい
2.8
4.8
3.1
5.8
3.1
6.6
2.7
1.3
教育環境が悪い
2.8
3.8
4.4
1.8
3.5
4.4
1.4
1.3
まちの治安が悪い
0.0
1.6
4.9
4.9
2.7
0.0
4.1
1.3
気候が悪い
1.3
0.0
0.0
0.9
0.0
1.1
0.0
0.0
自然災害が多い
0.0
0.6
0.0
0.9
0.4
1.1
0.0
0.0
その他
2.8
6.7
7.1
7.5
8.4
6.6
4.8
2.6
無回答
0.4
2.8
2.7
2.2
1.0
1.8
1.5
0.5
0
20
40
60
80
%
第1ブロックn=(36)
第2ブロックn=(314)
第3ブロックn=(226)
第4ブロックn=(226)
第5ブロックn=(226)
第6ブロックn=(91)
第7ブロックn=(146)
第8ブロックn=(77)

(3)松山市は住みやすいまちか

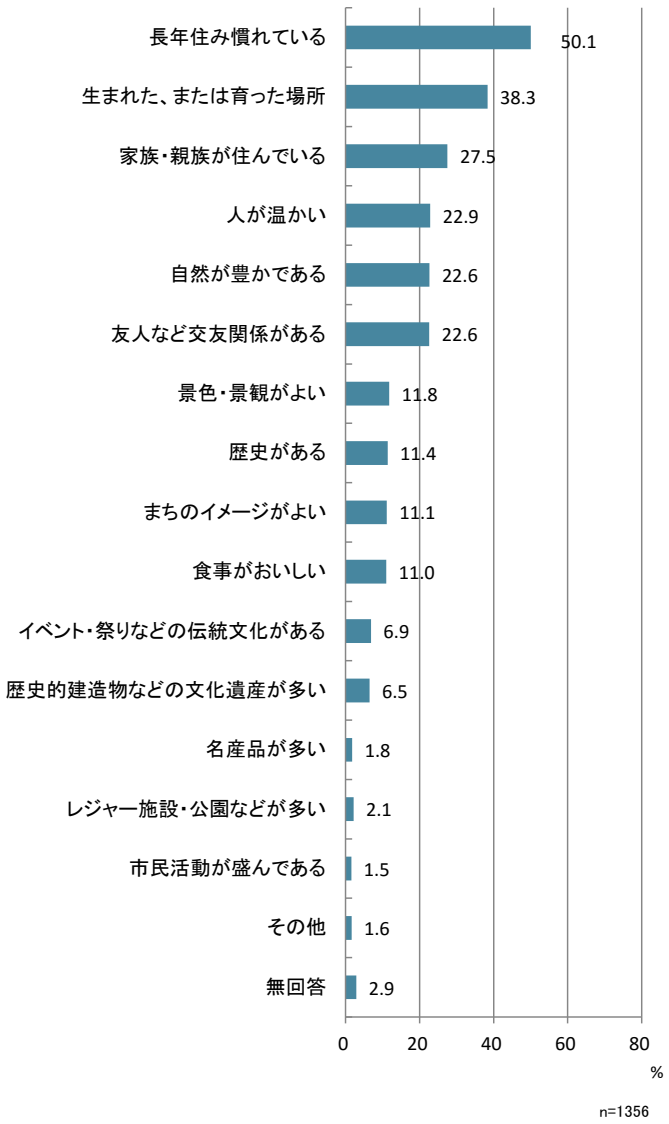
- **全体では、「まあまあ住みやすい」が 48.7%で最も高く、次いで「住みやすい」が 39.5%と続き、合わせて 88.2%が『住みやすい』と感じている。**
- 前年調査時（H27 年度）との比較では、『住みやすい』は 0.4 ポイントの微減であるが、そのうち、「住みやすい」は 0.8 ポイント減少し、「まあまあ住みやすい」は 0.4 ポイント増加した。
- 性別では、『住みやすい』は男性 85.5%、女性 90.6%で、いずれも 8 割半ばを超えている。
- 年齢別では、全ての年代で『住みやすい』が 8 割を超え、50 歳代及び 60 歳代では 9 割を超えている。唯一 40 歳代で 1.5 ポイントの僅差ながら「住みやすい」が「まあまあ住みやすい」を上回った。
- 地域別では、全てのブロックで『住みやすい』が 8 割を超え、中でも第 2 ブロック、第 4 ブロックでは 9 割を超えている。第 5 ブロック、第 6 ブロックでは「住みにくい」がそれぞれ 1.8%、2.2%と、他の地域に比べやや高くなっている。



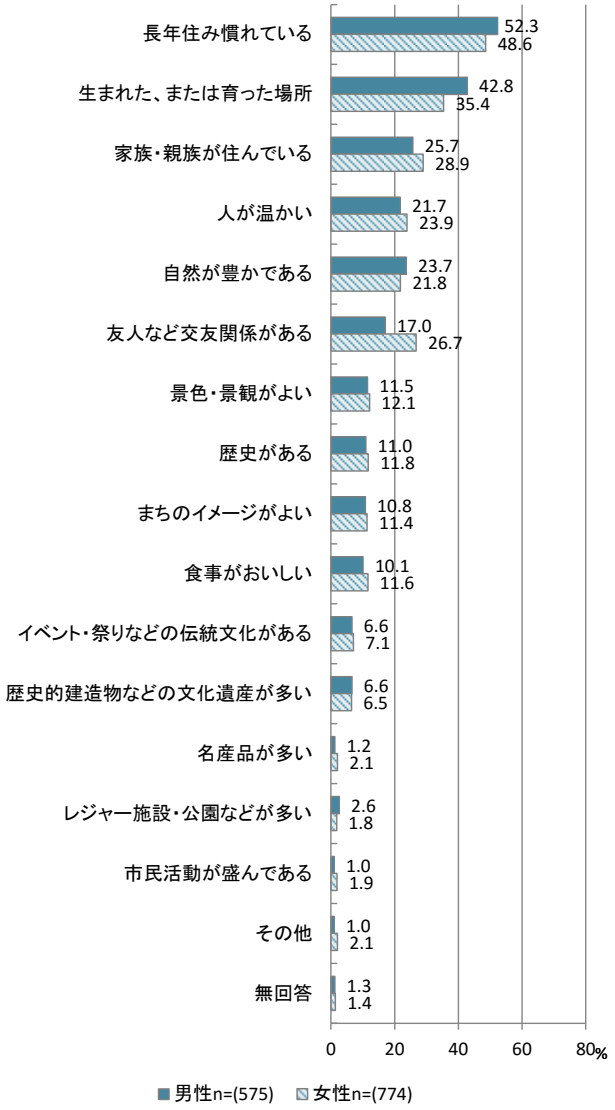
(4) 松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じるか

- **全体では、「長年住み慣れている」(50.1%) が唯一 5 割を超え、次いで「生まれた、または育った場所」(38.3%)、「家族・親族が住んでいる」(27.5%)、「人が温かい」(22.9%)、「自然が豊かである」、「友人など交友関係がある」(ともに 22.6%) と続いた。**
- 性別では、「長年住み慣れている」が男性 52.3%、女性 48.6%で男女ともに最も高く、次いで、「生まれた、または育った場所」、「家族・親族が住んでいる」と続いた。「友人など交友関係がある」では、女性 26.7%が男性 17.0%を約 10 ポイント上回っている。
- 年齢別では、20 歳代以下、30 歳代で「生まれた、または育った場所」が最も高く、次いで 20 歳代以下では「長年住み慣れている」、「友人など交友関係がある」と続き、30 歳代では「長年住み慣れている」、「家族・親族が住んでいる」と続いた。40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「長年住み慣れている」が最も高く、次いで 40 歳代、50 歳代、60 歳代では「生まれた、または育った場所」、70 歳以上では「自然が豊かである」がそれぞれ続いた。
- 地域別では、第 8 ブロック以外の全ての地域で「長年住み慣れている」が最も高く、次いで「生まれた、または育った場所」となっている。第 8 ブロックでは「生まれた、または育った場所」が最も高く、次いで「自然が豊かである」、「長年住み慣れている」の順に続いた。

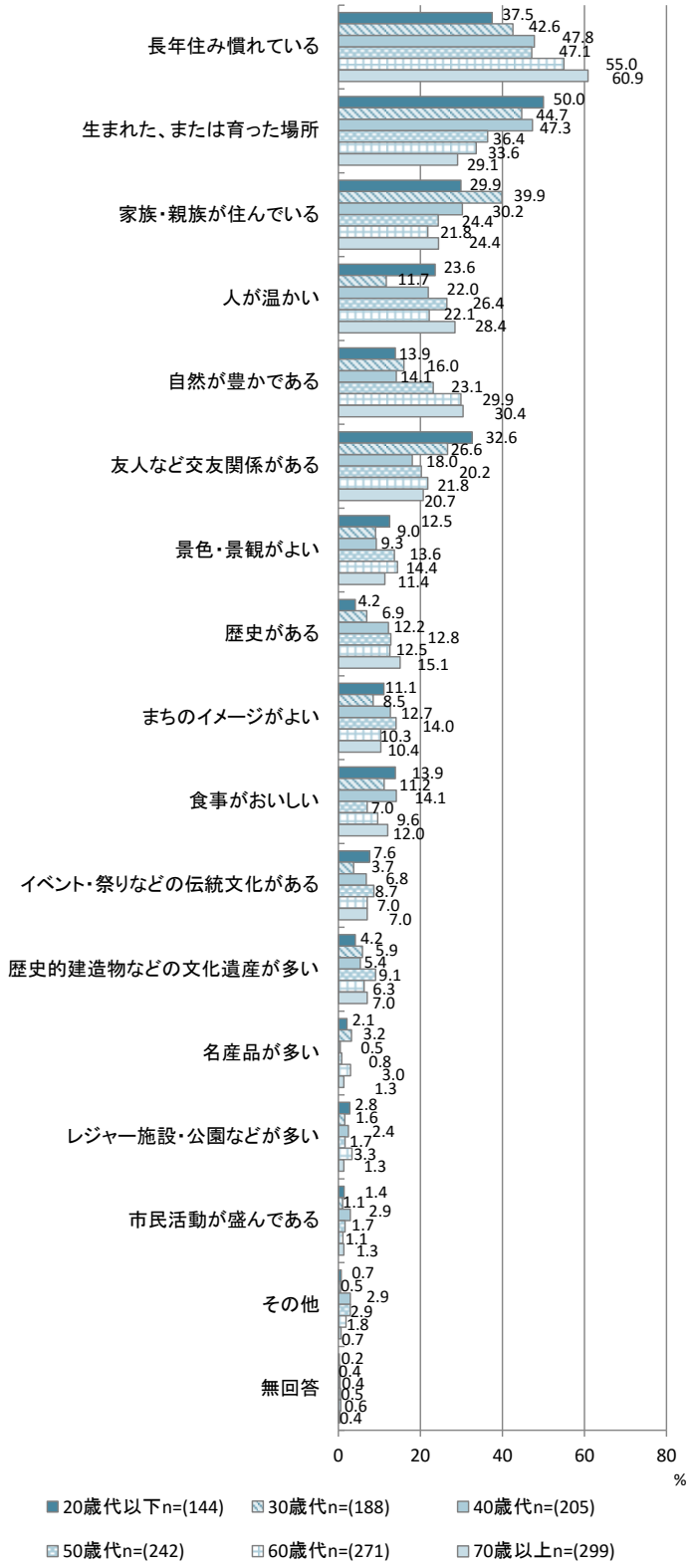
＜全体＞



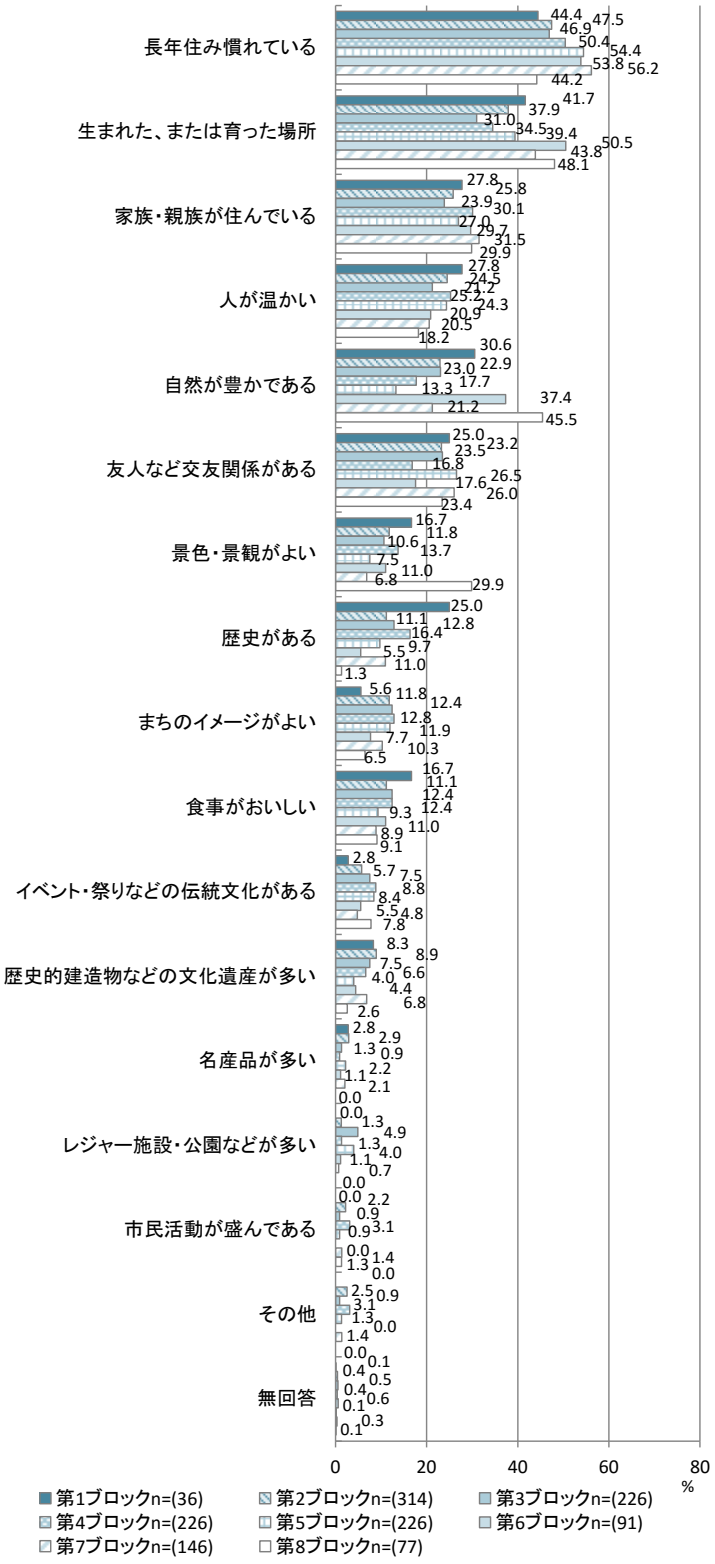
＜性別＞



＜年齢別＞


長年住み慣れている
37.5 42.6 47.8 47.1 55.0 60.9
生まれた、または育った場所
50.0 44.7 47.3 36.4 33.6 29.1
家族・親族が住んでいる
29.9 39.9 30.2 24.4 21.8 24.4
人が温かい
23.6 11.7 22.0 26.4 22.1 28.4
自然が豊かである
13.9 16.0 14.1 23.1 29.9 30.4
友人など交友関係がある
32.6 26.6 18.0 20.2 21.8 20.7
景色・景観がよい
12.5 9.0 9.3 13.6 14.4 11.4
歴史がある
4.2 6.9 12.2 12.8 12.5 15.1
まちのイメージがよい
11.1 8.5 12.7 14.0 10.3 10.4
食事がおいしい
13.9 11.2 14.1 7.0 9.6 12.0
イベント・祭りなどの伝統文化がある
7.6 3.7 6.8 8.7 7.0 7.0
歴史的建造物などの文化遺産が多い
4.2 5.9 5.4 9.1 6.3 7.0
名産品が多い
2.1 3.2 0.5 0.8 3.0 1.3
レジャー施設・公園などが多い
2.8 1.6 2.4 1.7 3.3 1.3
市民活動が盛んである
1.4 1.1 2.9 1.7 1.1 1.3
その他
0.7 0.5 2.9 2.9 1.8 0.7
無回答
0.2 0.4 0.4 0.5 0.6 0.4
0 20 40 60 80
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

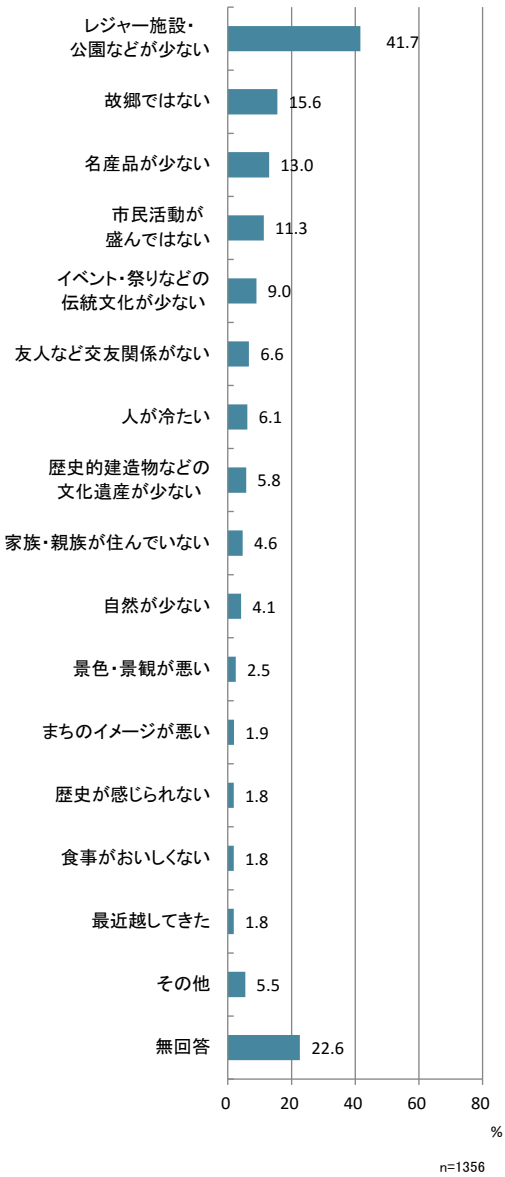
＜地域別＞


長年住み慣れている
44.4 47.5 46.9 50.4 54.4 53.8 56.2 44.2
生まれた、または育った場所
41.7 37.9 31.0 34.5 39.4 50.5 43.8 48.1
家族・親族が住んでいる
27.8 25.8 23.9 30.1 27.0 29.7 31.5 29.9
人が温かい
27.8 24.5 21.2 25.2 24.3 20.9 20.5 18.2
自然が豊かである
30.6 22.9 23.0 17.7 13.3 37.4 21.2 45.5
友人など交友関係がある
25.0 23.2 23.5 16.8 17.6 26.5 26.0 23.4
景色・景観がよい
16.7 11.8 10.6 13.7 7.5 11.0 6.8 29.9
歴史がある
25.0 11.1 12.8 16.4 9.7 5.5 11.0 1.3
まちのイメージがよい
5.6 11.8 12.4 12.8 11.9 7.7 10.3 6.5
食事がおいしい
16.7 11.1 12.4 12.4 9.3 11.0 8.9 9.1
イベント・祭りなどの伝統文化がある
2.8 5.7 7.5 8.8 8.4 5.5 4.8 7.8
歴史的建造物などの文化遺産が多い
8.3 8.9 7.5 6.6 4.0 4.4 6.8 2.6
名産品が多い
2.8 2.9 1.3 0.9 2.2 1.1 2.1 0.0
レジャー施設・公園などが多い
0.0 1.3 4.9 1.3 4.0 1.1 0.7 0.0
市民活動が盛んである
0.0 2.2 0.9 0.9 3.1 0.0 1.4 1.3
その他
0.0 2.5 0.9 3.1 1.3 0.0 1.4 0.0
無回答
0.0 0.1 0.4 0.5 0.4 0.6 0.1 0.3 0.1
0 20 40 60 80
%
第1ブロックn=(36)
第2ブロックn=(314)
第3ブロックn=(226)
第4ブロックn=(226)
第5ブロックn=(226)
第6ブロックn=(91)
第7ブロックn=(146)
第8ブロックn=(77)

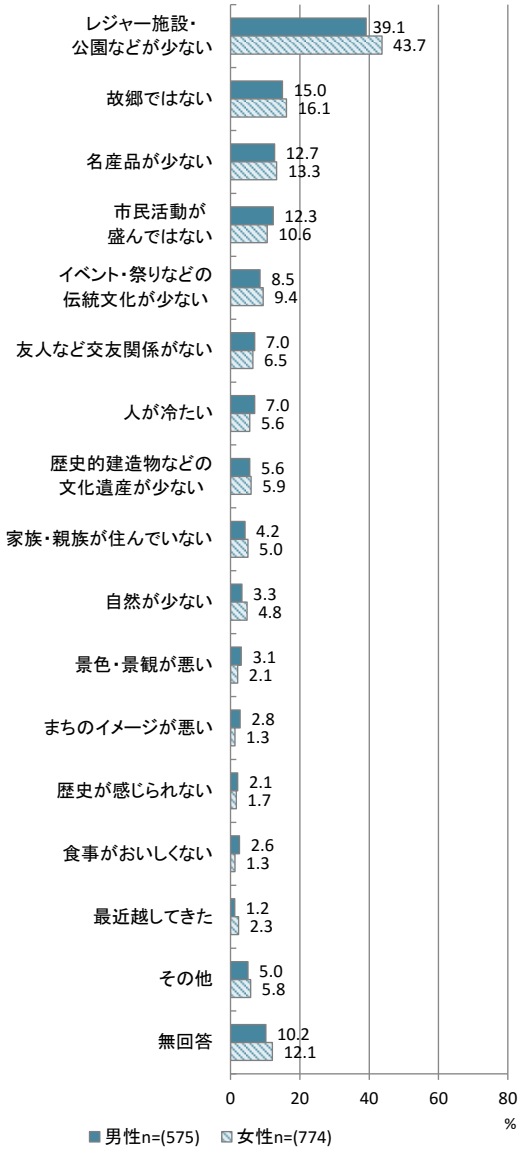
(5)松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくいか

- **全体では、「レジャー施設・公園などが少ない」(41.7%) が 4 割台と際立っている。以下、「故郷ではない」(15.6%)、「名産品が少ない」(13.0%)、「市民活動が盛んではない」(11.3%)、「イベント・祭りなどの伝統文化が少ない」(9.0%) と続いた。**
- 性別では、男性、女性ともに「レジャー施設・公園などが少ない」4 割前後で最も高く、次いで「故郷ではない」、「名産品が少ない」の順に続いた。
- 年齢別では、全ての年代で「レジャー施設・公園などが少ない」が突出して高く、特に 20 歳代以下、40 歳代ではともに 5 割を超えている。70 歳以上を除いて、「故郷ではない」、「名産品が少ない」は上位 3 位以内に挙げられている。「市民活動が盛んではない」は 50 歳代、60 歳代、70 歳以上で 1 割を超え、他の年代に比べ高くなっている。「歴史的建造物などの文化遺産が少ない」は唯一 60 歳代で 1 割を超えた。
- 地域別では、全てのブロックで「レジャー施設・公園などが少ない」が最も高いものの、第 3 ブロックでは 35.8%、第 6 ブロックで 50.5%と、地域間で差が開いている。「名産品が少ない」は第 1 ブロック、第 8 ブロックで 2 割を超え比較的高く、「イベント・祭りなどの伝統文化が少ない」は第 1 ブロック、第 6 ブロックで 1 割を超え比較的高くなっている。

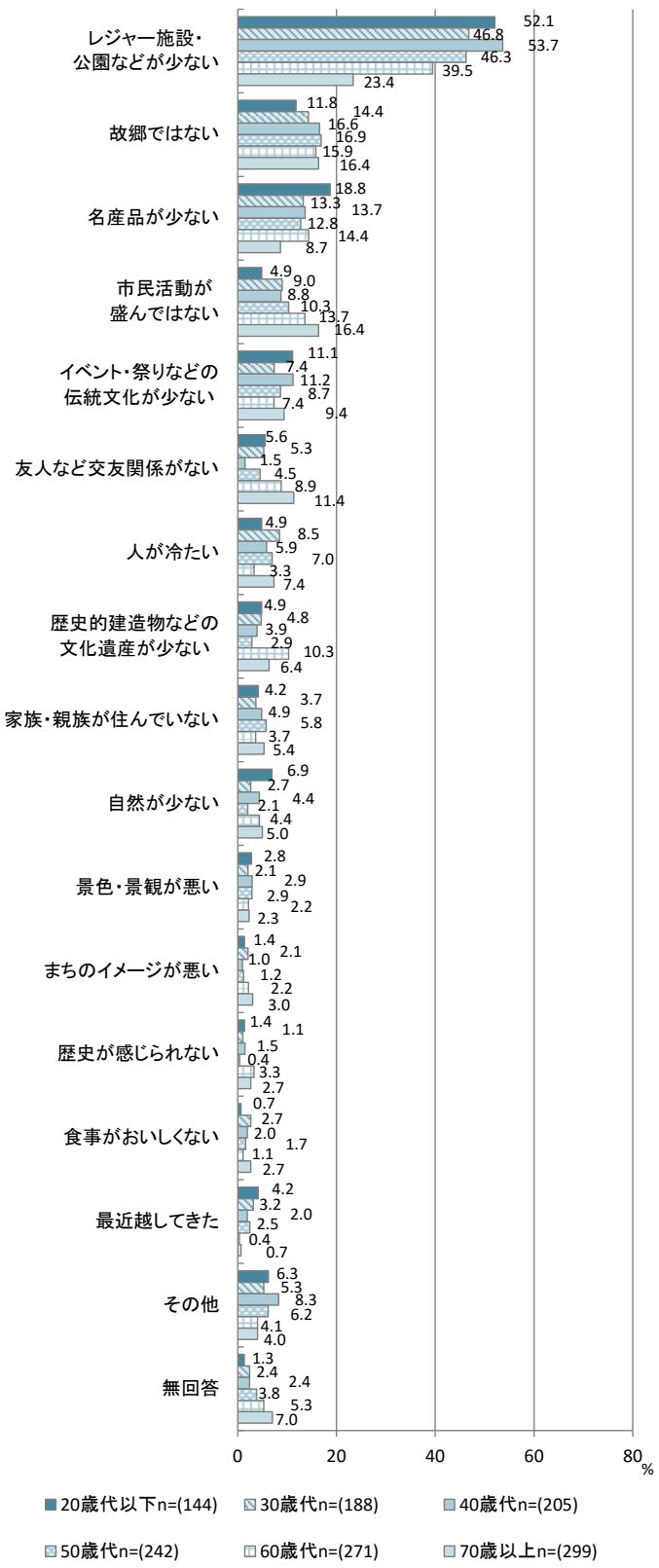
＜全体＞



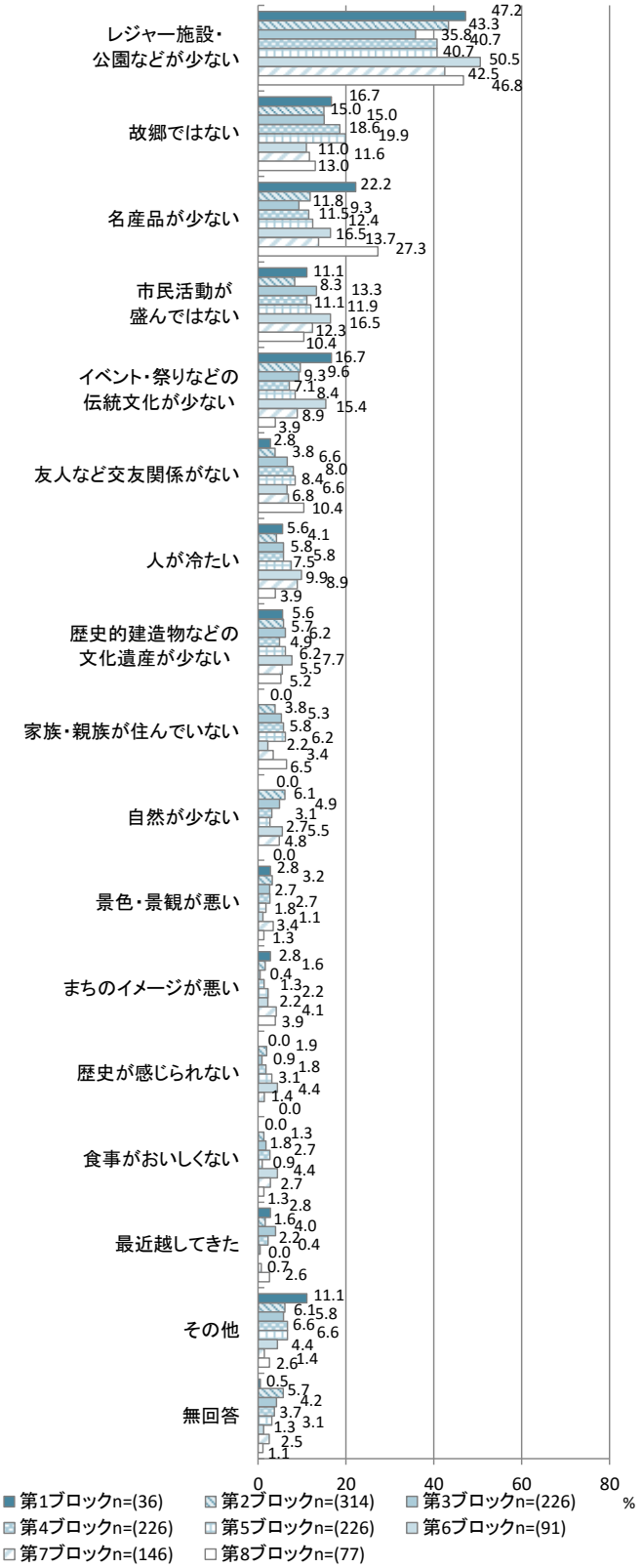
＜性別＞



＜年齢別＞

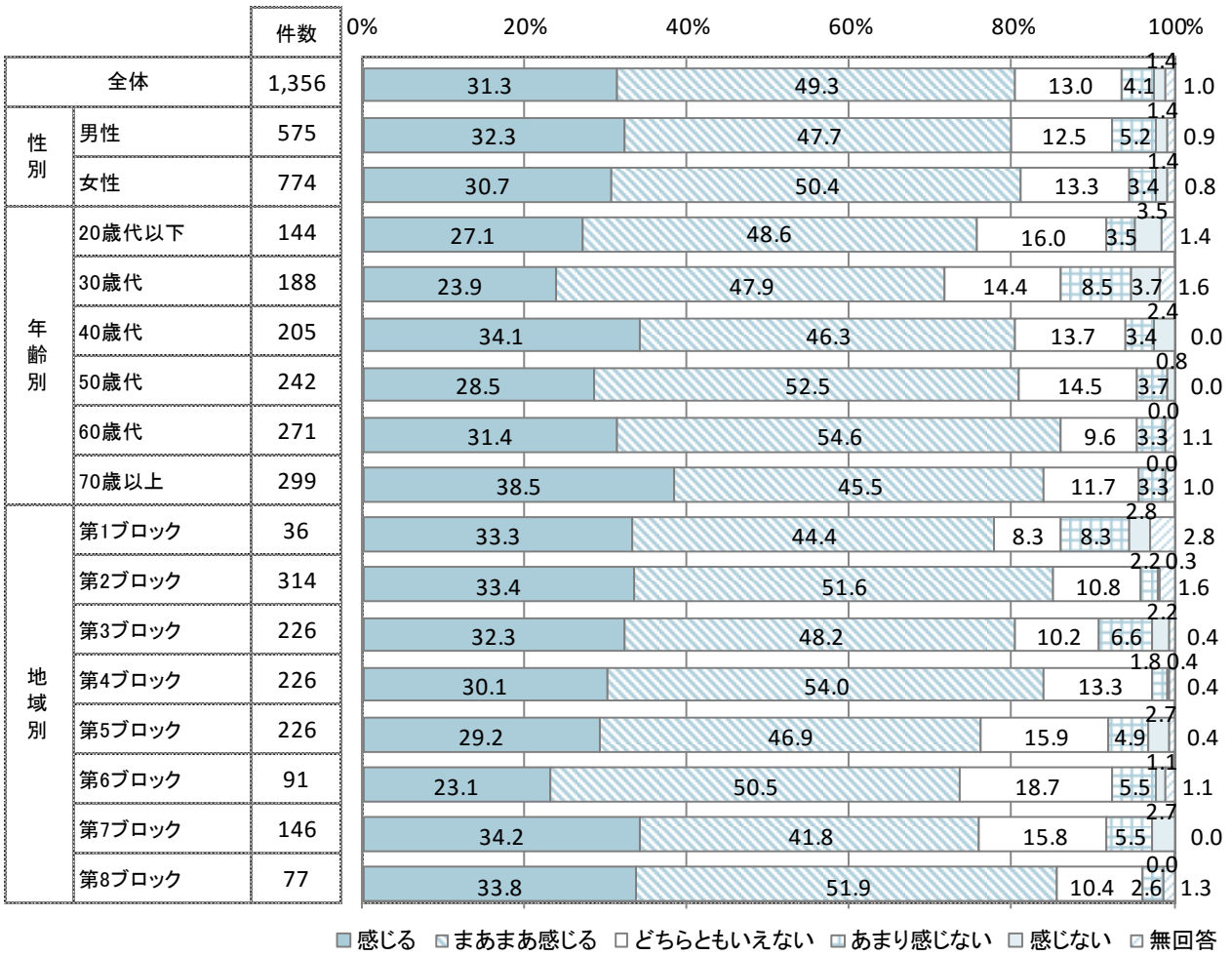

レジャー施設・公園などが少ない
52.1
46.8
53.7
46.3
39.5
23.4
故郷ではない
11.8
14.4
16.6
16.9
15.9
16.4
名産品が少ない
18.8
13.3
13.7
12.8
14.4
8.7
市民活動が盛んではない
4.9
9.0
8.8
10.3
13.7
16.4
イベント・祭りなどの伝統文化が少ない
11.1
7.4
11.2
8.7
7.4
9.4
友人など交友関係がない
5.6
5.3
1.5
4.5
8.9
11.4
人が冷たい
4.9
8.5
5.9
7.0
3.3
7.4
歴史的建造物などの文化遺産が少ない
4.9
4.8
3.9
2.9
10.3
6.4
家族・親族が住んでいない
4.2
3.7
4.9
5.8
3.7
5.4
自然が少ない
6.9
2.7
4.4
2.1
4.4
5.0
景色・景観が悪い
2.8
2.1
2.9
2.9
2.2
2.3
まちのイメージが悪い
1.4
2.1
1.0
1.2
2.2
3.0
歴史が感じられない
1.4
1.1
1.5
0.4
3.3
2.7
食事がおいしくない
0.7
2.7
2.0
1.7
1.1
2.7
最近越してきた
4.2
3.2
2.0
2.5
0.4
0.7
その他
6.3
5.3
8.3
6.2
4.1
4.0
無回答
1.3
2.4
2.4
3.8
5.3
7.0
0
20
40
60
80
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

＜地域別＞


レジャー施設・公園などが少ない
47.2
43.3
35.8
40.7
40.7
50.5
42.5
46.8
故郷ではない
16.7
15.0
15.0
18.6
19.9
11.0
11.6
13.0
名産品が少ない
22.2
11.8
9.3
11.5
12.4
16.5
13.7
27.3
市民活動が盛んではない
11.1
8.3
13.3
11.1
11.9
16.5
12.3
10.4
イベント・祭りなどの伝統文化が少ない
16.7
9.3
9.6
7.1
8.4
15.4
8.9
3.9
友人など交友関係がない
2.8
3.8
6.6
8.0
8.4
6.6
6.8
10.4
人が冷たい
5.6
4.1
5.8
5.8
7.5
9.9
8.9
3.9
歴史的建造物などの文化遺産が少ない
5.6
5.7
6.2
4.9
6.2
7.7
5.5
5.2
0.0
家族・親族が住んでいない
3.8
5.3
5.8
6.2
2.2
3.4
6.5
0.0
自然が少ない
6.1
4.9
3.1
2.7
5.5
4.8
0.0
景色・景観が悪い
2.8
3.2
2.7
2.7
1.8
1.1
3.4
1.3
まちのイメージが悪い
2.8
1.6
0.4
1.3
2.2
2.2
4.1
3.9
歴史が感じられない
0.0
1.9
0.9
1.8
3.1
4.4
1.4
0.0
食事がおいしくない
0.0
1.3
1.8
2.7
0.9
4.4
2.7
1.3
最近越してきた
2.8
1.6
4.0
2.2
0.4
0.0
1.0
2.6
その他
11.1
6.1
5.8
6.6
6.6
4.4
1.4
2.6
無回答
0.5
5.7
4.2
3.7
3.1
1.3
2.5
1.1
0
20
40
60
80
%
第1ブロックn=(36)
第2ブロックn=(314)
第3ブロックn=(226)
第4ブロックn=(226)
第5ブロックn=(226)
第6ブロックn=(91)
第7ブロックn=(146)
第8ブロックn=(77)

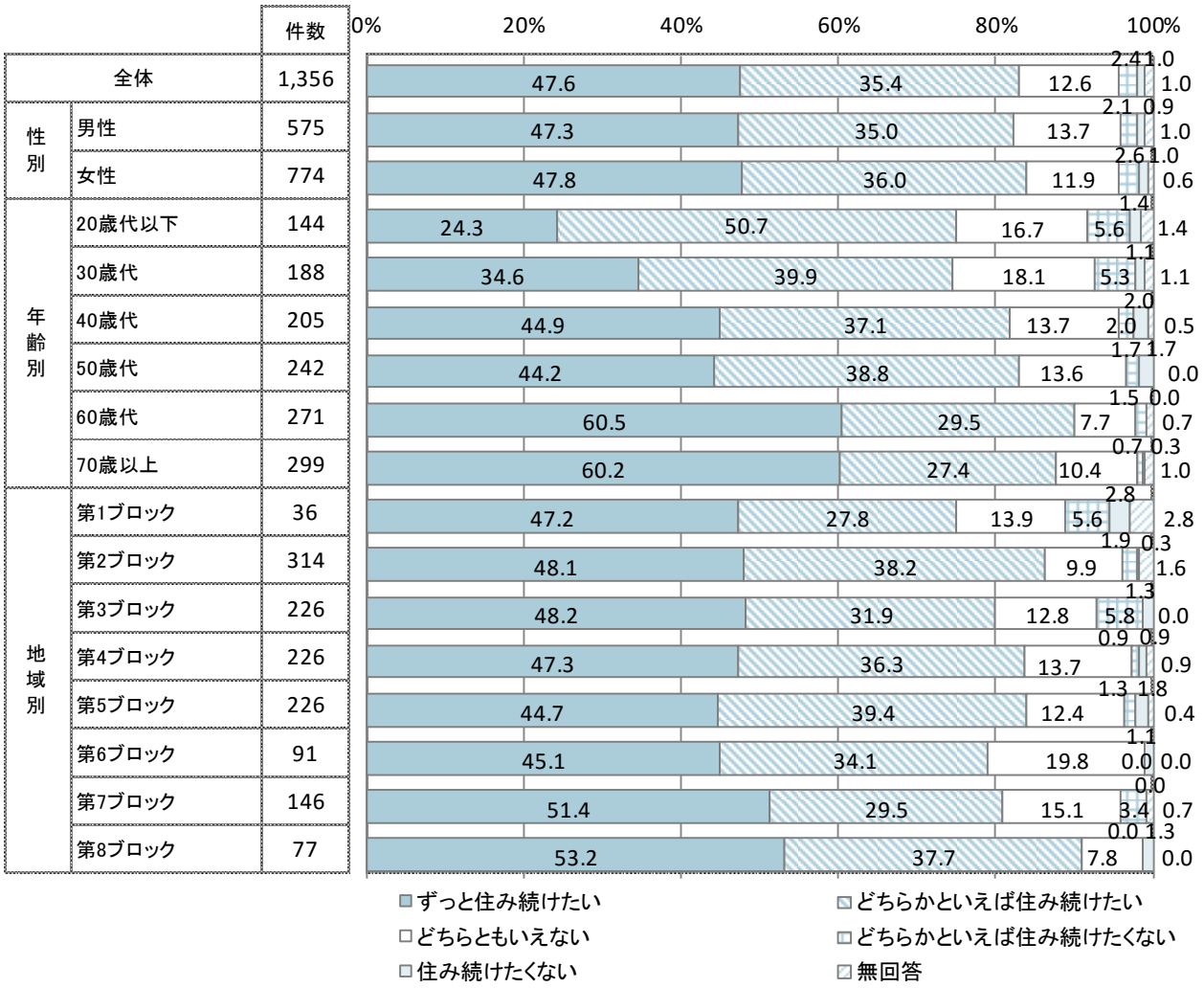
(6)松山市に愛着や誇りを感じるか

- **全体では、「まあまあ感じる」が 49.3%とほぼ半数を占め、次いで「感じる」が 31.3%と続き、合わせて大半の 80.6%が『感じる』と回答している。**
- 性別では、『感じる』は男性 80.0%、女性 81.1%で、いずれも 8 割以上となっている。
- 年齢別では、全ての年代で『感じる』が 7 割を超え、40 歳代以上では 8 割を超えている。「感じる」は 40 歳代、60 歳代、70 歳以上で 3 割を超え、他の年代に比べやや高くなっている。
- 地域別では、全てのブロックで『感じる』が 7 割を超え、第 2 ブロック、第 3 ブロック、第 4 ブロック、第 8 ブロックで 8 割を超えている。第 6 ブロックでは「感じる」が 23.1%と、他のブロックに比べやや低くなっている。



(7)今後も松山市に住み続けたいか

- **全体では、「ずっと住み続けたい」が 47.6%と半数近くを占め、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が 35.4%と続き、合わせて大半の 83.0%が『住み続けたい』と回答している。**
- 前年調査時（H27 年度）との比較では、『住み続けたい』は 0.1 ポイントの減少でほぼ横ばいとなったが、そのうち「ずっと住み続けたい」は 1.1 ポイント増加し、「どちらかといえば住み続けたい」は 1.2 ポイント減少した。
- 性別では、『住み続けたい』は男性 82.3%、女性 83.8%で、いずれも 8 割を超えている。
- 年齢別では、20 歳代以下、30 歳代では「どちらかといえば住み続けたい」が最も高く、次いで「ずっと住み続けたい」が続き、『住み続けたい』は 7 割台となっている。40 歳代以上では「ずっと住み続けたい」が最も高く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が続き、『住み続けたい』は 8 割を超え、特に 60 歳代では 9 割に達している。また、60 歳代、70 歳以上では、「ずっと住み続けたい」が 6 割を超えている。
- 地域別では、全てのブロックで「ずっと住み続けたい」が 4 割超となり、第 7 ブロック、第 8 ブロックでは 5 割を超えている。次いで「どちらかといえば住み続けたい」が続いて、全てのブロックにおいて『住み続けたい』は 7 割を超え、特に第 8 ブロックでは 9 割超となっている。

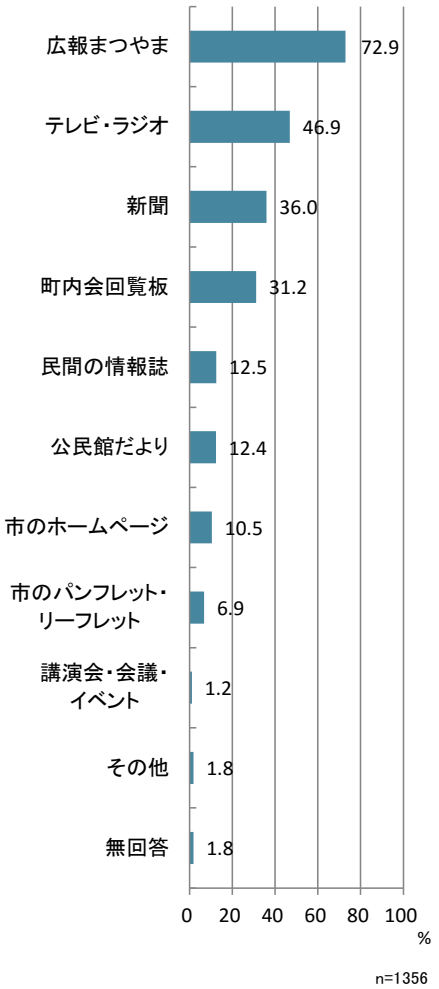


3. 市民の地域づくりへの参加について

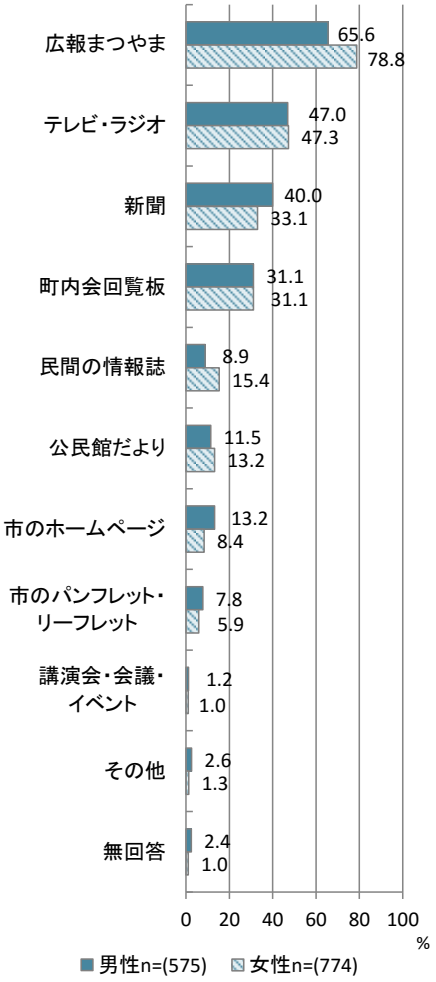
(1)松山市の市政に関する情報源

- **全体では、「広報まつやま」(72.9%) が突出して、次いで「テレビ・ラジオ」(46.9%)、「新聞」(36.0%)、「町内会回覧板」(31.2%) と続いた。**
- 性別では、男性、女性ともに「広報まつやま」、「テレビ・ラジオ」、「新聞」、「町内会回覧板」の順に高かったものの、「広報まつやま」は男性 65.6%、女性 78.8%と、女性が男性を 13.2 ポイント上回り、「新聞」は男性 40.0%、女性 33.1%と、男性が女性を 6.9 ポイント上回った。
- 年齢別では、20 歳代以下を除く全ての年代で「広報まつやま」が最も高く、60 歳代、70 歳以上では 8 割を超えた。次いで 30 歳代、40 歳代、50 歳代では「テレビ・ラジオ」、「新聞」と続き、70 歳以上では「新聞」「テレビ・ラジオ」の順に続いた。60 歳代では「テレビ・ラジオ」、「新聞」、「町内会回覧板」が 43.2%で同率 2 位となった。20 歳代以下では「テレビ・ラジオ」が 6 割を超え最も高く、次いで「広報まつやま」、「新聞」と続いた。
- 地域別では、全ての地域で「広報まつやま」が最も高く、7 割前後に上った。次いで、第 1 ブロック、第 6 ブロックでは「町内会回覧板」、第 8 ブロックでは「新聞」、その他のブロックでは「テレビ・ラジオ」が続いた。第 8 ブロックでは、他のブロックに比べ「公民館だより」や「市のパンフレット・リーフレット」の割合が高かった。

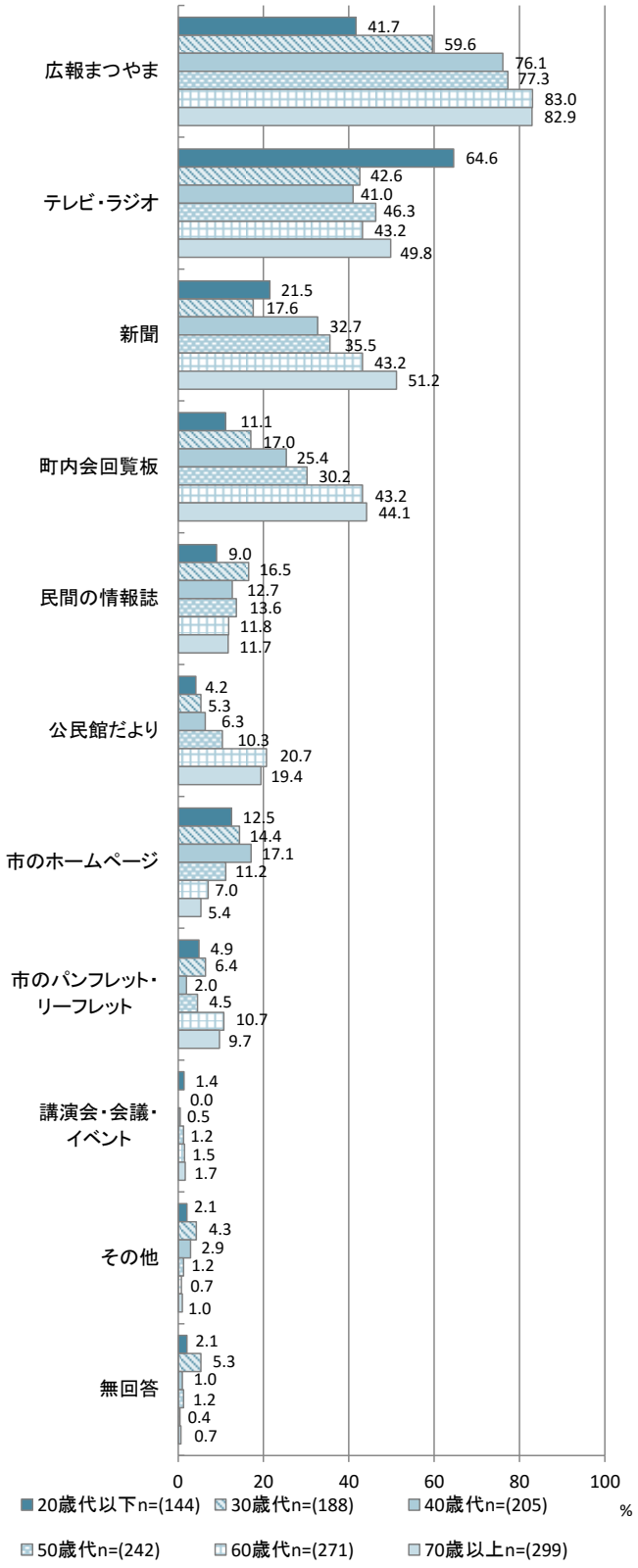
＜全体＞



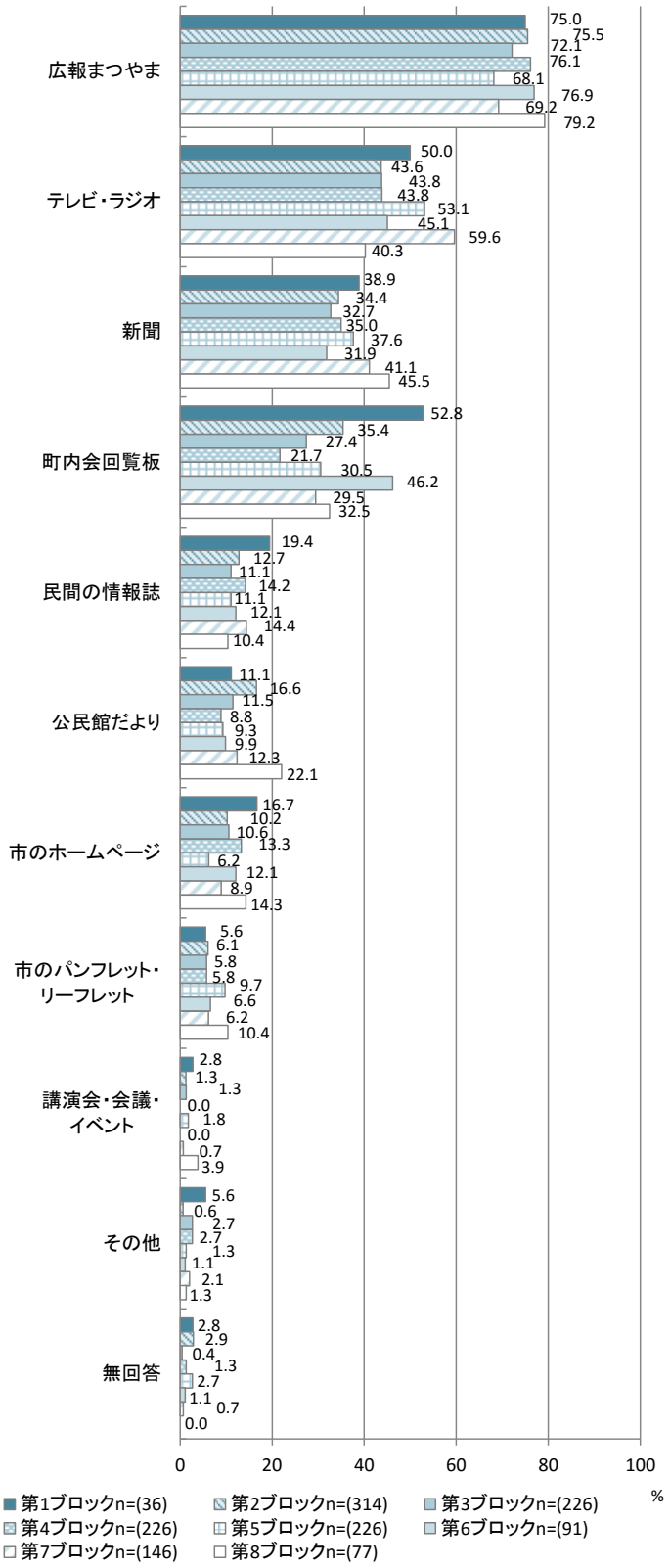
＜性別＞



＜年齢別＞

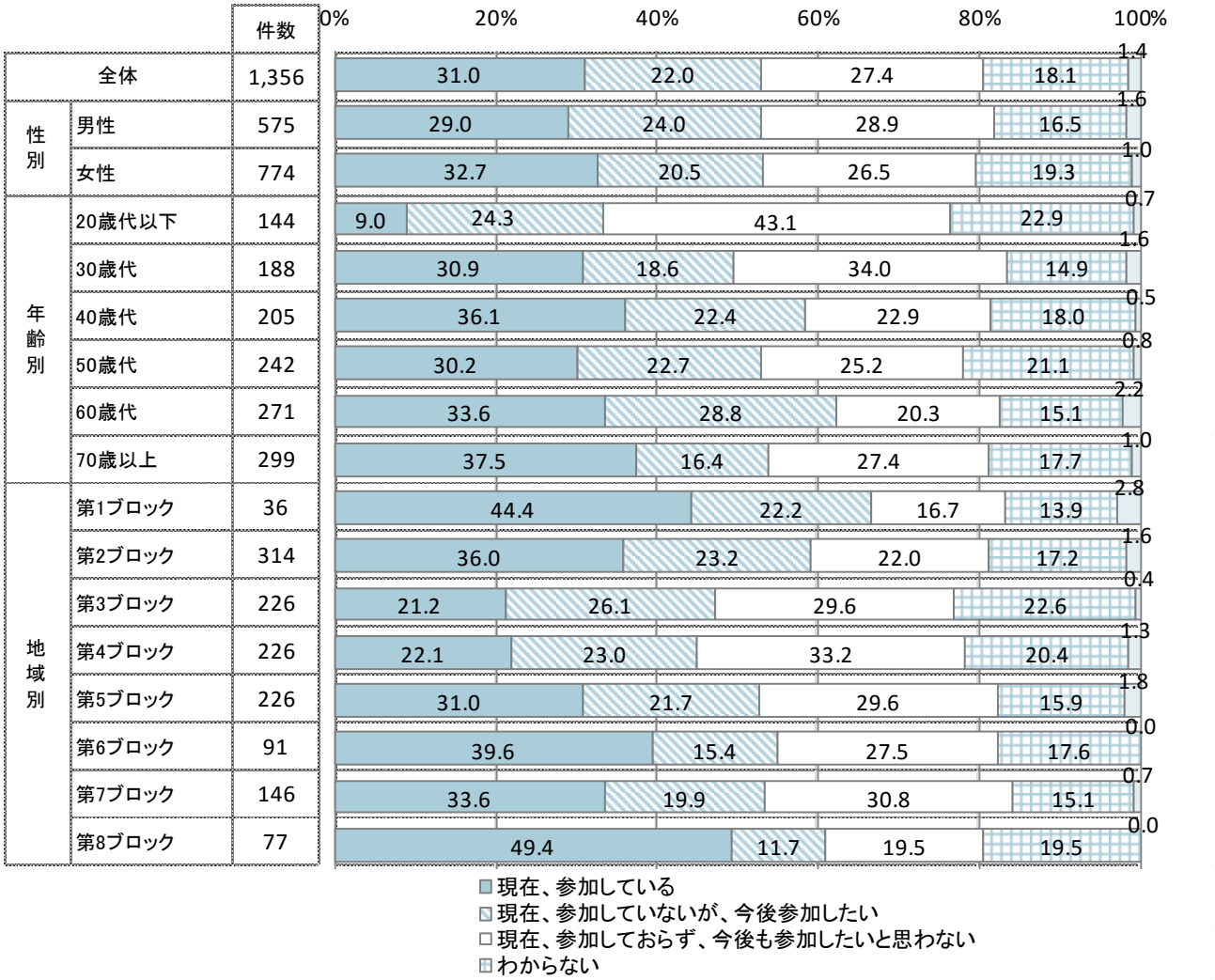

広報まつやま
41.7
59.6
76.1
77.3
83.0
82.9
テレビ・ラジオ
64.6
42.6
41.0
46.3
43.2
49.8
新聞
21.5
17.6
32.7
35.5
43.2
51.2
町内会回覧板
11.1
17.0
25.4
30.2
43.2
44.1
民間の情報誌
9.0
16.5
12.7
13.6
11.8
11.7
公民館だより
4.2
5.3
6.3
10.3
20.7
19.4
市のホームページ
12.5
14.4
17.1
11.2
7.0
5.4
市のパンフレット・リーフレット
4.9
6.4
2.0
4.5
10.7
9.7
講演会・会議・イベント
1.4
0.0
0.5
1.2
1.5
1.7
その他
2.1
4.3
2.9
1.2
0.7
1.0
無回答
2.1
5.3
1.0
1.2
0.4
0.7
0
20
40
60
80
100
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

＜地域別＞


広報まつやま
75.0
75.5
72.1
76.1
68.1
76.9
69.2
79.2
テレビ・ラジオ
50.0
43.6
43.8
43.8
53.1
45.1
59.6
40.3
新聞
38.9
34.4
32.7
35.0
37.6
31.9
41.1
45.5
町内会回覧板
52.8
35.4
27.4
21.7
30.5
46.2
29.5
32.5
民間の情報誌
19.4
12.7
11.1
14.2
11.1
12.1
14.4
10.4
公民館だより
11.1
16.6
11.5
8.8
9.3
9.9
12.3
22.1
市のホームページ
16.7
10.2
10.6
13.3
6.2
12.1
8.9
14.3
市のパンフレット・リーフレット
5.6
6.1
5.8
5.8
9.7
6.6
6.2
10.4
講演会・会議・イベント
2.8
1.3
1.3
0.0
1.8
0.0
0.7
3.9
その他
5.6
0.6
2.7
2.7
1.3
1.1
2.1
1.3
無回答
2.8
2.9
0.4
1.3
2.7
1.1
0.7
0.0
0
20
40
60
80
100
%
第1ブロックn=(36)
第2ブロックn=(314)
第3ブロックn=(226)
第4ブロックn=(226)
第5ブロックn=(226)
第6ブロックn=(91)
第7ブロックn=(146)
第8ブロックn=(77)

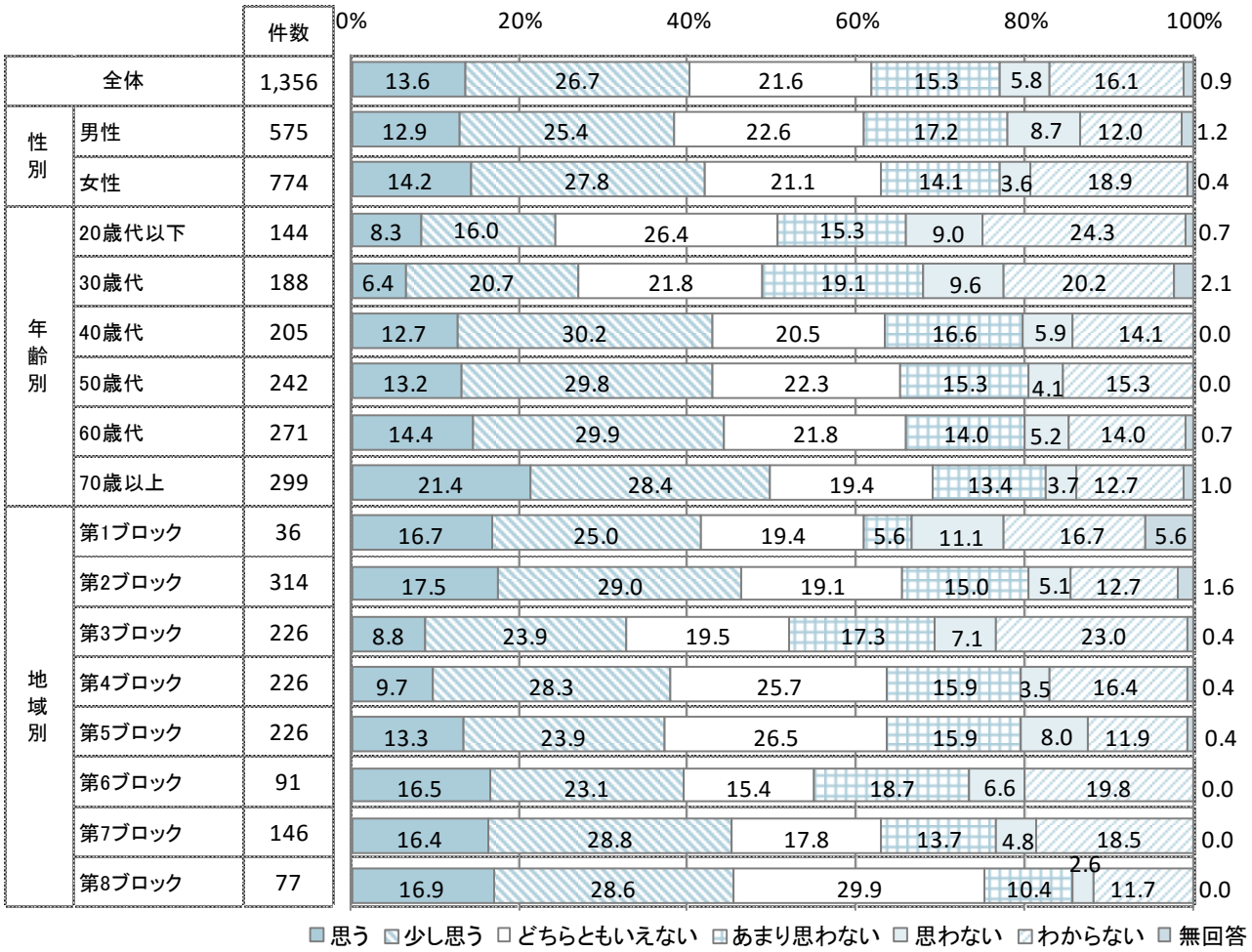
(2)地域活動への参加状況

- **全体では、「現在、参加している」が 31.0%で最も高く、次いで「現在、参加しておらず、今後も参加したいと思わない」が 27.4%、「現在、参加していないが、今後参加したい」22.0%と続いた。**
- 性別では、「現在、参加している」は男性 29.0%、女性 32.7%で、ともに 3 割前後となった。その他の割合についても男女間で大きな違いはみられない。
- 年齢別では、40 歳代以上では「現在、参加している」が 3 割を超え最も高くなっている。その一方で、20 歳代以下、30 歳代では「現在、参加しておらず、今後も参加したいと思わない」が最も高くなり、それぞれ 43.1%、34.0%を占めた。また、20 歳代以下で「現在、参加している」は 9.0%にとどまった。
- 地域別では、第 3 ブロック、第 4 ブロックを除いた全てのブロックで「現在、参加している」が最も高く、特に第 1 ブロック、第 8 ブロックでは 4 割を超えた。一方、第 3 ブロック、第 4 ブロックでは「現在、参加しておらず、今後も参加したいと思わない」が最も高く 3 割前後に上った。



(3)現在の松山市は、住民と行政が協働してまちづくりに取り組んでいると思うか

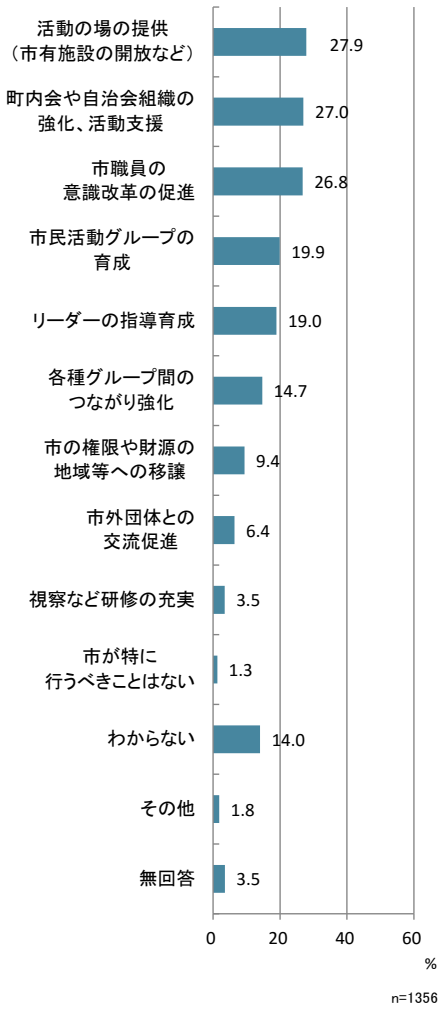
- **全体では、「少し思う」が 26.7%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が 21.6%、「あまり思わない」15.3%、「思う」13.6%、「思わない」5.8%となった。「思う」と「少し思う」を合わせた『思う』は 40.3%を占め、「あまり思わない」と「思わない」を合わせた『思わない』の 21.1%を上回った。**
- 性別では、「少し思う」が男性 25.4%、女性 27.8%でそれぞれ最も高く、次いで「どちらともいえない」がそれぞれ 22.6%、21.1%で続いた。
- 年齢別では、20 歳代以下、30 歳代で「どちらともいえない」が最も高く、40 歳代以上では「少し思う」が 3 割前後で最も高かった。また、20 歳代以下、30 歳代では「思う」が他の年代に比べ低く、それぞれ 8.3%、6.4%にとどまった。40 歳代以上では、年代が上がるにつれ、「思う」が高くなり、70 歳以上では 21.4%に達した。
- 地域別では、第 5 ブロック、第 8 ブロックで「どちらともいえない」が最も高く、それ以外のブロックでは「少し思う」が 2 割台で最も高かった。第 3 ブロック、第 4 ブロックでは「思う」が 1 割を下回った。第 1 ブロックでは、「あまり思わない」が 5.6%と他のブロックに比べ低かった一方で、「思わない」が 11.1%と唯一 1 割を超えた。



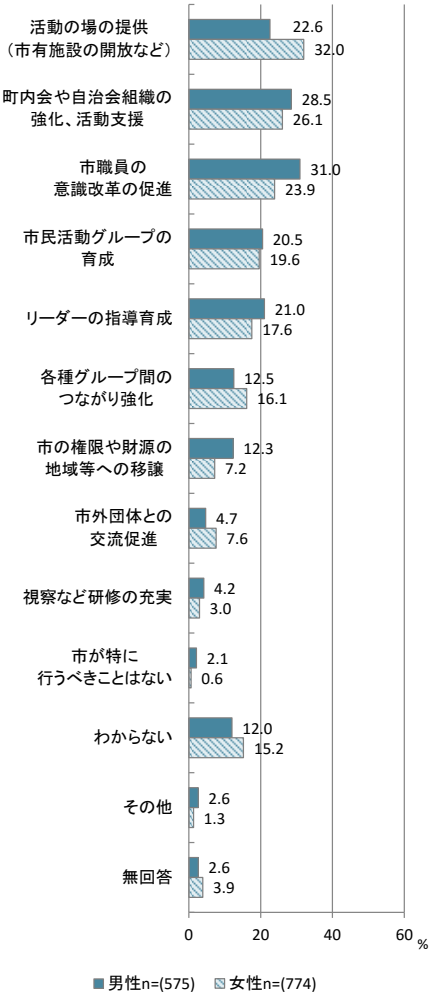
(4)市民が主体となった地域づくり活動の促進のために、市としてどのようなことを行えばよいと思うか

- **全体では、「活動の場の提供（市有施設の開放など）」（27.9%）が最も高く、次いで「町内会や自治会組織の強化、活動支援」（27.0%）、「市職員の意識改革の促進」（26.8%）、「市民活動グループの育成」（19.9%）、「リーダーの指導育成」（19.0%）と続いた。**
- 性別では、男性で「市職員の意識改革の促進」が 31.0%と最も高く、次いで「町内会や自治会組織の強化、活動支援」28.5%、「活動の場の提供（市有施設の開放など）」22.6%と続いた。一方、女性では、「活動の場の提供（市有施設の開放など）」が 32.0%と最も高く、次いで「町内会や自治会組織の強化、活動支援」26.1%、「市職員の意識改革の促進」23.9%の順となった。
- 年齢別では、20 歳代以下から 50 歳代で「活動の場の提供（市有施設の開放など）」が最も高く、特に 40 歳代では 35.6%と、他の年代に比べ高かった。60 歳代及び 70 歳以上では「町内会や自治会組織の強化、活動支援」が 3 割を超え最も高くなった。続いて、40 歳代及び 70 歳以上を除いた年代では「市職員の意識改革の促進」が高くなり、40 歳代では「町内会や自治会組織の強化、活動支援」、70 歳代では「リーダーの指導育成」が高かった。特に 70 歳以上の「リーダーの指導育成」は 27.1%に上り、他の年代に比べ高くなっている。
- 地域別では、第 2 ブロック、第 4 ブロック、第 8 ブロックで「活動の場の提供（市有施設の開放など）」が最も高く、第 5 ブロックでは「市職員の意識改革の促進」、第 6 ブロック、第 7 ブロックでは「町内会や自治会組織の強化、活動支援」がそれぞれ最も高かった。第 1 ブロック、第 3 ブロックでは「町内会や自治会組織の強化、活動支援」及び「市職員の意識改革の促進」が同率で最も高かった。

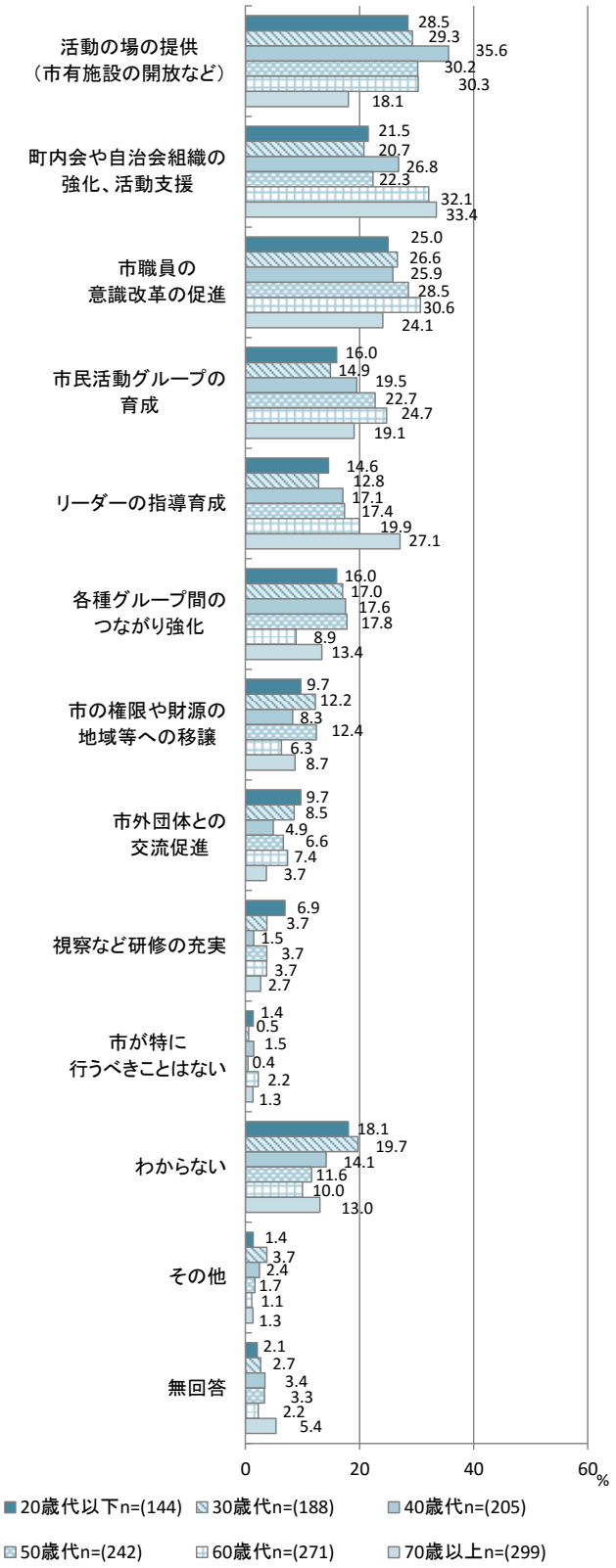
＜全体＞



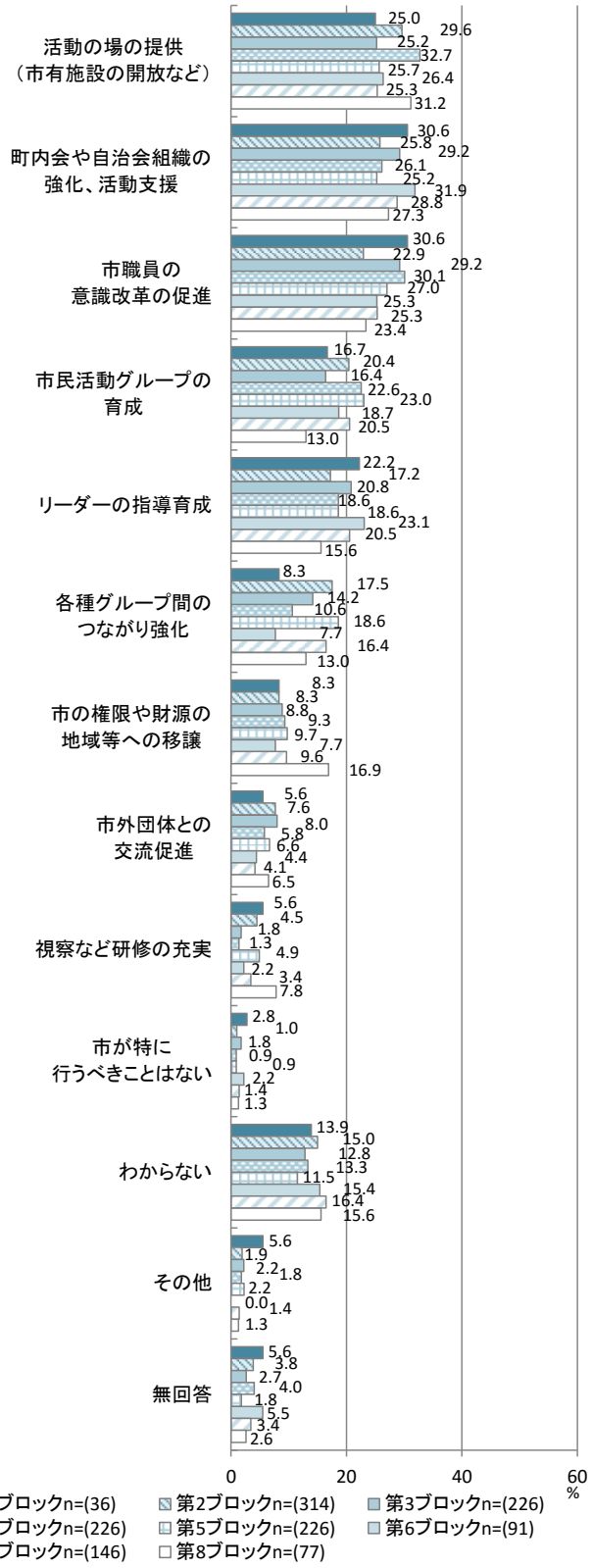
＜性別＞



＜年齢別＞


活動の場の提供（市有施設の開放など）
28.5 29.3 35.6 30.2 30.3 18.1
町内会や自治会組織の強化、活動支援
21.5 20.7 26.8 22.3 32.1 33.4
市職員の意識改革の促進
25.0 26.6 25.9 28.5 30.6 24.1
市民活動グループの育成
16.0 14.9 19.5 22.7 24.7 19.1
リーダーの指導育成
14.6 12.8 17.1 17.4 19.9 27.1
各種グループ間のつながり強化
16.0 17.0 17.6 17.8 8.9 13.4
市の権限や財源の地域等への移譲
9.7 12.2 8.3 12.4 6.3 8.7
市外団体との交流促進
9.7 8.5 4.9 6.6 7.4 3.7
視察など研修の充実
6.9 3.7 1.5 3.7 3.7 2.7
市が特に行うべきことはない
1.4 0.5 1.5 0.4 2.2 1.3
わからない
18.1 19.7 14.1 11.6 10.0 13.0
その他
1.4 3.7 2.4 1.7 1.1 1.3
無回答
2.1 2.7 3.4 3.3 2.2 5.4
0 20 40 60 %
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

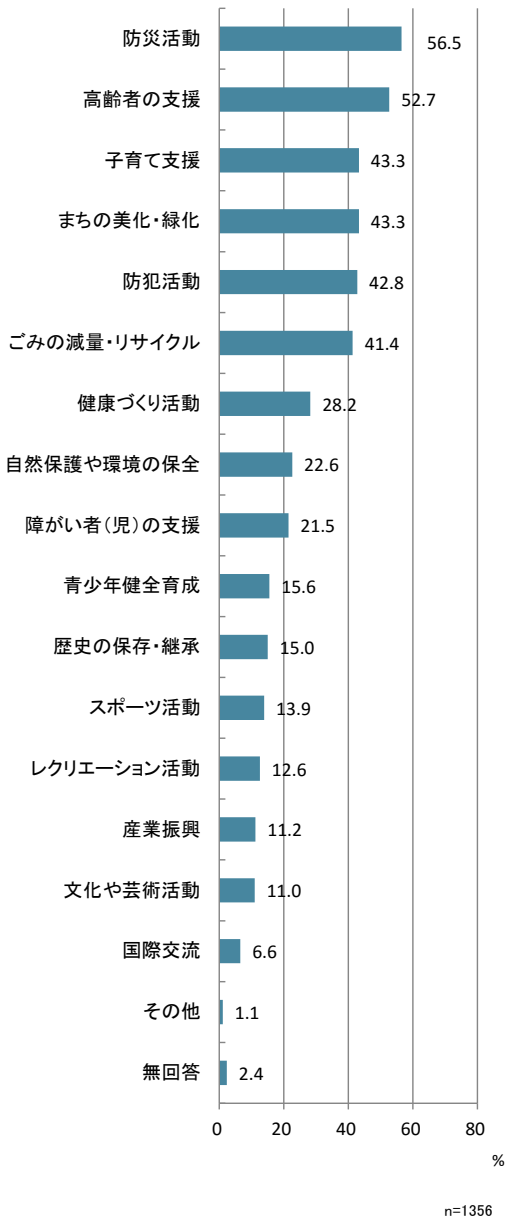
＜地域別＞


活動の場の提供（市有施設の開放など）
25.0 29.6 25.2 32.7 25.7 26.4 25.3 31.2
町内会や自治会組織の強化、活動支援
30.6 25.8 29.2 26.1 25.2 31.9 28.8 27.3
市職員の意識改革の促進
30.6 22.9 29.2 30.1 27.0 25.3 25.3 23.4
市民活動グループの育成
16.7 20.4 16.4 22.6 23.0 18.7 20.5 13.0
リーダーの指導育成
22.2 17.2 20.8 18.6 18.6 23.1 20.5 15.6
各種グループ間のつながり強化
8.3 17.5 14.2 10.6 18.6 7.7 16.4 13.0
市の権限や財源の地域等への移譲
8.3 8.3 8.8 9.3 9.7 7.7 9.6 16.9
市外団体との交流促進
5.6 7.6 8.0 5.8 6.6 4.4 4.1 6.5
視察など研修の充実
5.6 4.5 1.8 1.3 4.9 2.2 3.4 7.8
市が特に行うべきことはない
2.8 1.0 1.8 0.9 0.9 2.2 1.4 1.3
わからない
13.9 15.0 12.8 13.3 11.5 15.4 16.4 15.6
その他
5.6 1.9 2.2 1.8 2.2 0.0 1.4 1.3
無回答
5.6 3.8 2.7 4.0 1.8 5.5 3.4 2.6
0 20 40 60 %
第1ブロックn=(36)
第2ブロックn=(314)
第3ブロックn=(226)
第4ブロックn=(226)
第5ブロックn=(226)
第6ブロックn=(91)
第7ブロックn=(146)
第8ブロックn=(77)

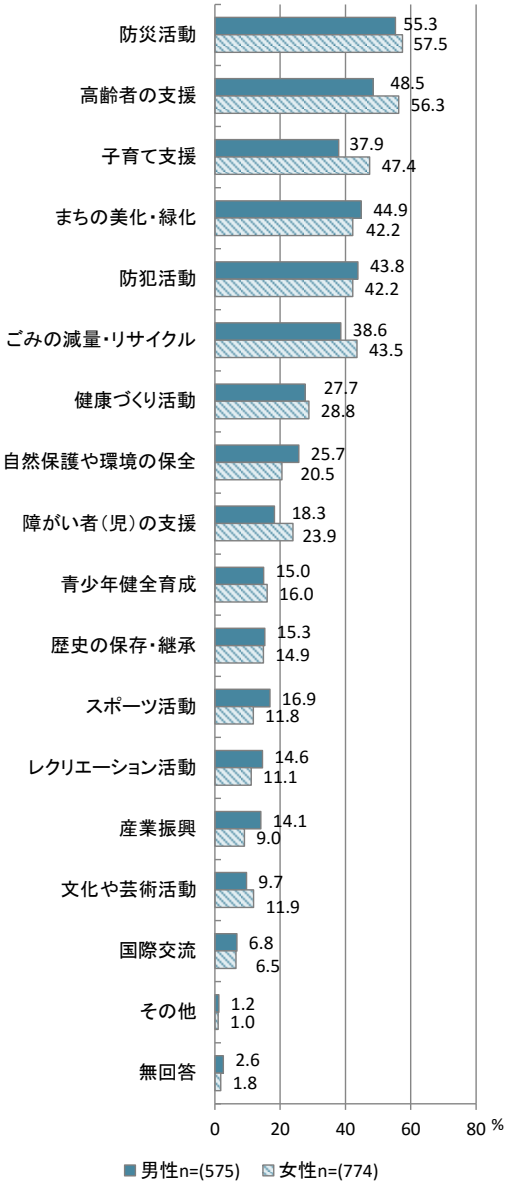
(5)地域や住民ができること、やるべきことは何だと思うか

- **全体結果では、「防災活動」(56.5%) が最も高く、次いで「高齢者の支援」(52.7%)、「子育て支援」、「まちの美化・緑化」(同率 43.3%)、「防犯活動」(42.8%)、「ごみの減量・リサイクル」(41.4%) と続いた。**
- 性別では、男性、女性ともに「防災活動」が 5 割を超えて最も高く、次いで「高齢者の支援」が高い。3 位は男性では「まちの美化・緑化」、女性では「子育て支援」となっている。
- 年齢別では、全ての年代で「防災活動」が 5 割を超え、特に 40 歳代と 60 歳代では 6 割超と他の年代に比べ高かった。「高齢者の支援」は年代が上がるにつれ増加する傾向となっており、70 歳以上では 62.9%に達した。一方「子育て支援」は、30 歳代の 56.9%をピークに、年代が上がるにつれ減少している。
- 地域別では、第 1 ブロックを除く全ての地域で「防災活動」及び「高齢者の支援」が上位 2 項目となり、いずれも 5 割を超えた。第 1 ブロックでは「防災活動」とともに「ごみの減量・リサイクル」が同率の 52.8%で最も高くなった。第 6 ブロックでは「子育て支援」及び「まちの美化・緑化」が他のブロックに比べ低くなっている。

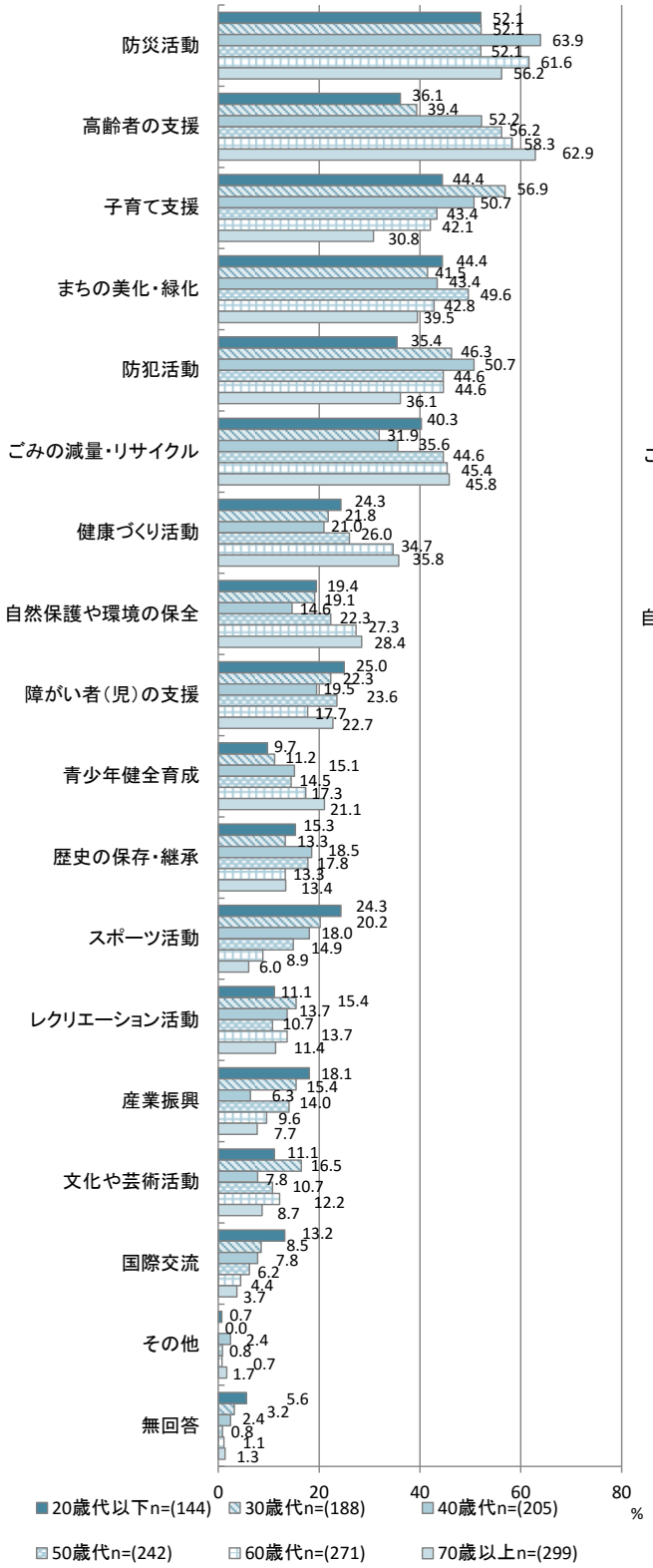
＜全体＞



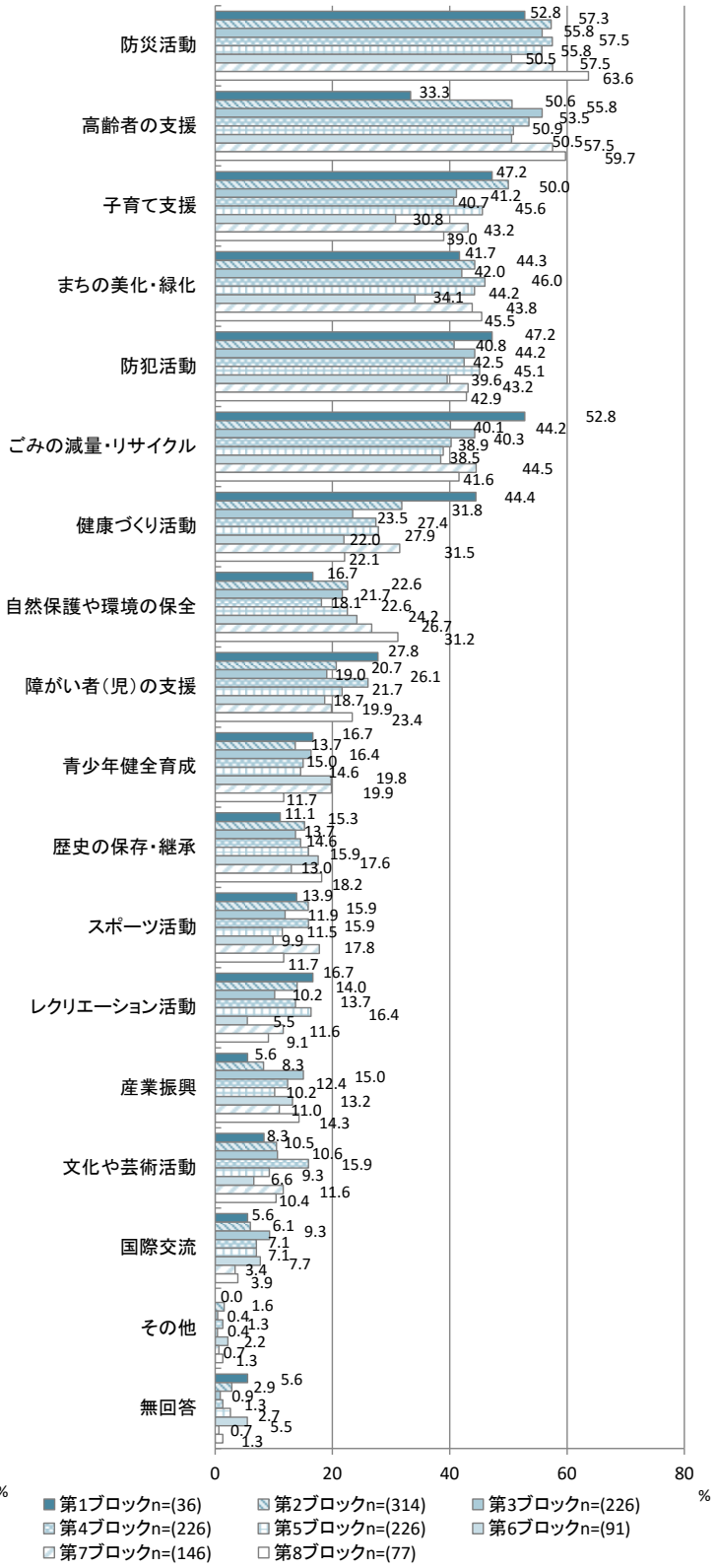
＜性別＞



＜年齢別＞


防災活動
52.1
52.1
63.9
52.1
61.6
56.2
高齢者の支援
36.1
39.4
52.2
56.2
58.3
62.9
子育て支援
44.4
56.9
50.7
43.4
42.1
30.8
まちの美化・緑化
44.4
41.5
43.4
49.6
42.8
39.5
防犯活動
35.4
46.3
50.7
44.6
44.6
36.1
ごみの減量・リサイクル
40.3
31.9
35.6
44.6
45.4
45.8
健康づくり活動
24.3
21.8
21.0
26.0
34.7
35.8
自然保護や環境の保全
19.4
19.1
14.6
22.3
27.3
28.4
障がい者（児）の支援
25.0
22.3
19.5
23.6
17.7
22.7
青少年健全育成
9.7
11.2
15.1
14.5
17.3
21.1
歴史の保存・継承
15.3
13.3
18.5
17.8
13.3
13.4
スポーツ活動
24.3
20.2
18.0
14.9
8.9
6.0
レクリエーション活動
11.1
15.4
13.7
10.7
13.7
11.4
産業振興
18.1
15.4
6.3
14.0
9.6
7.7
文化や芸術活動
11.1
16.5
7.8
10.7
12.2
8.7
国際交流
13.2
8.5
7.8
6.2
4.4
3.7
その他
0.7
0.0
2.4
0.8
0.7
1.7
無回答
5.6
3.2
2.4
0.8
1.1
1.3
0
20
40
60
80
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

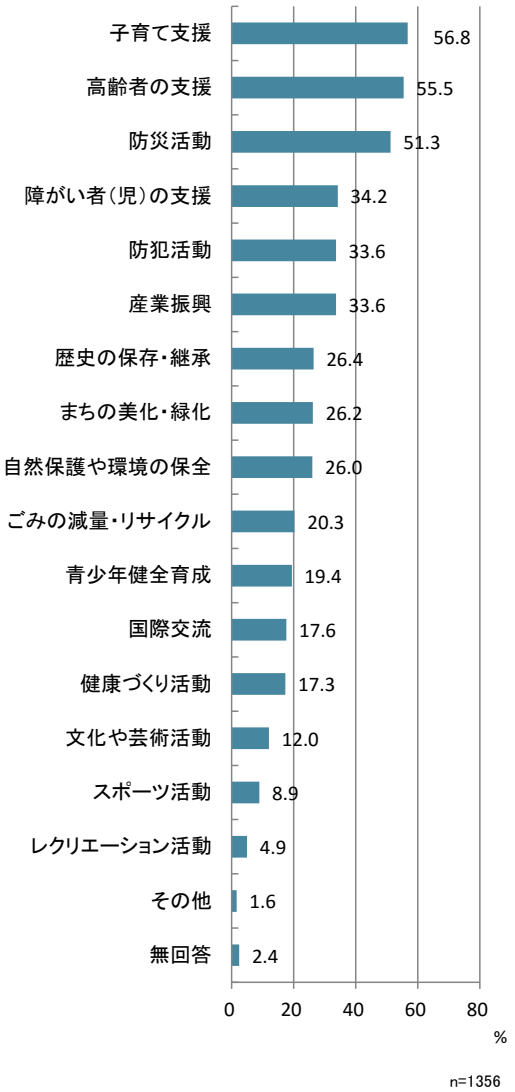
＜地域別＞


防災活動
52.8
57.3
55.8
57.5
55.8
50.5
57.5
63.6
高齢者の支援
33.3
50.6
55.8
53.5
50.9
50.5
57.5
59.7
子育て支援
47.2
50.0
41.2
40.7
45.6
30.8
43.2
39.0
まちの美化・緑化
41.7
44.3
42.0
46.0
34.1
44.2
43.8
45.5
防犯活動
47.2
40.8
44.2
42.5
45.1
39.6
43.2
42.9
ごみの減量・リサイクル
52.8
44.2
40.1
40.3
38.9
38.5
44.5
41.6
健康づくり活動
44.4
31.8
23.5
27.4
27.9
22.0
31.5
22.1
自然保護や環境の保全
16.7
22.6
21.7
18.1
22.6
24.2
26.7
31.2
障がい者（児）の支援
27.8
20.7
19.0
26.1
21.7
18.7
19.9
23.4
青少年健全育成
16.7
13.7
16.4
15.0
14.6
19.8
19.9
11.7
歴史の保存・継承
11.1
15.3
13.7
14.6
15.9
17.6
13.0
18.2
スポーツ活動
13.9
15.9
11.9
15.9
11.5
9.9
17.8
11.7
レクリエーション活動
16.7
14.0
10.2
13.7
16.4
5.5
11.6
9.1
産業振興
5.6
8.3
15.0
12.4
10.2
13.2
11.0
14.3
文化や芸術活動
8.3
10.5
10.6
15.9
9.3
6.6
11.6
10.4
国際交流
5.6
6.1
9.3
7.1
7.1
7.7
3.4
3.9
その他
0.0
1.6
0.4
1.3
0.4
2.2
0.7
1.3
無回答
5.6
2.9
0.9
1.3
2.7
5.5
0.7
1.3
0
20
40
60
80
%
第1ブロックn=(36)
第2ブロックn=(314)
第3ブロックn=(226)
第4ブロックn=(226)
第5ブロックn=(226)
第6ブロックn=(91)
第7ブロックn=(146)
第8ブロックn=(77)

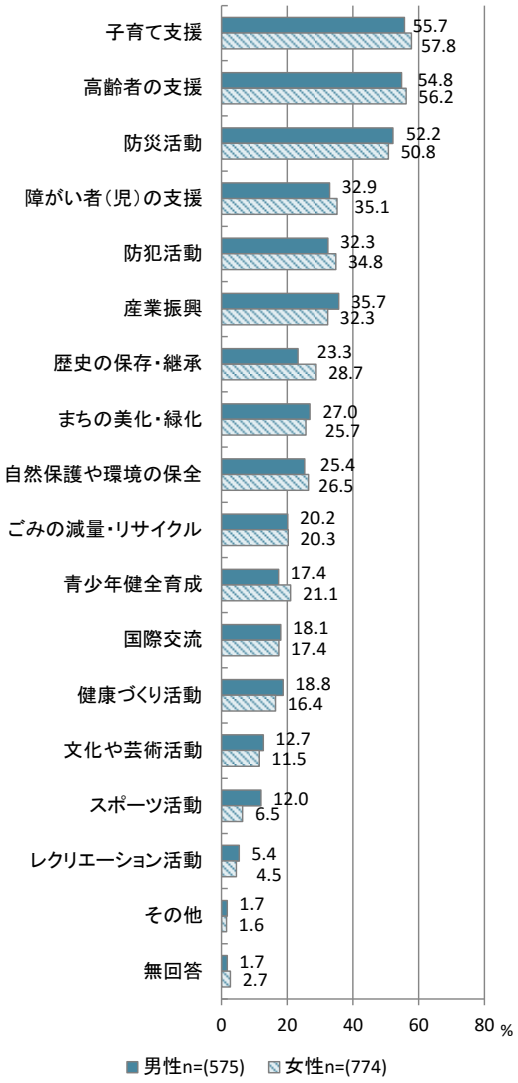
(6)松山市が主体となってやるべきことは何だと思うか

- **全体結果では、「子育て支援」が 56.8%で最も高く、次いで「高齢者の支援」が 55.5%、「防災活動」が 51.3%、「障がい者（児）の支援」34.2%、「防犯活動」、「産業振興」がともに 33.6%と続いた。**
- 性別でも、男女ともに「子育て支援」、「高齢者の支援」、「防災活動」の順に高く、全体の傾向とさほど変わらなかった。
- 年齢別では、全ての年代において「子育て支援」、「高齢者の支援」、「防災活動」が上位 3 項目を占めているが、50 歳代、70 歳以上を除いた年代では「子育て支援」が最も高く、6 割前後となっている。50 歳代、70 歳以上では、「高齢者の支援」が最も高く、それぞれ 56.2%、63.2%となった。
- 地域別でも、性別及び年齢別同様、全てのブロックで「子育て支援」、「高齢者の支援」、「防災活動」が上位 3 項目を占めた。その中で、第 2 ブロック、第 3 ブロックでは「子育て支援」が最も高く、第 5 ブロック、第 6 ブロック、第 8 ブロックでは「高齢者の支援」が、第 4 ブロックでは「防災活動」が最も高くなっている。また、第 1 ブロック、第 7 ブロックでは「子育て支援」と「高齢者の支援」が同率で最も高くなった。上位 3 項目以外では、第 8 ブロックの「産業振興」、第 6 ブロックの「まちの美化・緑化」、第 1 ブロックの「青少年健全育成」がそれぞれ他のブロックに比べ高くなっている。

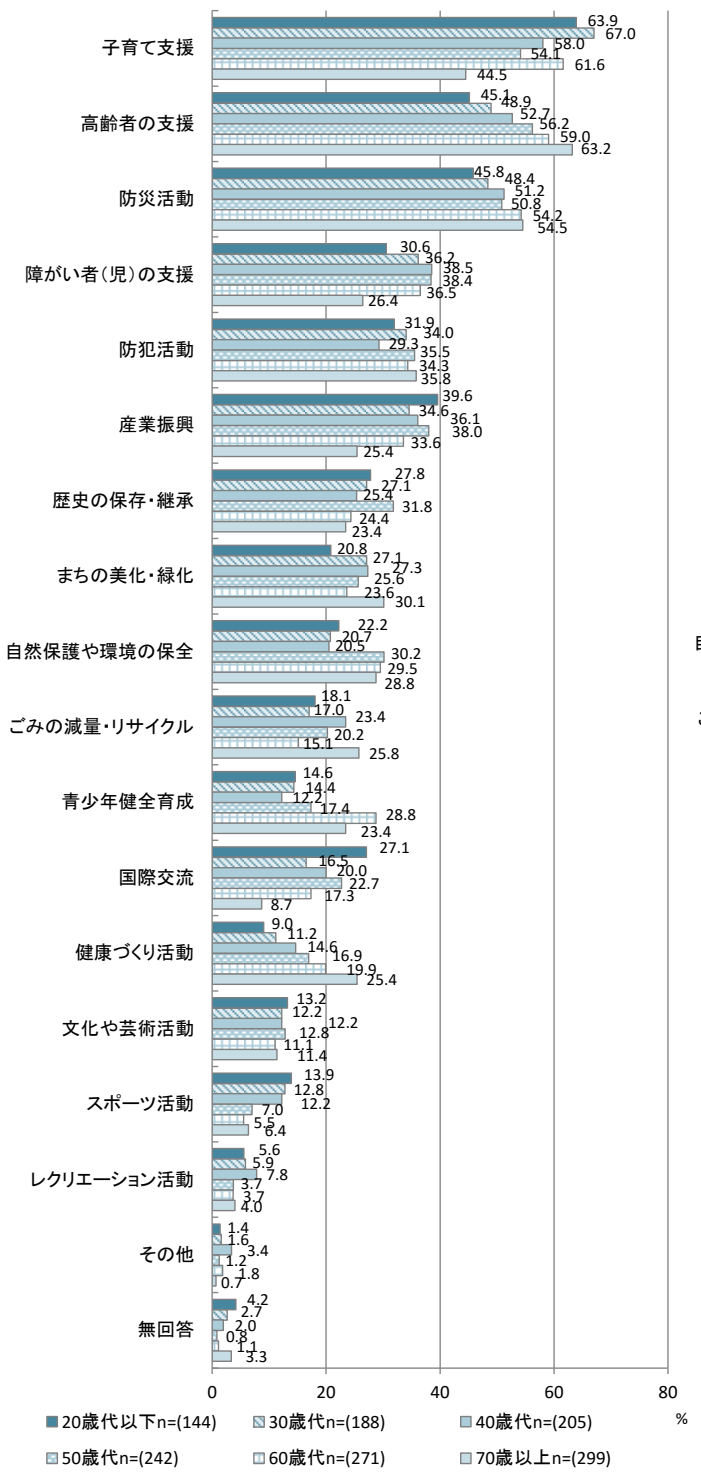
＜全体＞



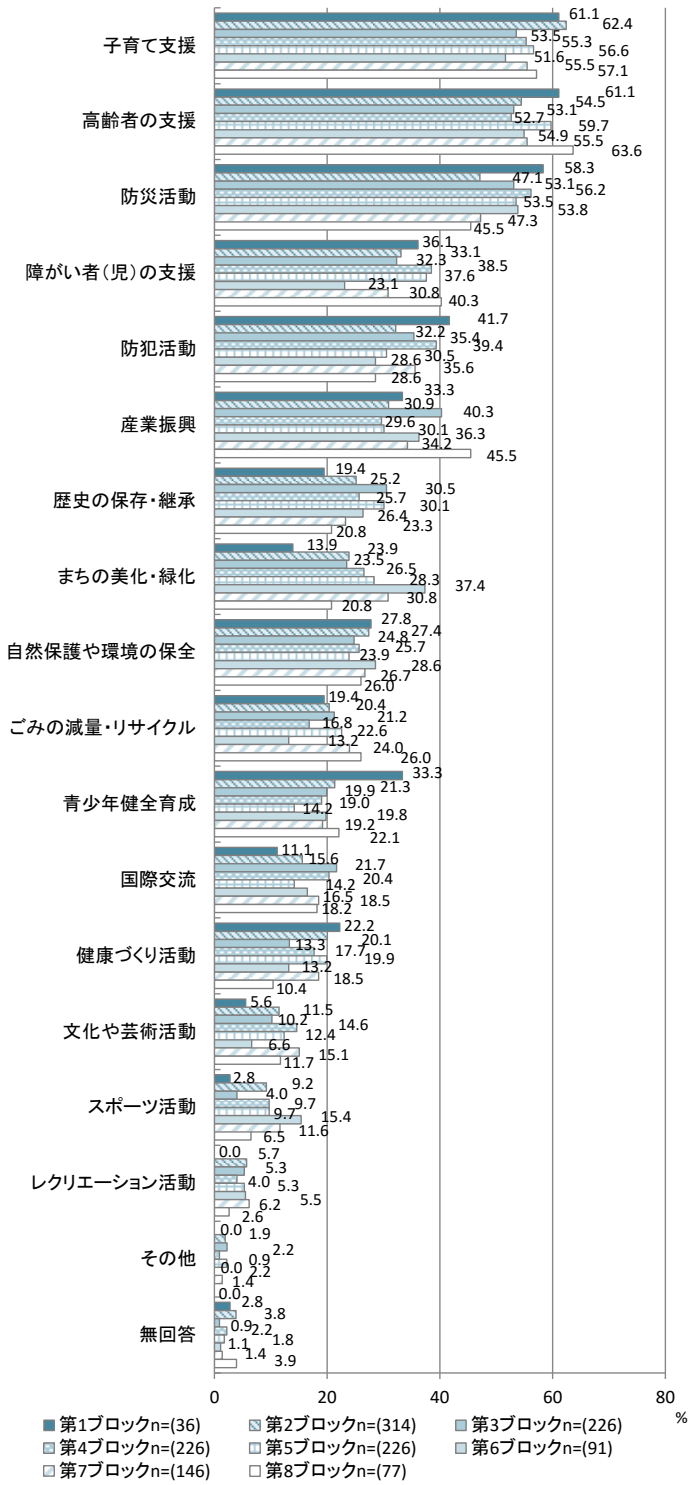
＜性別＞



＜年齢別＞

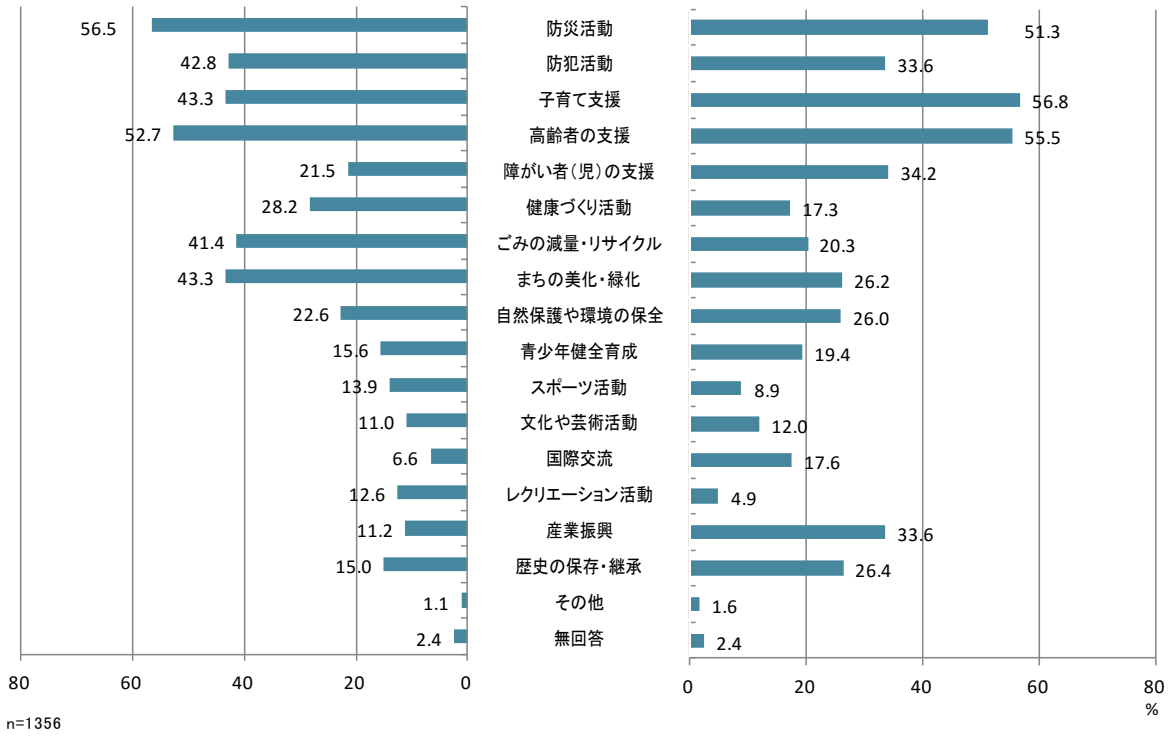

子育て支援
63.9
67.0
58.0
54.1
61.6
44.5
高齢者の支援
45.1
48.9
52.7
56.2
59.0
63.2
防災活動
45.8
48.4
51.2
50.8
54.2
54.5
障がい者（児）の支援
30.6
36.2
38.5
38.4
36.5
26.4
防犯活動
31.9
34.0
29.3
35.5
34.3
35.8
産業振興
39.6
34.6
36.1
38.0
33.6
25.4
歴史の保存・継承
27.8
27.1
25.4
31.8
24.4
23.4
まちの美化・緑化
20.8
27.1
27.3
25.6
23.6
30.1
自然保護や環境の保全
22.2
20.7
20.5
30.2
29.5
28.8
ごみの減量・リサイクル
18.1
17.0
23.4
20.2
15.1
25.8
青少年健全育成
14.6
14.4
12.2
17.4
28.8
23.4
国際交流
27.1
16.5
20.0
22.7
17.3
8.7
健康づくり活動
9.0
11.2
14.6
16.9
19.9
25.4
文化や芸術活動
13.2
12.2
12.2
12.8
11.1
11.4
スポーツ活動
13.9
12.8
12.2
7.0
5.5
6.4
レクリエーション活動
5.6
5.9
7.8
3.7
3.7
4.0
その他
1.4
1.6
3.4
1.2
1.8
0.7
無回答
4.2
2.7
2.0
0.8
1.1
3.3
0
20
40
60
80
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

＜地域別＞


子育て支援
61.1
62.4
53.5
55.3
56.6
51.6
55.5
57.1
高齢者の支援
61.1
54.5
53.1
52.7
59.7
54.9
55.5
63.6
防災活動
58.3
47.1
53.1
56.2
53.5
53.8
47.3
45.5
障がい者（児）の支援
36.1
33.1
32.3
38.5
37.6
23.1
30.8
40.3
防犯活動
41.7
32.2
35.4
39.4
30.5
28.6
35.6
28.6
産業振興
33.3
30.9
40.3
29.6
30.1
36.3
34.2
45.5
歴史の保存・継承
19.4
25.2
30.5
25.7
30.1
26.4
23.3
20.8
まちの美化・緑化
13.9
23.9
23.5
26.5
28.3
37.4
30.8
20.8
自然保護や環境の保全
27.8
27.4
24.8
25.7
23.9
28.6
26.7
26.0
ごみの減量・リサイクル
19.4
20.4
21.2
16.8
22.6
13.2
24.0
26.0
青少年健全育成
33.3
21.3
19.9
19.0
14.2
19.8
19.2
22.1
国際交流
11.1
15.6
21.7
20.4
14.2
18.5
16.5
18.2
健康づくり活動
22.2
20.1
13.3
17.7
19.9
13.2
18.5
10.4
文化や芸術活動
5.6
11.5
10.2
14.6
12.4
6.6
15.1
11.7
スポーツ活動
2.8
9.2
4.0
9.7
9.7
15.4
11.6
6.5
レクリエーション活動
0.0
5.7
5.3
4.0
5.3
6.2
5.5
2.6
その他
0.0
1.9
2.2
0.9
2.2
1.4
無回答
0.0
2.8
3.8
0.9
2.2
1.8
1.1
1.4
3.9
0
20
40
60
80
%
第1ブロックn=(36)
第2ブロックn=(314)
第3ブロックn=(226)
第4ブロックn=(226)
第5ブロックn=(226)
第6ブロックn=(91)
第7ブロックn=(146)
第8ブロックn=(77)

（参考：「地域や住民ができること、やるべきこと」及び
「松山市が主体となって、やるべきこと」の対比表）

＜地域や住民ができること、やるべきこと＞　　**＜松山市が主体となって、やるべきこと＞**

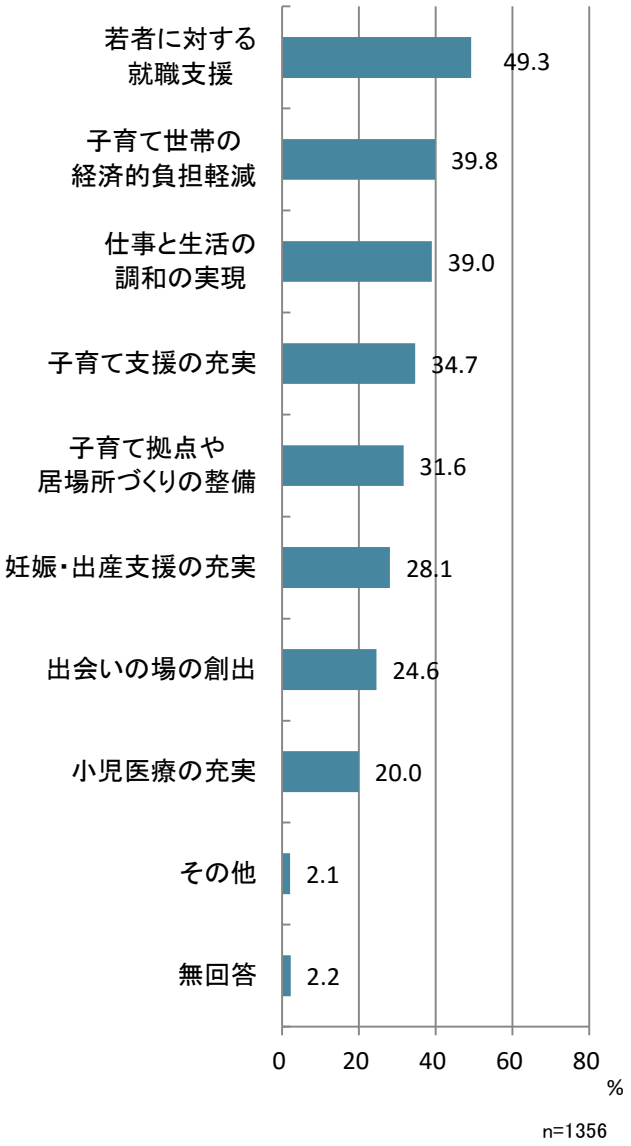


4. 少子高齢化・人口減少社会を迎えて重点的に取り組むべき事項について

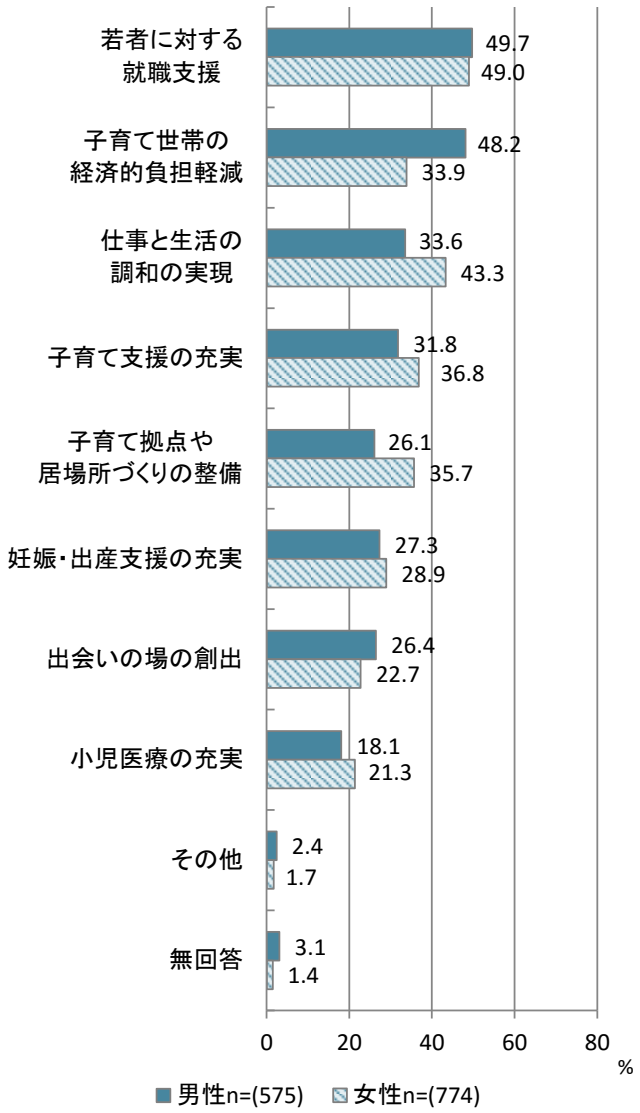
(1)少子化対策

- **全体では、「若者に対する就職支援」が 49.3%で最も高く、次いで「子育て世帯の経済的負担軽減」39.8%、「仕事と生活の調和の実現」39.0%、「子育て支援の充実」34.7%、「子育て拠点や居場所づくりの整備」31.6%と続いた。**
- 性別では、「若者に対する就職支援」が男性 49.7%、女性 49.0%となり、男女ともに最も高かった。「子育て世帯の経済的負担軽減」では、男性 48.2%に対して、女性 33.9%と、14.3 ポイントの差がついた。また、「仕事と生活の調和の実現」では、男性は 33.6%にとどまったが、女性は 43.3%と、男性を 10 ポイント近く上回った。
- 年齢別では、30 歳代、40 歳代を除いた年代で「若者に対する就職支援」が最も高く、4 割半ばから 6 割を占めている。30 歳代では「子育て世帯の経済的負担軽減」が、40 歳代では「仕事と生活の調和の実現」が、それぞれ最も高くなった。また、20 歳代以下と 30 歳代では「妊娠・出産支援の充実」がいずれも 4 割を超え、他の年代に比べ高くなっている。

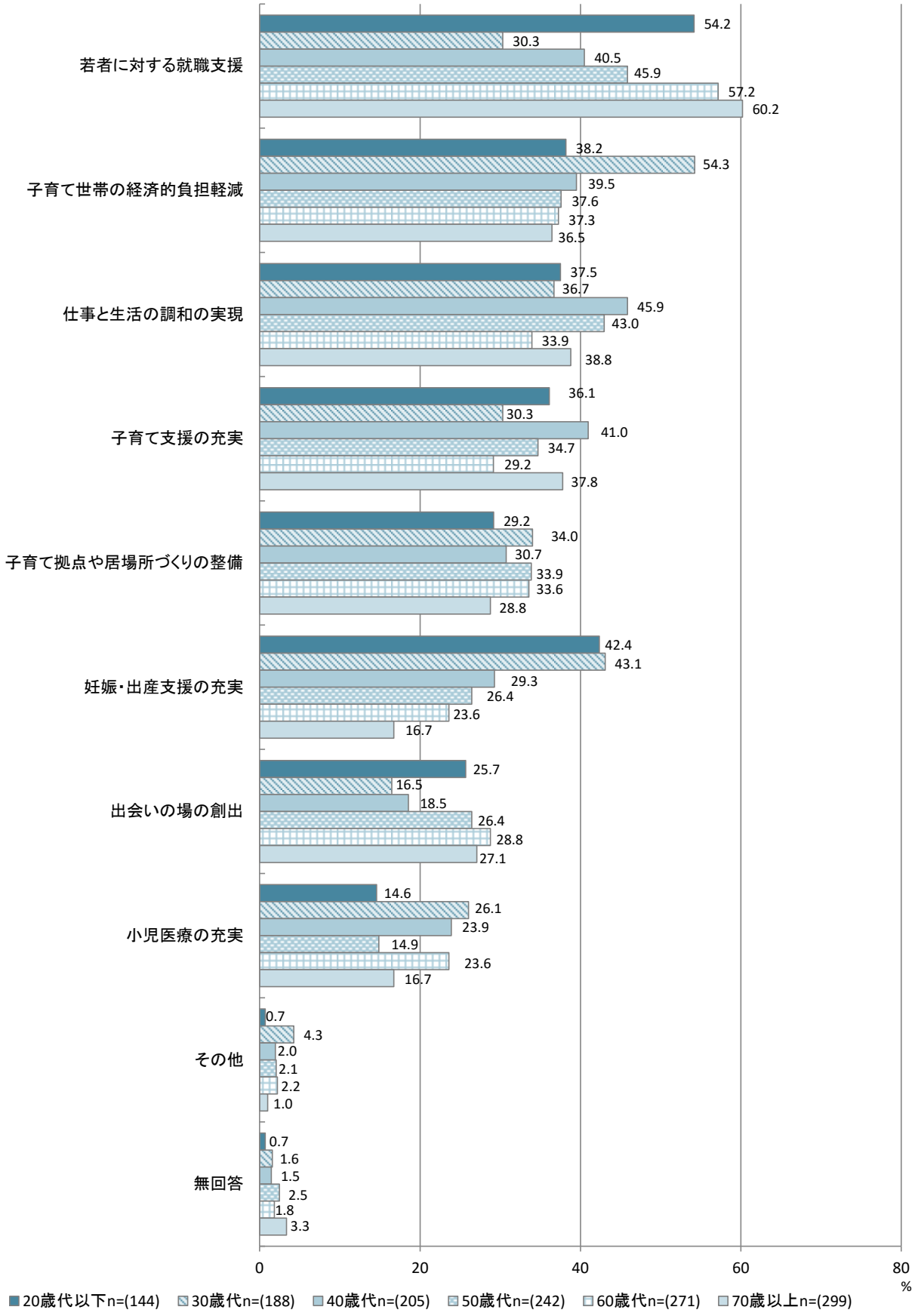
＜全体＞



＜性別＞



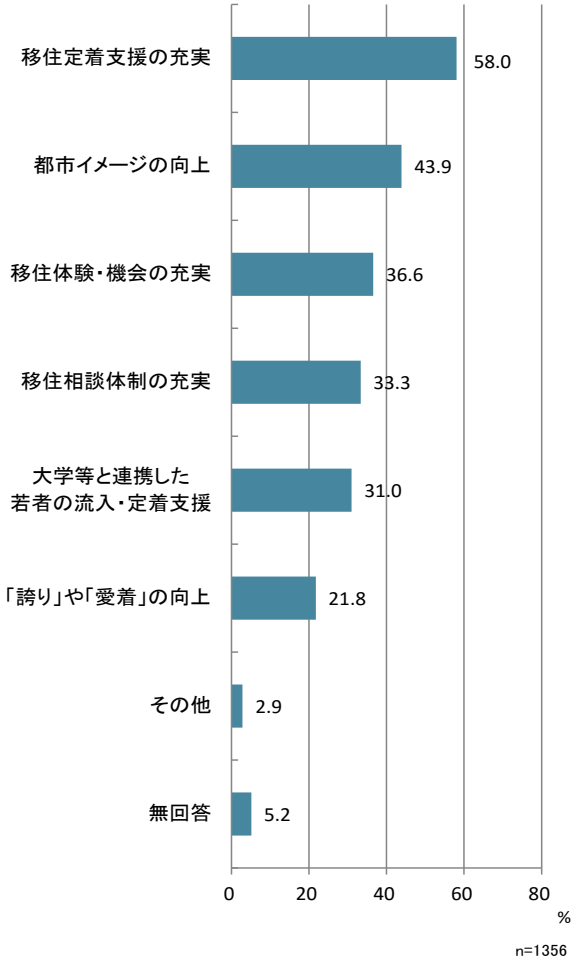
＜年齢別＞


若者に対する就職支援
54.2
30.3
40.5
45.9
57.2
60.2
子育て世帯の経済的負担軽減
38.2
54.3
39.5
37.6
37.3
36.5
仕事と生活の調和の実現
37.5
36.7
45.9
43.0
33.9
38.8
子育て支援の充実
36.1
30.3
41.0
34.7
29.2
37.8
子育て拠点や居場所づくりの整備
29.2
34.0
30.7
33.9
33.6
28.8
妊娠・出産支援の充実
42.4
43.1
29.3
26.4
23.6
16.7
出会いの場の創出
25.7
16.5
18.5
26.4
28.8
27.1
小児医療の充実
14.6
26.1
23.9
14.9
23.6
16.7
その他
0.7
4.3
2.0
2.1
2.2
1.0
無回答
0.7
1.6
1.5
2.5
1.8
3.3
0
20
40
60
80
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

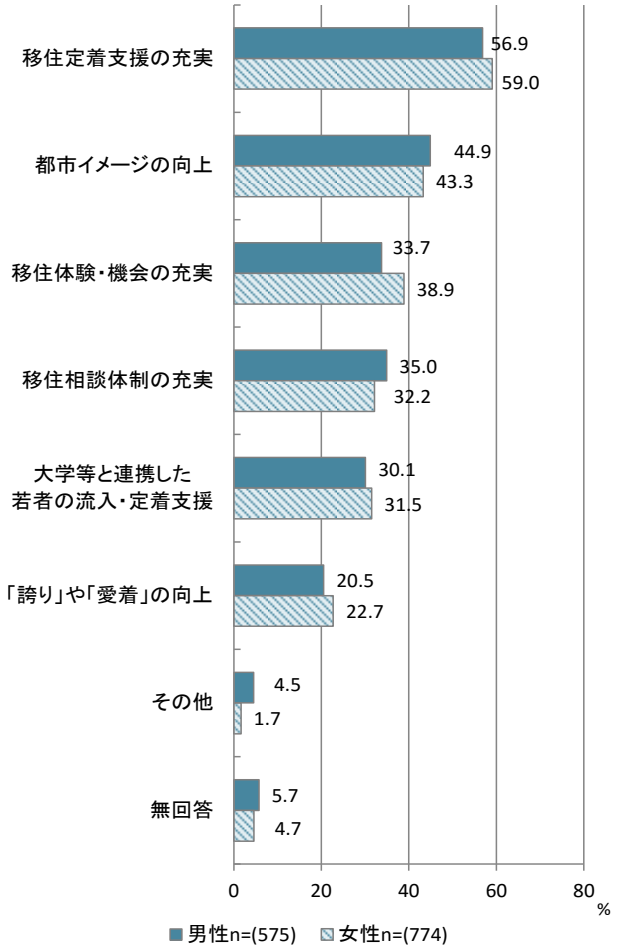
(2)移住定住対策

- **全体では、「移住定着支援の充実」が 58.0%で最も高く、次いで「都市イメージの向上」43.9%、「移住体験・機会の充実」36.6%、「移住相談体制の充実」33.3%、「大学等と連携した若者の流入・定着支援」31.0%と続いた。**
- 性別では、男女ともに「移住定着支援の充実」が最も高く、男性 56.9%、女性 59.0%となった。続いて、男性では「都市イメージの向上」、「移住相談体制の充実」、「移住体験・機会の充実」、女性では「都市イメージの向上」、「移住体験・機会の充実」、「移住相談体制の充実」の順となったが、全体的には大きな男女差はなかった。
- 年齢別では、40 歳代以上の年代で「移住定着支援の充実」が 6 割前後に上り最も高く、20 歳代以下、30 歳代では「都市イメージの向上」が 5 割前後を占め最も高くなった。20 歳代以下では、「大学等と連携した若者の流入・定着支援」が 36.1%と、他の年代に比べ高かった。

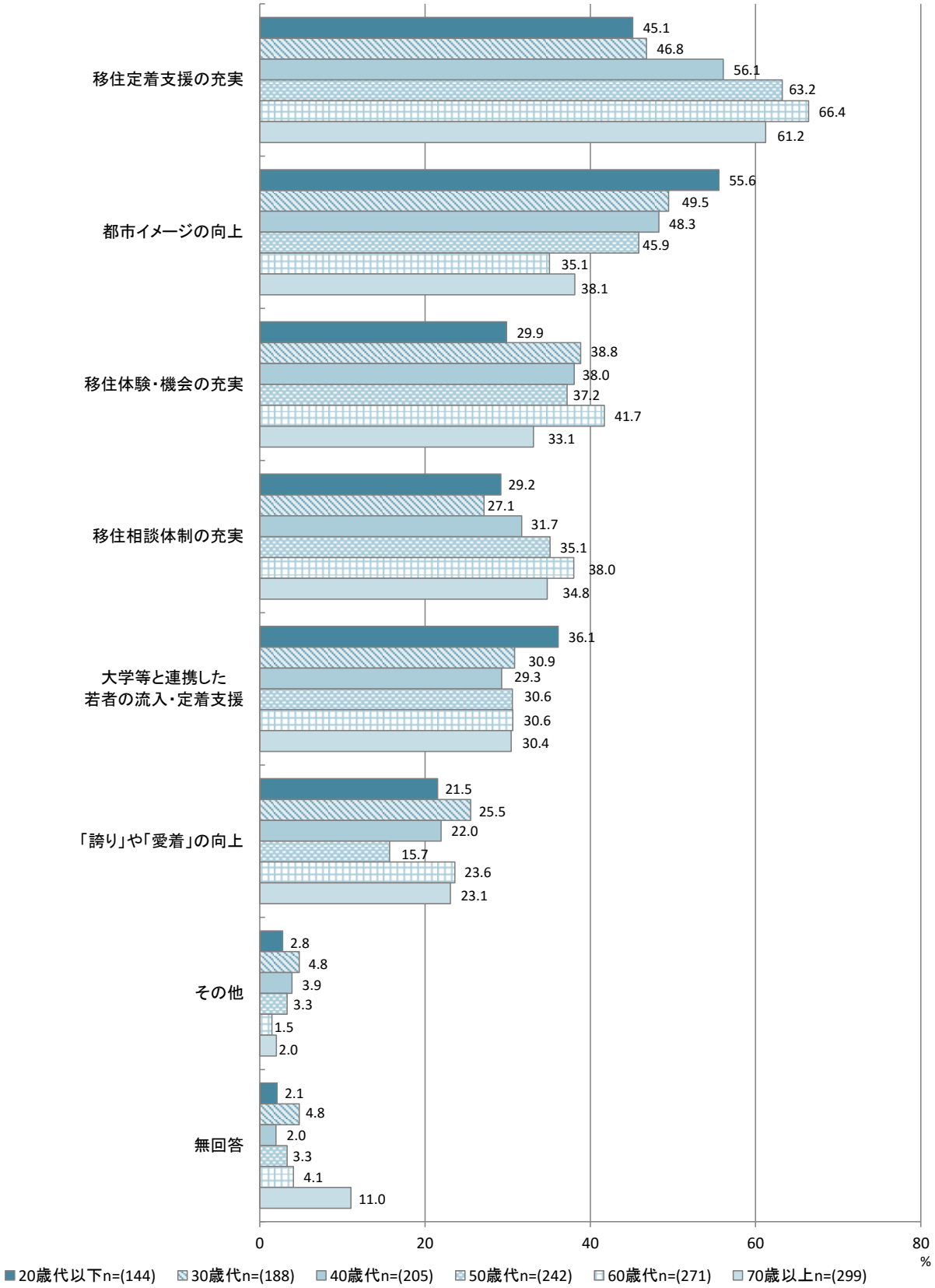
＜全体＞



＜性別＞



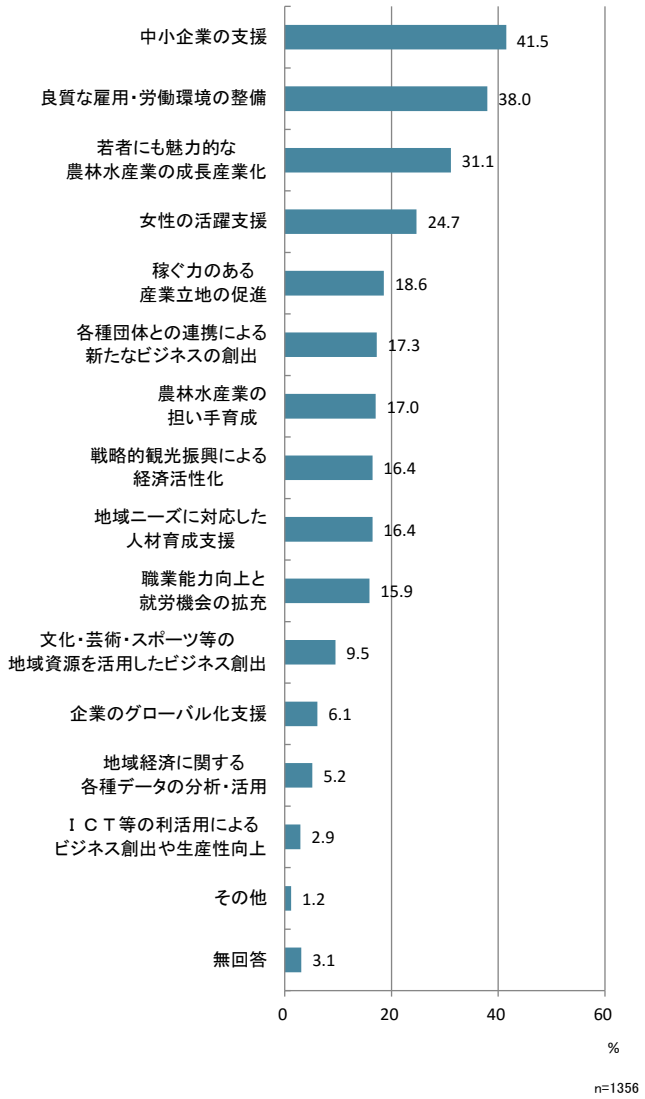
＜年齢別＞

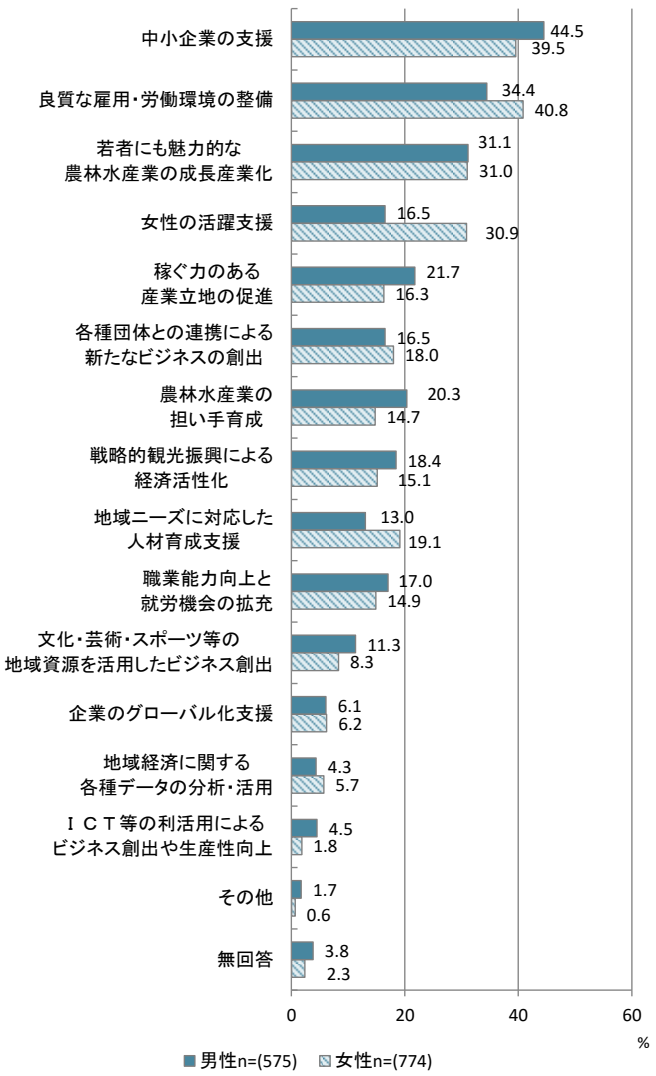

移住定着支援の充実
45.1
46.8
56.1
63.2
66.4
61.2
都市イメージの向上
55.6
49.5
48.3
45.9
35.1
38.1
移住体験・機会の充実
29.9
38.8
38.0
37.2
41.7
33.1
移住相談体制の充実
29.2
27.1
31.7
35.1
38.0
34.8
大学等と連携した
若者の流入・定着支援
36.1
30.9
29.3
30.6
30.6
30.4
「誇り」や「愛着」の向上
21.5
25.5
22.0
15.7
23.6
23.1
その他
2.8
4.8
3.9
3.3
1.5
2.0
無回答
2.1
4.8
2.0
3.3
4.1
11.0
0
20
40
60
80
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

(3)地域経済の活性化

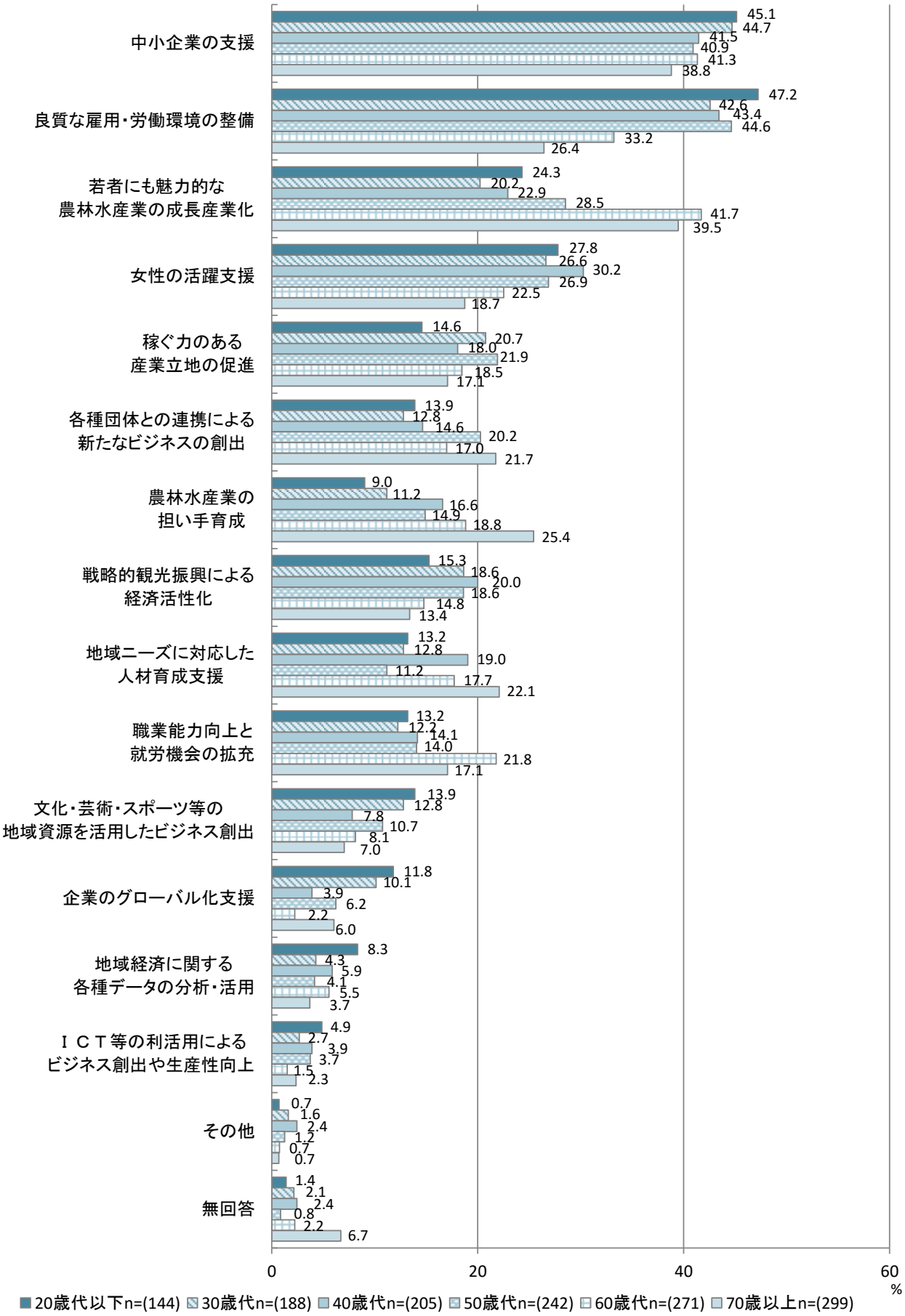
- **全体では、「中小企業の支援」が 41.5%で最も高く、次いで「良質な雇用・労働環境の整備」38.0%、「若者にも魅力的な農林水産業の成長産業化」31.1%、「女性の活躍支援」24.7%と続いた。**
- 性別では、男性は「中小企業の支援」が 44.5%と最も高く、次いで「良質な雇用・労働環境の整備」34.4%、「若者にも魅力的な農林水産業の成長産業化」31.1%と続いた。一方、女性は「良質な雇用・労働環境の整備」が 40.8%と最も高く、次いで「中小企業の支援」39.5%、「若者にも魅力的な農林水産業の成長産業化」31.0%と続いた。「女性の活躍支援」では、女性が 30.9%と 3 割を超えたのに対し、男性は 16.5%にとどまった。
- 年齢別では、20 歳代以下、40 歳代、50 歳代で「良質な雇用・労働環境の整備」が最も高く、30 歳代では「中小企業の支援」、60 歳代、70 歳以上では「若者にも魅力的な農林水産業の成長産業化」が最も高くなった。

＜全体＞





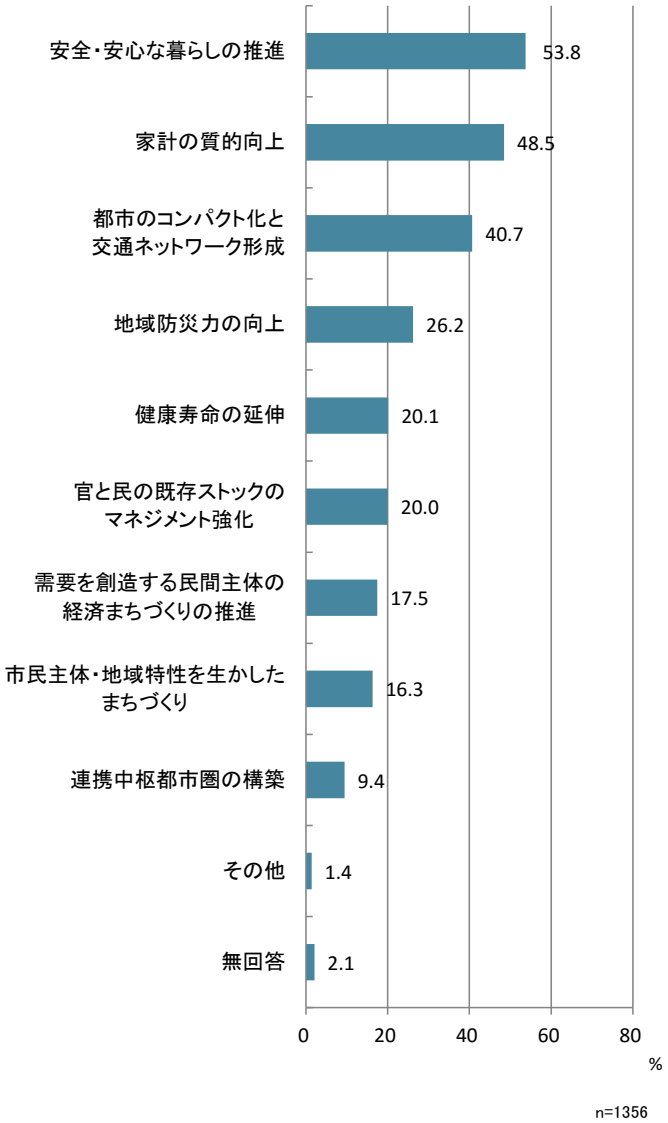
＜年齢別＞


中小企業の支援
45.1
44.7
41.5
40.9
41.3
38.8
良質な雇用・労働環境の整備
47.2
42.6
43.4
44.6
33.2
26.4
若者にも魅力的な
農林水産業の成長産業化
24.3
20.2
22.9
28.5
41.7
39.5
女性の活躍支援
27.8
26.6
30.2
26.9
22.5
18.7
稼ぐ力のある
産業立地の促進
14.6
20.7
18.0
21.9
18.5
17.1
各種団体との連携による
新たなビジネスの創出
13.9
12.8
14.6
20.2
17.0
21.7
農林水産業の
担い手育成
9.0
11.2
16.6
14.9
18.8
25.4
戦略的観光振興による
経済活性化
15.3
18.6
20.0
18.6
14.8
13.4
地域ニーズに対応した
人材育成支援
13.2
12.8
19.0
11.2
17.7
22.1
職業能力向上と
就労機会の拡充
13.2
12.2
14.1
14.0
21.8
17.1
文化・芸術・スポーツ等の
地域資源を活用したビジネス創出
13.9
12.8
7.8
10.7
8.1
7.0
企業のグローバル化支援
11.8
10.1
3.9
6.2
2.2
6.0
地域経済に関する
各種データの分析・活用
8.3
4.3
5.9
4.1
5.5
3.7
ＩＣＴ等の利活用による
ビジネス創出や生産性向上
4.9
2.7
3.9
3.7
1.5
2.3
その他
0.7
1.6
2.4
1.2
0.7
0.7
無回答
1.4
2.1
2.4
0.8
2.2
6.7
0
20
40
60
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

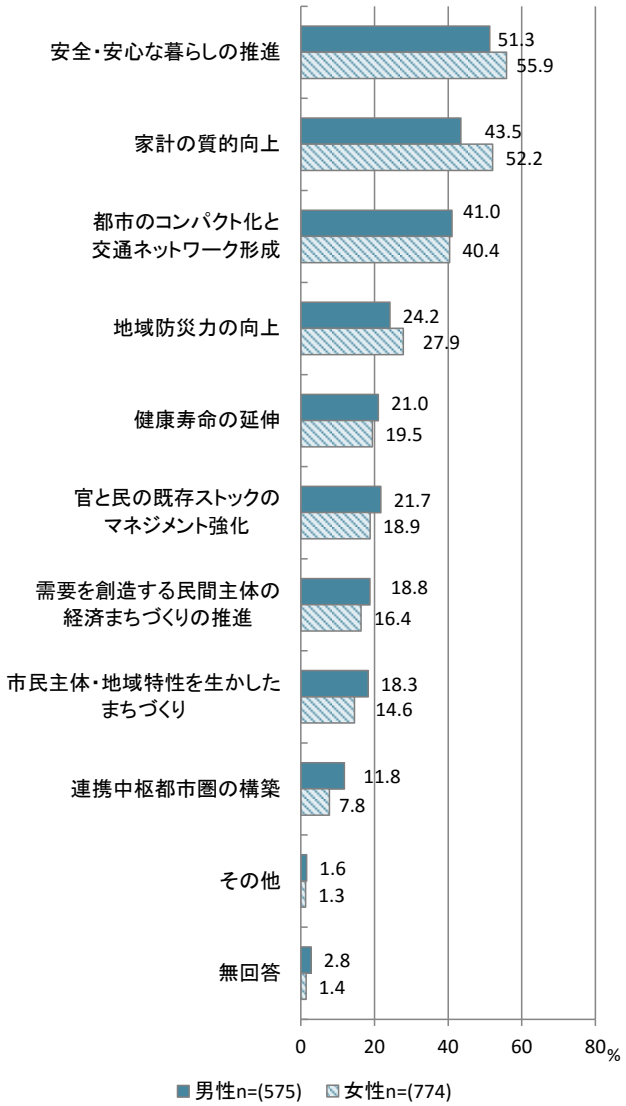
(4)暮らしを守る

- **全体では、「安全・安心な暮らしの推進」が 53.8%で最も高く、次いで「家計の質的向上」48.5%、「都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成」40.7%、「地域防災力の向上」26.2%、「健康寿命の延伸」20.1%と続いた。**
- 性別では、全体結果同様、男女ともに「安全・安心な暮らしの推進」、「家計の質的向上」、「都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成」が高かったが、「家計の質的向上」では男性 43.5%、女性 52.2%と、女性が男性を 8.7 ポイント上回った。
- 年齢別では、30 歳代を除く全ての年代において「安全・安心な暮らしの推進」が最も高く、特に 20 歳代以下では 6 割強を占めた（40 歳代では、「安全・安心な暮らしの推進」と「家計の質的向上」が同率で 1 位となった）。30 歳代では「家計の質的向上」が 7 割近くを占め、他の年代を約 20 ポイント以上上回った。

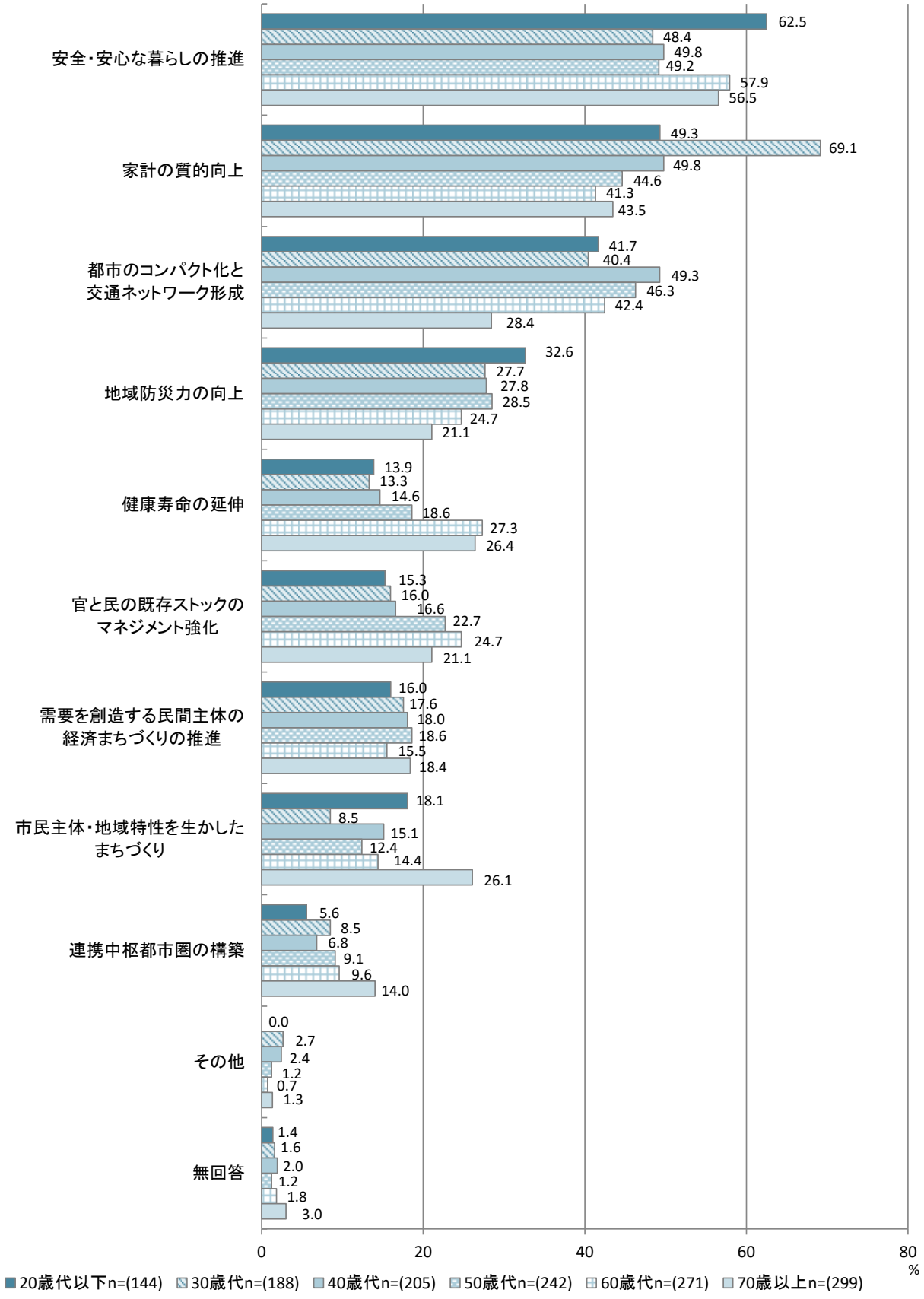
＜全体＞



＜性別＞



＜年齢別＞


安全・安心な暮らしの推進
62.5
48.4
49.8
49.2
57.9
56.5
家計の質的向上
49.3
69.1
49.8
44.6
41.3
43.5
都市のコンパクト化と交通ネットワーク形成
41.7
40.4
49.3
46.3
42.4
28.4
地域防災力の向上
32.6
27.7
27.8
28.5
24.7
21.1
健康寿命の延伸
13.9
13.3
14.6
18.6
27.3
26.4
官と民の既存ストックのマネジメント強化
15.3
16.0
16.6
22.7
24.7
21.1
需要を創造する民間主体の経済まちづくりの推進
16.0
17.6
18.0
18.6
15.5
18.4
市民主体・地域特性を生かしたまちづくり
18.1
8.5
15.1
12.4
14.4
26.1
連携中枢都市圏の構築
5.6
8.5
6.8
9.1
9.6
14.0
その他
0.0
2.7
2.4
1.2
0.7
1.3
無回答
1.4
1.6
2.0
1.2
1.8
3.0
0
20
40
60
80
%
20歳代以下n=(144)
30歳代n=(188)
40歳代n=(205)
50歳代n=(242)
60歳代n=(271)
70歳以上n=(299)

5.「笑顔のまちづくりプログラム」について

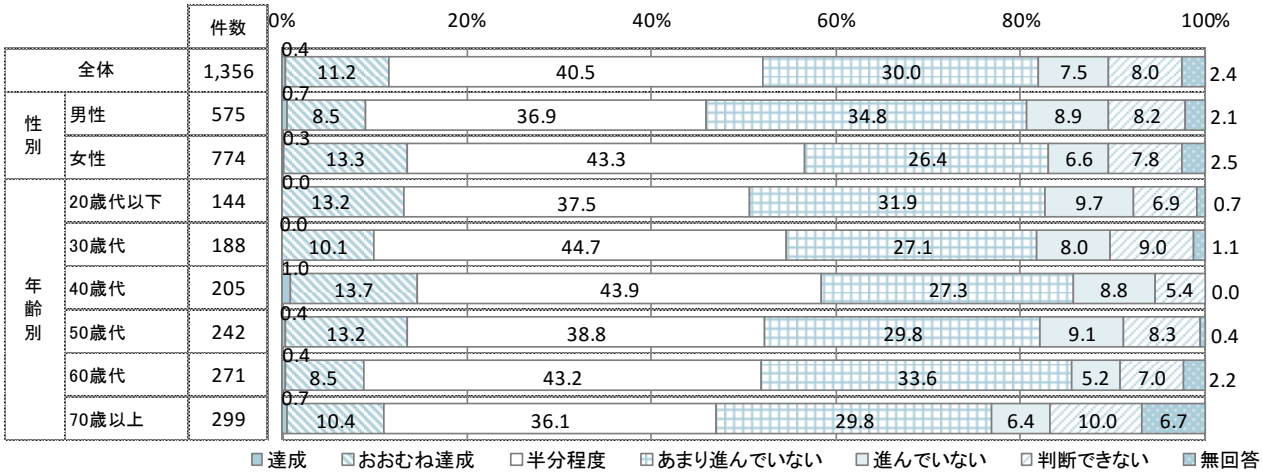
(1)笑顔が『集まる』

(1)－① 選ばれる松山を目指す「都市ブランド力向上」

・全体では、「半分程度」が 40.5%と最も高かったが、「達成」に「おおむね達成」を合わせた『達成』（以下同じ）が 11.6%で、「進んでいない」に「あまり進んでいない」を合わせた『進んでいない』（以下同じ）の 37.5%を下回った。

・性別では、「半分程度」が男性 36.9%、女性 43.3%と最も高かったが、『達成』は男性 9.2%、女性 13.6%、『進んでいない』は男性 43.7%、女性 33.0%で、男女ともに『達成』が『進んでいない』を下回っており、男性の『進んでいない』が比較的高くなっている。

・年齢別では、いずれの年代においても「半分程度」が最も高かったが、『達成』が『進んでいない』を下回り、『達成』は 30 歳代で 10.1%、60 歳代で 8.9%と、他の年代に比べやや低くなっている。

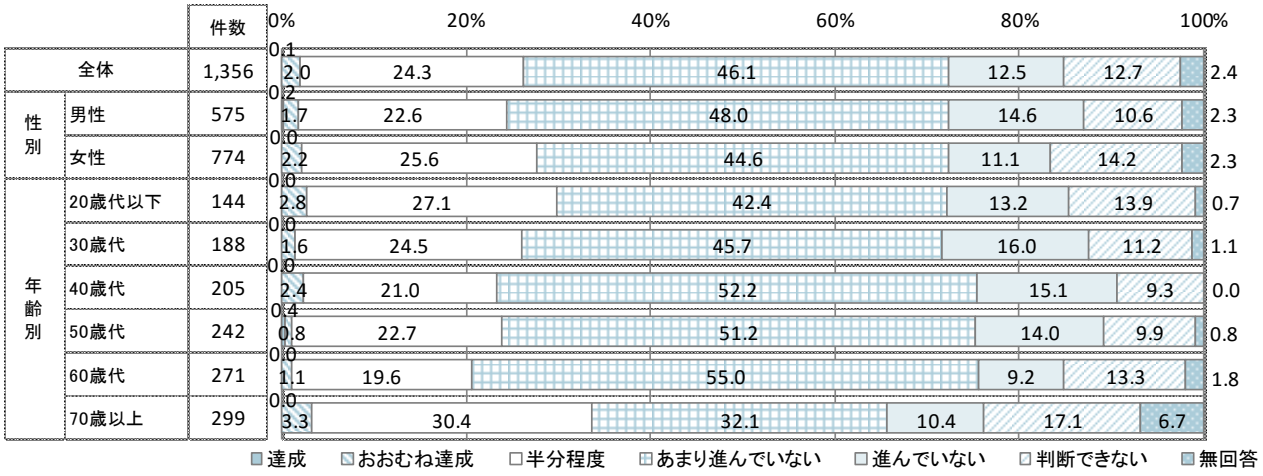


(1)－② 元気な産業と人財が創り出す「経済活性化」

・全体では、『達成』が 2.1%で、『進んでいない』の 58.6%を大きく下回った。

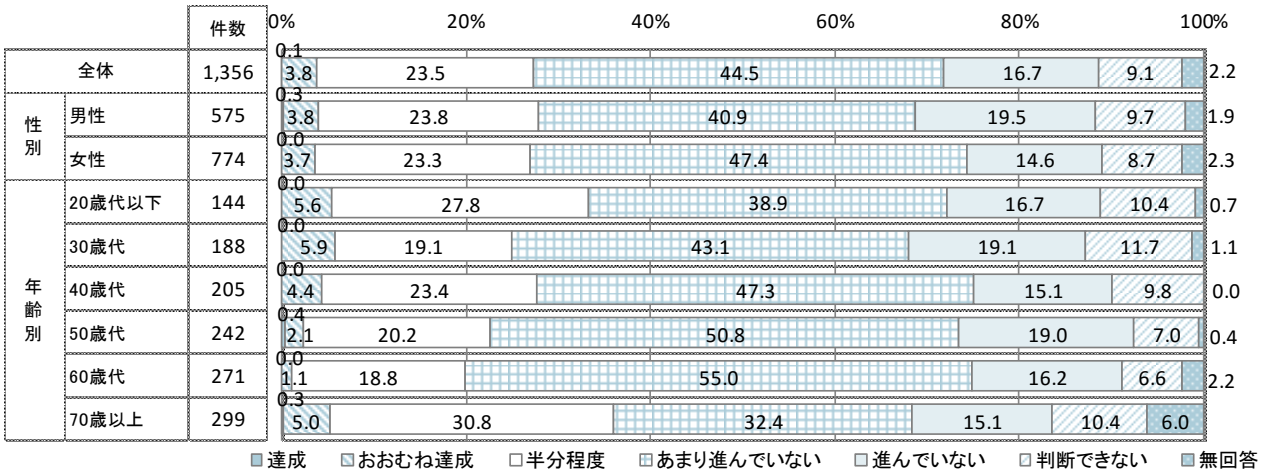
・性別では、『達成』は男性 1.9%、女性 2.2%、『進んでいない』は男性 62.6%、女性 55.7%で、男女ともに『達成』が『進んでいない』を大きく下回っており、男性の『進んでいない』が比較的高くなっている。

・年齢別では、いずれの年代においても『達成』が『進んでいない』を大きく下回っているものの、70 歳以上では『進んでいない』が 42.5%と、他の年代に比べ低くなっている。



(1)－③ エネルギーや移動手段の見直しによる「低炭素型まちづくり」

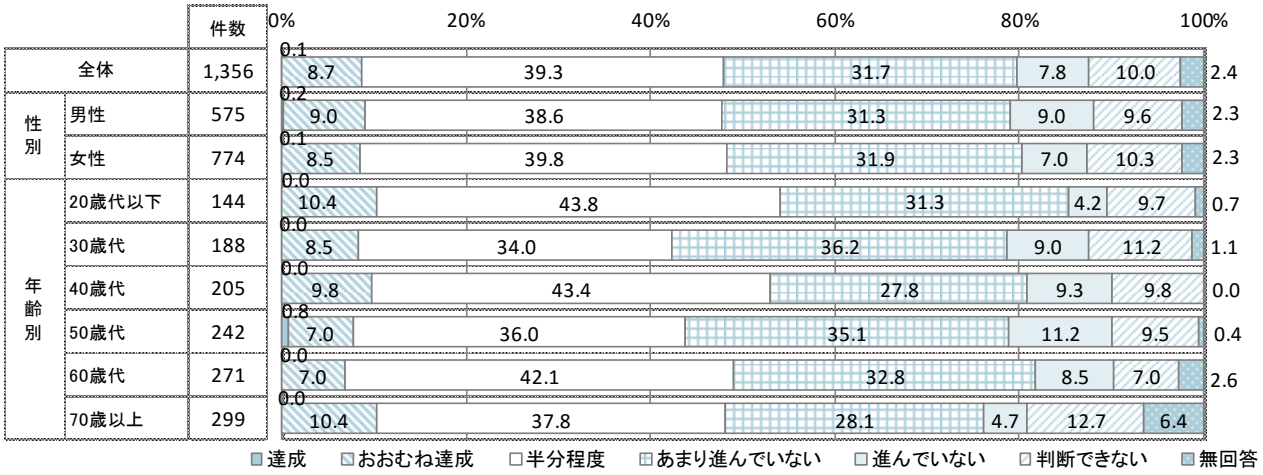
- **全体では、『達成』が 3.9%で、『進んでいない』の 61.2%を大きく下回った。**
- 性別では、『達成』は男性 4.1%、女性 3.7%、『進んでいない』は男性 60.4%、女性 62.0%で、男女ともに『達成』が『進んでいない』を大きく下回っている。
- 年齢別では、いずれの年代においても『達成』が『進んでいない』を大きく下回り、60 歳代では『達成』は 1.1%、『進んでいない』71.2%と、他の年代に比べ差が大きくなっている。



(2)笑顔を『育む』

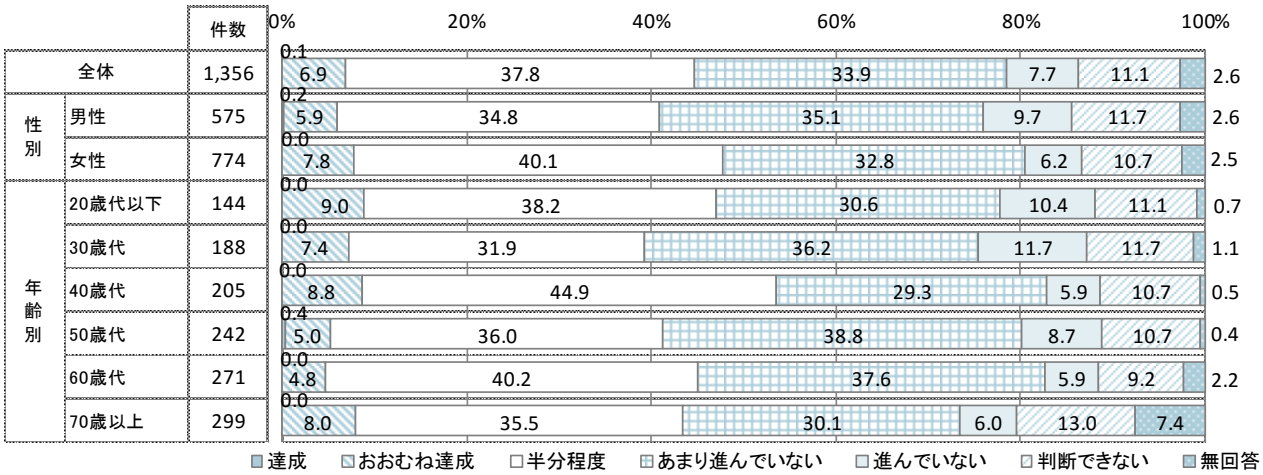
(2)－① 松山の魅力をみんなで育む「まち育て」

- **全体では、「半分程度」が 39.3%と最も高かったが、『達成』が 8.8%で、『進んでいない』の 39.5%を下回った。**
- 性別では、「半分程度」が男性 38.6%、女性 39.8%と最も高かったが、『達成』は男性 9.2%、女性 8.6%、『進んでいない』は男性 40.3%、女性 38.9%で、男女ともに『達成』が『進んでいない』を下回っている。
- 年齢別では、30 歳代を除いた年代で「半分程度」が最も高かったが、いずれの年代においても『達成』が『進んでいない』を下回っている。



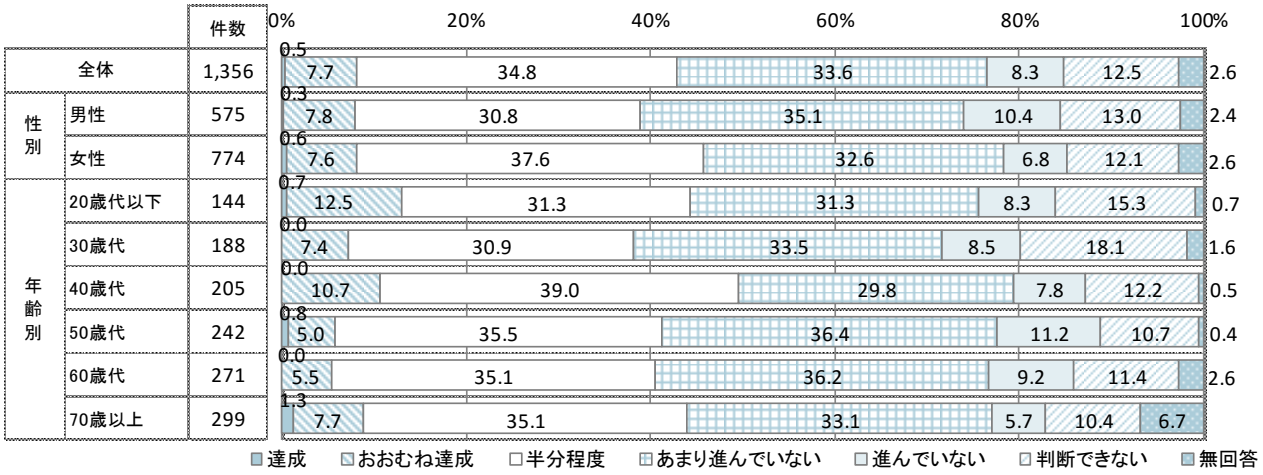
(2)－② 出会いから子どもの成長まで「つながる未来応援」

- **全体では、「半分程度」が 37.8%と最も高かったが、『達成』が 7.0%で、『進んでいない』の 41.6%を下回った。**
- 性別では、女性は「半分程度」が 40.1%と最も高かったが、『達成』は男性 6.1%、女性 7.8%、『進んでいない』は男性 44.8%、女性 39.0%で、男女ともに『達成』が『進んでいない』を下回っており、男性の『進んでいない』が比較的高くなっている。
- 年齢別では、30 歳代、50 歳代を除いた年代で「半分程度」が最も高かったが、いずれの年代においても『達成』が『進んでいない』を下回り、『進んでいない』は 30 歳代で 47.9%、50 歳代で 47.5%と、他の年代に比べ高くなっている。



(2)－③ みんなで伝え合い学び合う「知恵と知識の循環」

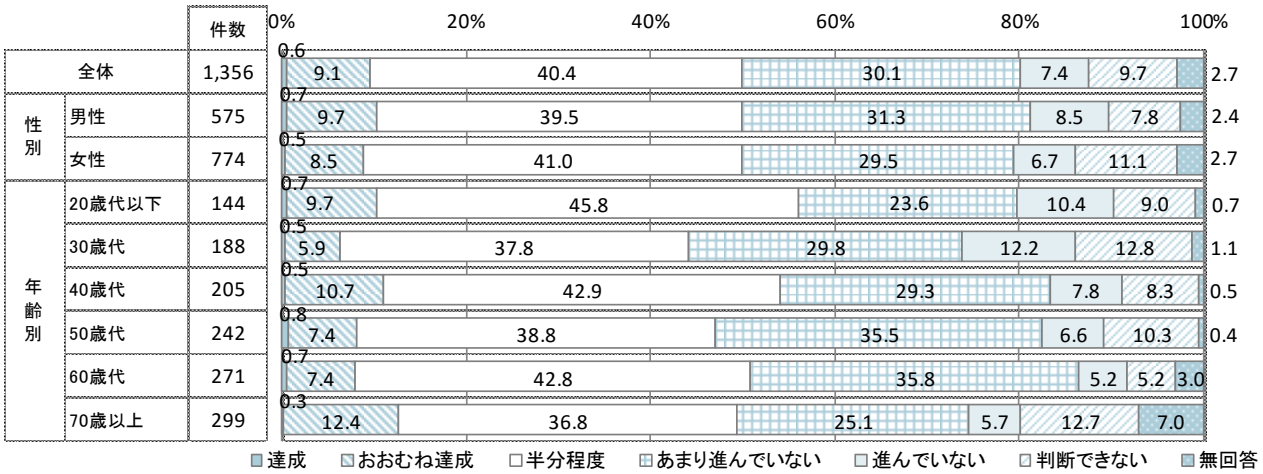
- **全体では、「半分程度」が 34.8%と最も高かったが、『達成』が 8.2%で、『進んでいない』の 41.9%を下回った。**
- 性別では、女性は「半分程度」が 37.6%と最も高かったが、『達成』は男性 8.1%、女性 8.2%、『進んでいない』は男性 45.5%、女性 39.4%で、男女ともに『達成』が『進んでいない』を下回っており、男性の『進んでいない』が比較的高くなっている。
- 年齢別では、いずれの年代においても『達成』が『進んでいない』を下回ったが、『達成』は 20 歳代以下で 13.2%と、他の年代に比べ高くなっている。



(3)笑顔を『守る』

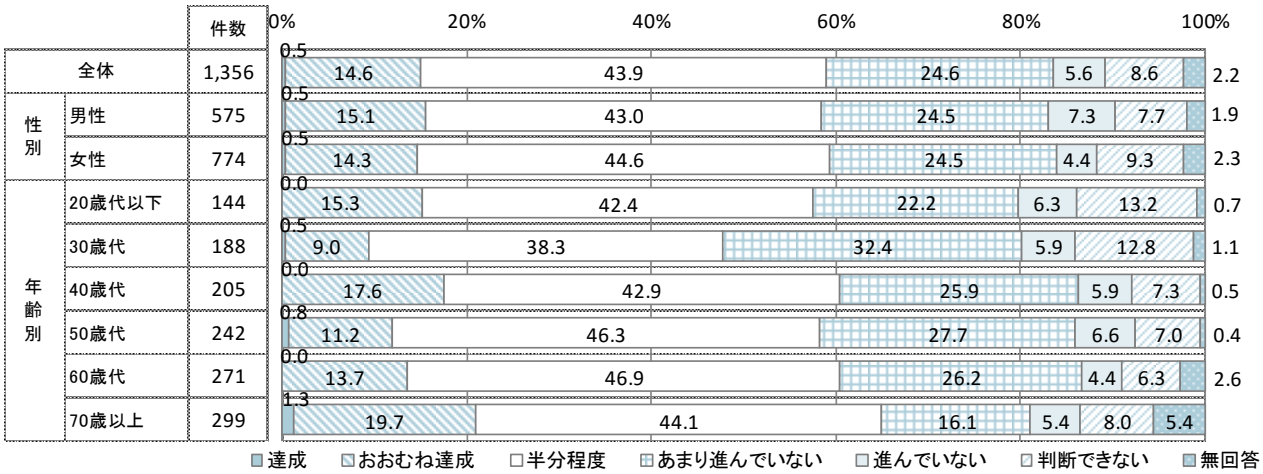
(3)－① 地域ぐるみで備える「危機管理能力向上」

- **全体では、「半分程度」が 40.4%と最も高かったが、『達成』が 9.7%で、『進んでいない』の 37.5%を下回った。**
- 性別では、「半分程度」が男性 39.5%、女性 41.0%と最も高かったが、『達成』は男性 10.4%、女性 9.0%、『進んでいない』は男性 39.8%、女性 36.2%で、男女ともに『達成』が『進んでいない』を下回っている。
- 年齢別では、いずれの年代においても「半分程度」が最も高かったが、『達成』が『進んでいない』を下回り、30 歳代では『達成』は 6.4%、『進んでいない』が 42.0%と、他の年代に比べ差がやや大きくなっている。



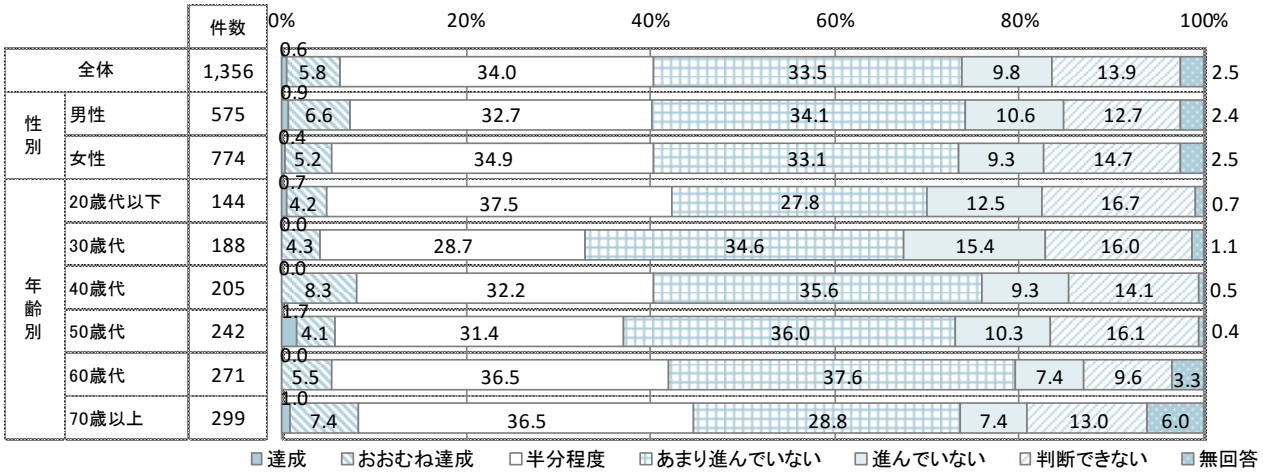
(3)－② 病気の予防や生活習慣改善による「健康増進」

- **全体では、「半分程度」が 43.9%と最も高かったが、『達成』が 15.1%で、『進んでいない』の 30.2%を下回った。**
- 性別では、「半分程度」が男性 43.0%、女性 44.6%と最も高かったが、『達成』は男性 15.6%、女性 14.8%、『進んでいない』は男性 31.8%、女性 28.9%で、男女ともに『達成』が『進んでいない』を下回っている。
- 年齢別では、いずれの年代においても「半分程度」が最も高く、『達成』が『進んでいない』を下回っているものの、70 歳以上では『達成』21.0%、『進んでいない』21.5%と、差はわずかに 0.5 ポイントとなっている。



(3)－③ 誰もが自立し個性を認め合う「いきいきと暮らせるまちづくり」

- **全体では、「半分程度」が 34.0%と最も高かったが、『達成』が 6.4%で、『進んでいない』の 43.3%を下回った。**
- 性別では、『達成』は男性 7.5%、女性 5.6%、『進んでいない』は男性 44.7%、女性 42.4%で、男女ともに『達成』が『進んでいない』を下回っている。
- 年齢別では、いずれの年代においても『達成』が『進んでいない』を下回り、『進んでいない』は 30 歳代では 5 割に達している。

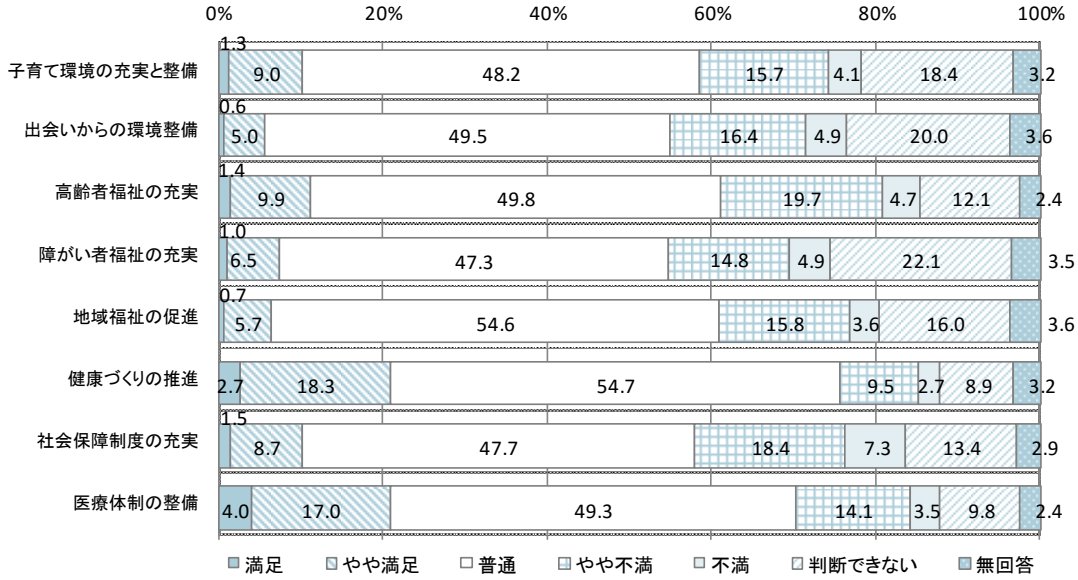


6. 市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について

(1)健康・福祉に関する施策

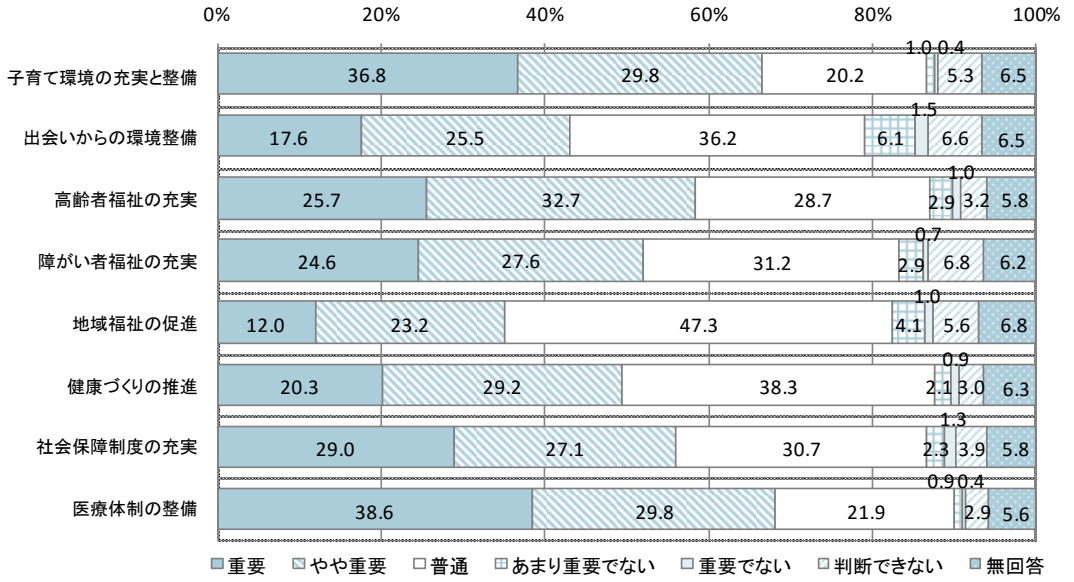
＜満足度＞

- 「健康・福祉」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 5 割前後を占めている。
- 「判断できない」は「障がい者福祉の充実」で 22.1%と最も高い。
- 『満足している』(「満足」+「やや満足」) と評価の高い施策の上位 3 項目は、「健康づくりの推進」及び「医療体制の整備」(同率 21.0%) が突出しており、「高齢者福祉の充実」(11.3%) が続いている。
- 一方で、『不満である』(「不満」+「やや不満」) と評価の低い施策の上位 3 項目は、「社会保障制度の充実」(25.7%)、「高齢者福祉の充実」(24.4%)、「出会いからの環境整備」(21.3%) である。



＜重要度＞

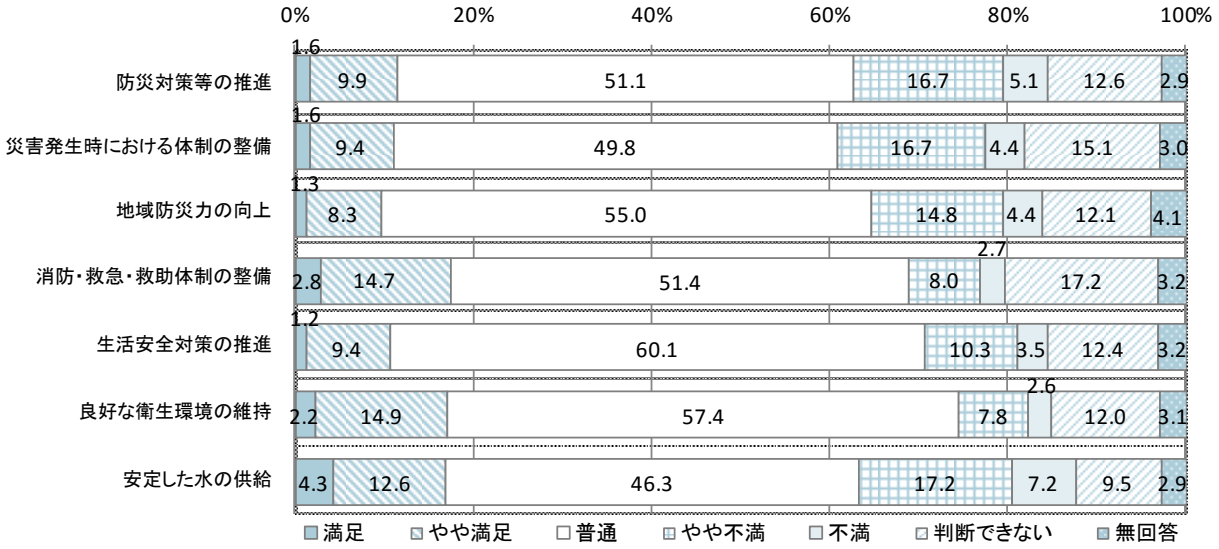
- 「健康・福祉」に関する施策のうち、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えられている施策の上位 3 項目は、「医療体制の整備」(68.4%)、「子育て環境の充実と整備」(66.6%)、「高齢者福祉の充実」(58.4%) である。
- 「出会いからの環境整備」(43.1%) 及び「地域福祉の促進」(35.2%) は、他の項目に比べ「重要である」と考えている人がやや少ない。



(2)安全・安心に関する施策

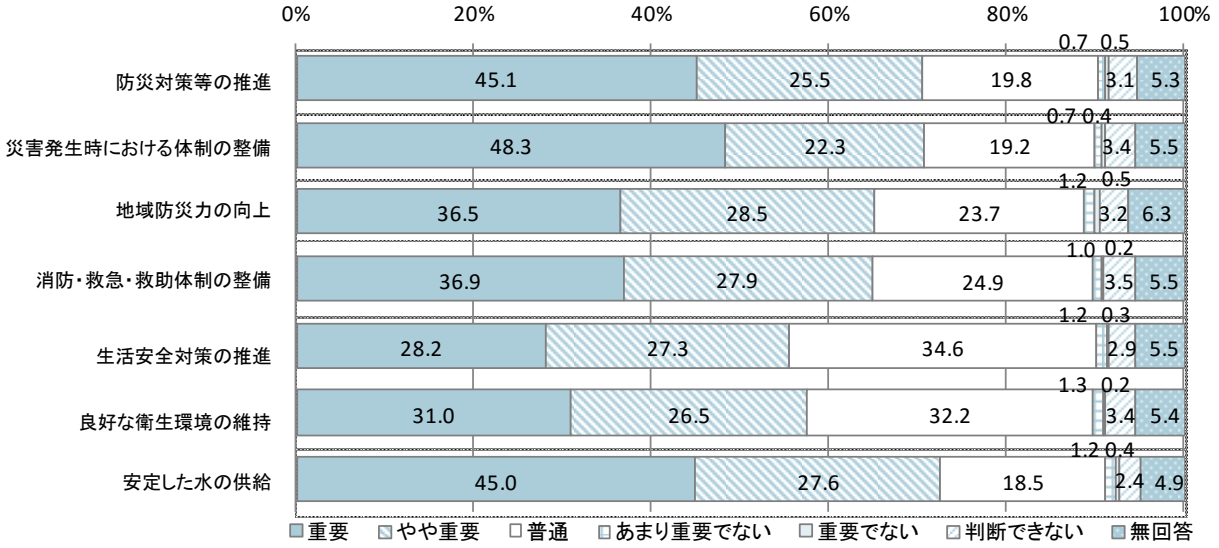
＜満足度＞

- 「安全・安心」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 4 割半ば以上を占めている。
- 「判断できない」は「消防・救急・救助体制の整備」で 17.2%と最も高い。
- 『満足している』(「満足」+「やや満足」) と評価の高い施策の上位 3 項目は、「消防・救急・救助体制の整備」(17.5%)、「良好な衛生環境の維持」(17.1%)、「安定した水の供給」(16.9%) である。
- 一方で、『不満である』(「不満」+「やや不満」) と評価の低い施策の上位 3 項目は、「安定した水の供給」(24.4%)、「防災対策等の推進」(21.8%)、「災害発生時における体制の整備」(21.1%) である。



＜重要度＞

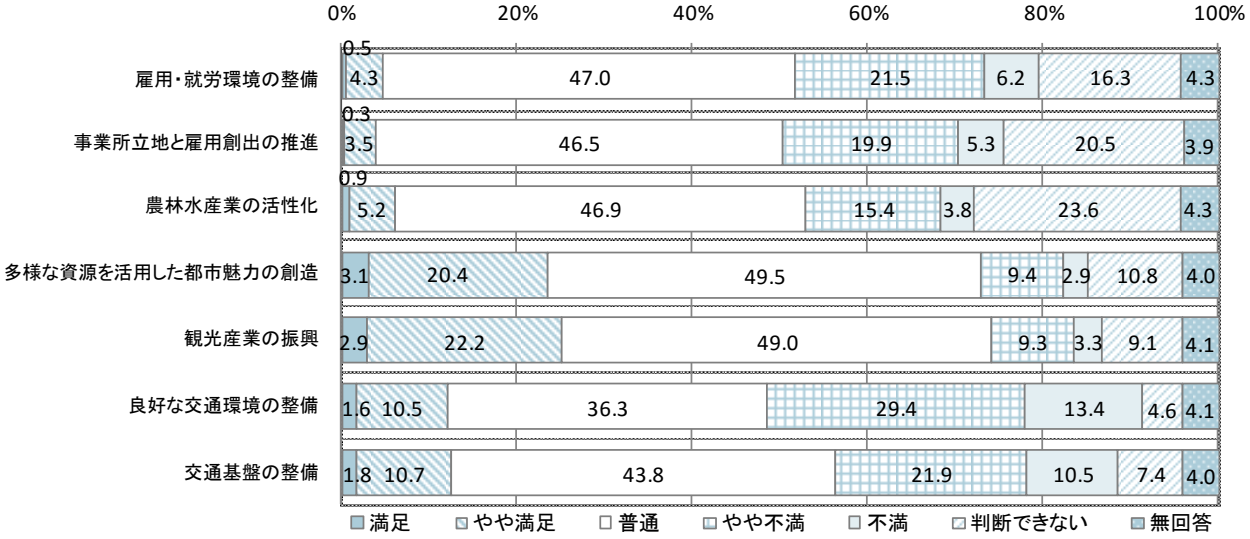
- 「安全・安心」に関する施策のうち、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えられている施策の上位 3 項目は、「安定した水の供給」(72.6%)、「防災対策等の推進」及び「災害発生時における体制の整備」(同率 70.6%) である。
- また、全ての項目で、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えている人が過半数を占めている。



(3)産業・交流に関する施策

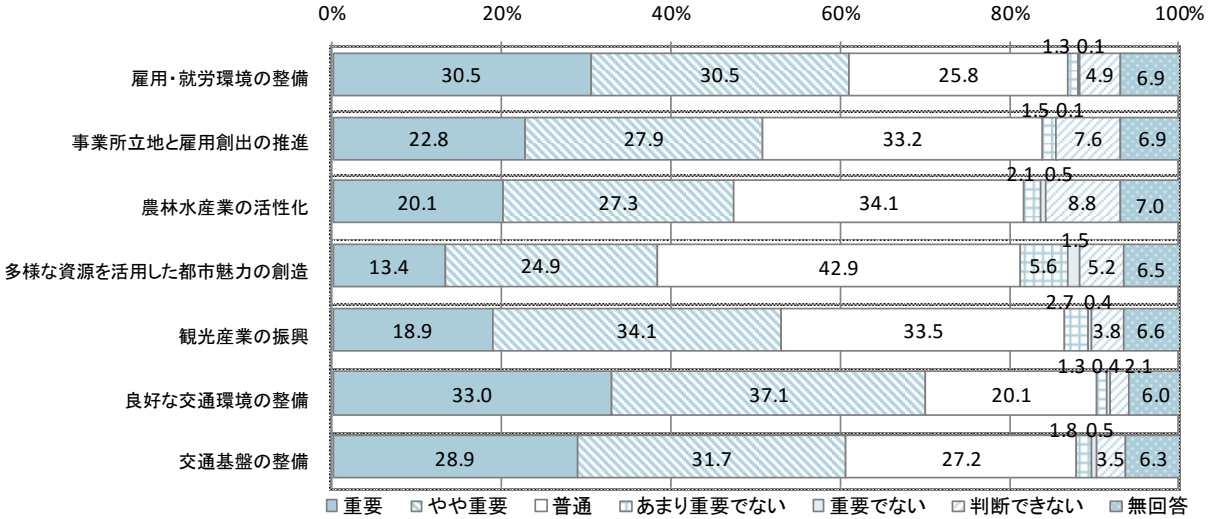
＜満足度＞

- 「産業・交流」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 3 割半ばから 5 割弱を占めている。
- 「判断できない」は「農林水産業の活性化」で 23.6%と最も高い。
- 『満足している』(「満足」+「やや満足」) と評価の高い施策の上位 3 項目は、「観光産業の振興」(25.1%) 及び「多様な資源を活用した都市魅力の創造」(23.5%) が突出しており、「交通基盤の整備」(12.5%) が続いている。
- 一方で、『不満である』(「不満」+「やや不満」) と評価の低い施策の上位 3 項目は、「良好な交通環境の整備」(42.8%) が突出しており、「交通基盤の整備」(32.4%)、「雇用・就労環境の整備」(27.7%) である。



＜重要度＞

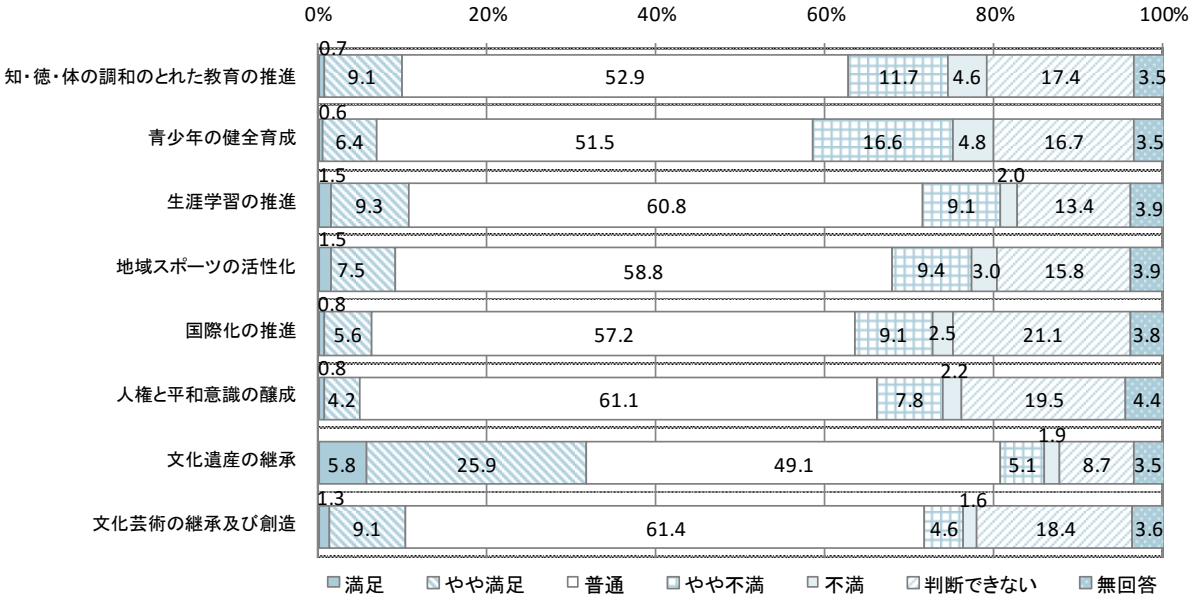
- 「産業・交流」に関する施策のうち、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えられている施策の上位 3 項目は、「良好な交通環境の整備」(70.1%)、「雇用・就労環境の整備」(61.0%)、「交通基盤の整備」(60.6%) である。
- また、「農林水産業の活性化」(47.4%)、「多様な資源を活用した都市魅力の創造」(38.3%) 以外の全ての項目で、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えている人が過半数を上回っている。



(4)教育・文化に関する施策

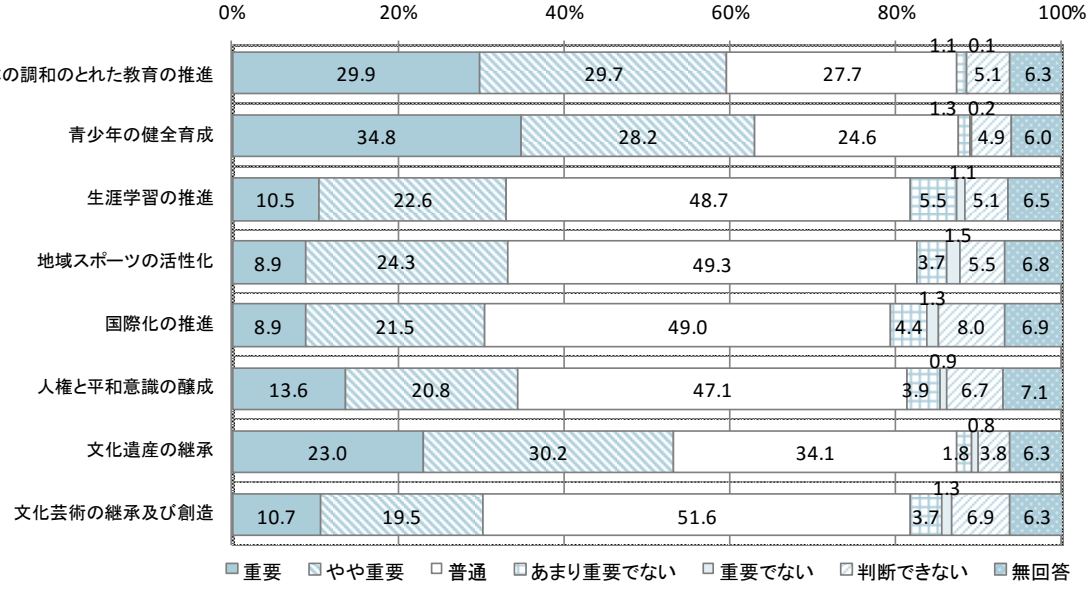
＜満足度＞

- 「教育・文化」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価がほぼ過半数を超えている。
- 「判断できない」は「国際化の推進」で 21.1%と最も高い。
- 『満足している』(「満足」+「やや満足」) と評価の高い施策の上位 3 項目は、「文化遺産の継承」(31.7%) が突出しており、「生涯学習の推進」(10.8%)、「文化芸術の継承及び創造」(10.4%) が続いている。
- 一方で、『不満である』(「不満」+「やや不満」) と評価の低い施策の上位 3 項目は、「青少年の健全育成」(21.4%)、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」(16.3%)、「地域スポーツの活性化」(12.4%) である。



＜重要度＞

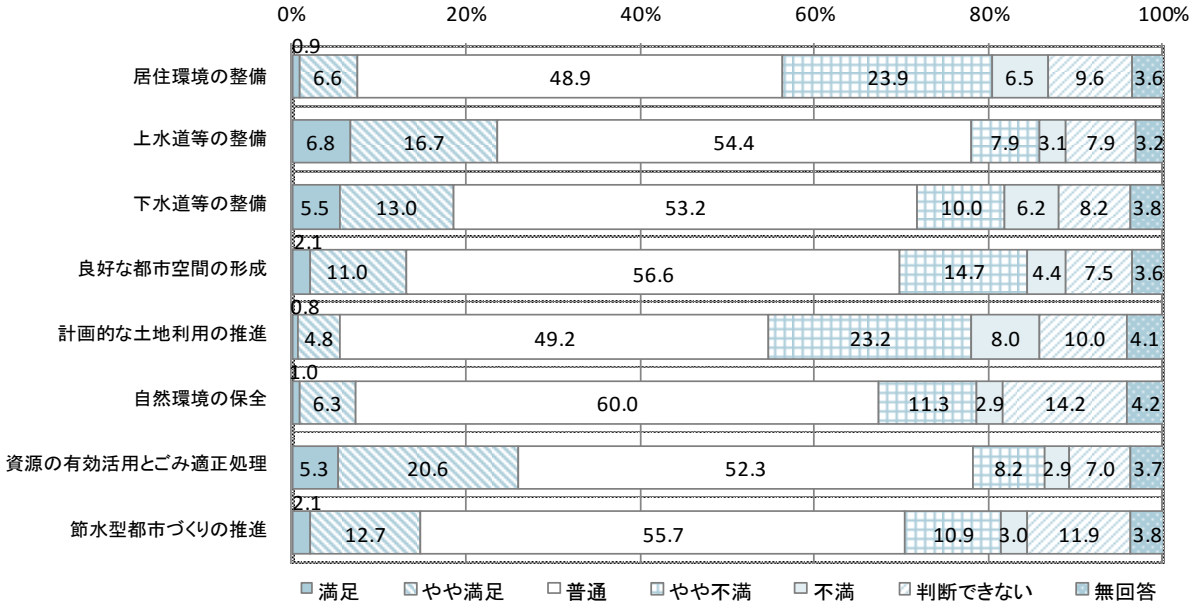
- 「教育・文化」に関する施策のうち、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えられている施策の上位 3 項目は、「青少年の健全育成」(63.0%)、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」(59.6%)、「文化遺産の継承」(53.2%) である。
- 上位 3 項目以外の施策については、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えている人が 3 割台にとどまっている。



(5)環境・都市に関する施策

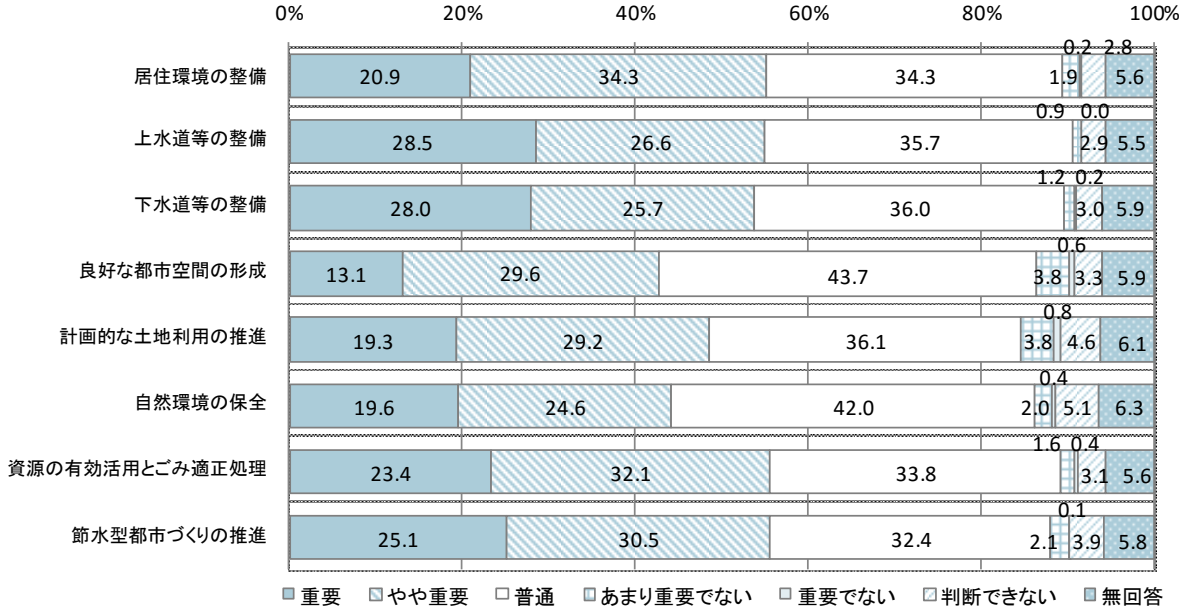
＜満足度＞

- 「環境・都市」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が 4 割半ばから 6 割を占めている。
- 「判断できない」は「自然環境の保全」で 14.2%と最も高い。
- 『満足している』(「満足」+「やや満足」) と評価の高い施策の上位 3 項目は、「資源の有効活用とごみ適正処理」(25.9%)、「上水道等の整備」(23.5%)、「下水道等の整備」(18.5%) である。
- 一方で、『不満である』(「不満」+「やや不満」) と評価の低い施策の上位 3 項目は、「計画的な土地利用の推進」(31.2%)、「居住環境の整備」(30.4%)、「良好な都市空間の形成」(19.1%) である。



＜重要度＞

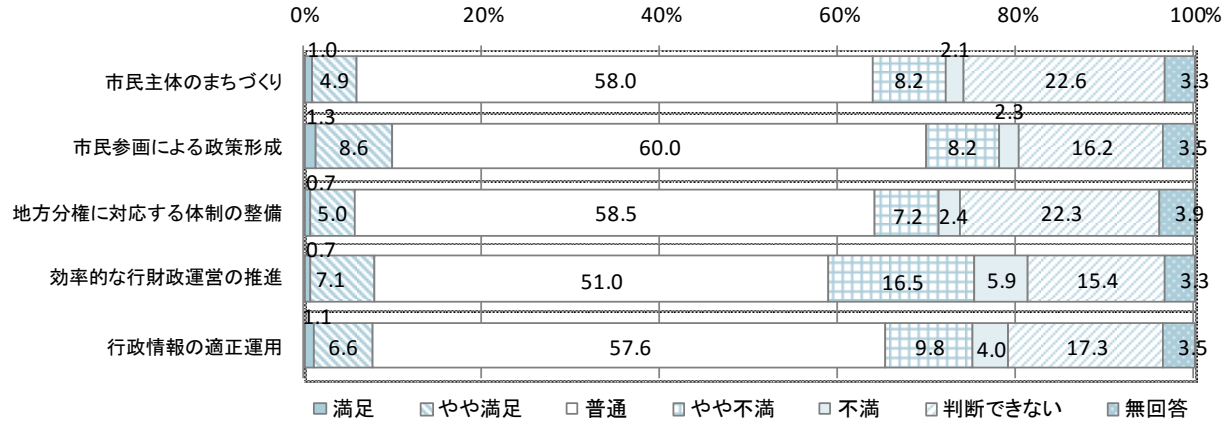
- 「環境・都市」に関する施策のうち、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えられている施策の上位 3 項目は、「節水型都市づくりの推進」(55.6%)、「資源の有効活用とごみ適正処理」(55.5%)、「居住環境の整備」(55.2%) である。
- また、全ての項目で、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えている人が 4 割以上を占めている。



(6)自治・行政に関する施策

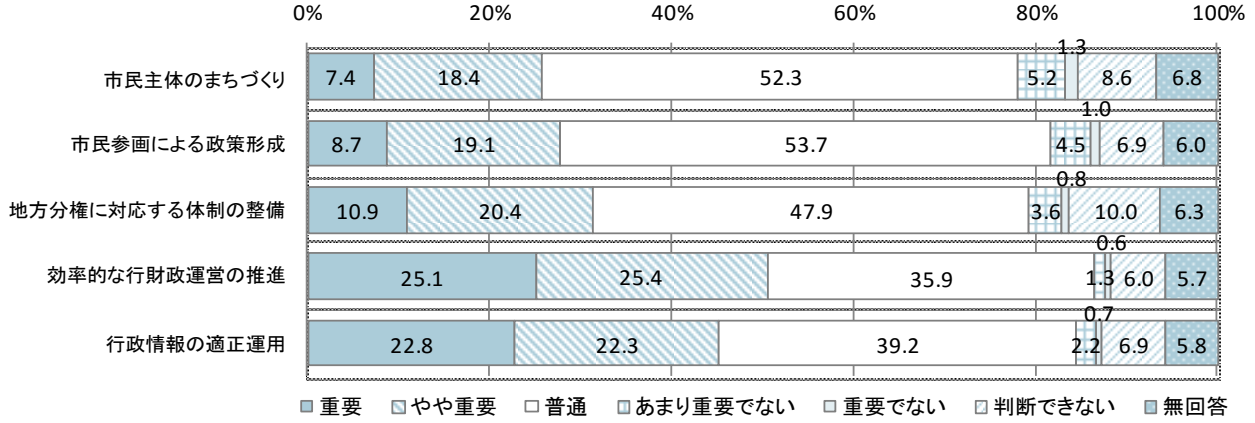
＜満足度＞

- 「自治・行政」に関する全ての施策において、満足度は「普通」であるとの評価が過半数を占めている。
- 「判断できない」は「市民主体のまちづくり」で 22.6%と最も高い。
- 『満足している』(「満足」+「やや満足」) と評価の高い施策の上位 3 項目は、「市民参画による政策形成」(9.9%)、「効率的な行財政運営の推進」(7.8%)、「行政情報の適正運用」(7.7%) が続いている。
- 一方で、『不満である』(「不満」+「やや不満」) と評価の低い施策の上位 3 項目は、「効率的な行財政運営の推進」(22.4%) がやや突出しており、「行政情報の適正運用」(13.8%)、「市民参画による政策形成」(10.5%) と続いている。



＜重要度＞

- 「自治・行政」に関する施策のうち、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えられている施策の上位 3 項目は、「効率的な行財政運営の推進」(50.5%)、「行政情報の適正運用」(45.1%)、「地方分権に対応する体制の整備」(31.3%) である。
- また「効率的な行財政運営の推進」以外の項目で、『重要である』(「重要」+「やや重要」) と考えている人が半数を下回っている。



Ⅲ　調査分析

1. 満足度・重要度

本章では、第 6 次松山市総合計画の施策毎の満足度・重要度において、回答選択肢 1（不満、重要でない）から回答選択肢 5（満足、重要）まで、それぞれ 1 点から 5 点を与え、加重平均を算出した。なお、回答選択肢 6「判断できない」及び「不明・無回答」のサンプルは集計対象から除外している。

(1)本市が実施している施策毎の評価

①全体集計

＜満足度＞　　全項目平均得点【H28 年度】2.90　【H27 年度】2.89　【H26 年度】2.90

得点が普通（3.00）を下回り、比較的不満のある施策が多い（43 項目中 31 項目）。
分野毎の平均では、【教育・文化】分野が高く、【産業・交流】分野が低くなっている。

・満足度得点についてみると、松山市で実施している施策全 43 項目のうち、3.00（普通）以上のプラス評価の項目は 12 項目、3.00 以下のマイナス評価の項目は 31 項目となっている。
・得点は、最高 3.32 から最低 2.53 の範囲（得点差 0.79）に分布しており、全項目の平均得点は 2.90 と、3.00（普通）を下回り、マイナス評価となっている。
・満足度の高い施策は、上位から、1 位「文化遺産の継承(④-7)」(3.32)、2 位「資源の有効活用とごみの適正処理(⑤-7)」(3.19)、3 位「上水道等の整備(⑤-2)」(3.18)、4 位「観光産業の振興(③-5)」(3.14)、5 位「多様な資源を活用した都市魅力の創造(③-4)」(3.13)、となっている。
・満足度の低い施策は、下位から、43 位「良好な交通環境の整備(③-6)」(2.53)、42 位「計画的な土地利用の推進(⑤-5)」(2.62)、41 位「雇用・就労環境の整備(③-1)」(2.64)、40 位「事業所立地と雇用創出の推進(③-2)」(2.65)、39 位「居住環境の整備(⑤-1)」(2.67) となっている。

＜重要度＞　　全項目平均得点【H28 年度】3.80　【H27 年度】3.81　【H26 年度】3.77

全項目で得点が普通（3.00）を上回り、全ての施策が重要視されている。
分野毎の平均では、【安全・安心】分野が高く、【自治・行政】分野が低くなっている。

・重要度得点についてみると、松山市で実施している施策全 43 項目全てが 3.00（普通）以上であり、全ての項目が重要であると評価されている。そのうち、4.00（やや重要）以上の項目は、11 項目である。
・得点は、最高 4.29 から最低 3.30 の範囲（得点差 0.99）に分布しており、全項目の平均得点は、3.80 となっている。
・重要度の高い施策は、上位から、1 位「災害発生時における体制の整備(②-2)」(4.29)、2 位「安定した水の供給(②-7)」(4.25)、3 位「防災対策等の推進(②-1)」(4.24)、4 位「子育て環境の充実と整備(①-1)」(4.15)、5 位「医療体制の整備(①-8)」(4.15) となっている。

施策別満足度・重要度一覧表（分野別平均）

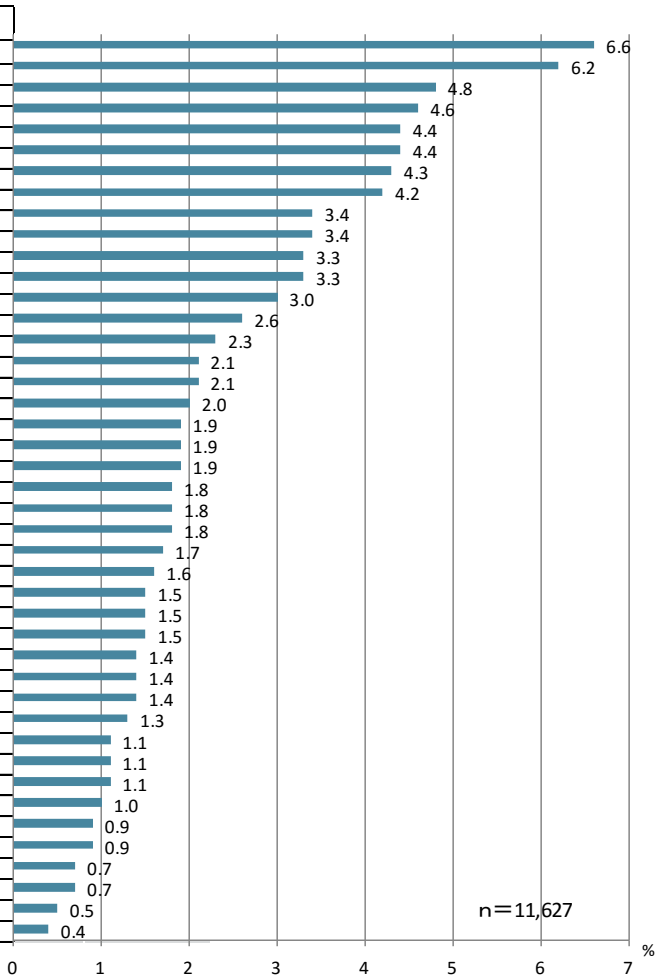
大項目		施策名	満足度(H28年度)		満足度(H27年度)		満足度(H26年度)		重要度(H28年度)		重要度(H27年度)		重要度(H26年度)	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
①	【健康・福祉】	1 子育て環境の充実と整備	28	2.84	29	2.83	32	2.80	4	4.15	4	4.15	2	4.18
		2 出会いからの環境整備	37	2.74	32	2.79	28	2.82	32	3.59	29	3.72	29	3.71
		3 高齢者福祉の充実	30	2.81	33	2.78	31	2.80	18	3.87	10	4.04	12	3.95
		4 障がい者福祉の充実	32	2.78	34	2.76	29	2.82	22	3.83	15	3.93	18	3.84
		5 地域福祉の促進	31	2.80	31	2.80	24	2.87	36	3.47	33	3.58	35	3.50
		6 健康づくりの推進	6	3.10	8	3.05	8	3.07	29	3.73	22	3.82	28	3.71
		7 社会保障制度の充実	36	2.75	37	2.67	39	2.68	16	3.89	18	3.89	21	3.80
		8 医療体制の整備	10	3.04	10	2.99	10	3.01	5	4.15	3	4.16	5	4.05
①【健康・福祉】平均				2.86		2.83		2.86		3.84		3.91		3.84
②	【安全・安心】	1 防災対策等の推進	29	2.84	24	2.88	30	2.81	3	4.24	5	4.15	3	4.16
		2 災害発生時における体制の整備	27	2.85	26	2.85	27	2.84	1	4.29	1	4.22	1	4.18
		3 地域防災力の向上	26	2.85	23	2.88	26	2.85	8	4.10	11	4.02	6	4.04
		4 消防・救急・救助体制の整備	7	3.09	5	3.09	6	3.09	6	4.10	9	4.04	9	4.01
		5 生活安全対策の推進	16	2.94	22	2.89	22	2.92	15	3.90	13	3.98	13	3.93
		6 良好な衛生環境の維持	8	3.07	7	3.08	9	3.06	13	3.95	16	3.91	19	3.81
		7 安定した水の供給	24	2.88	25	2.87	35	2.78	2	4.25	2	4.21	4	4.16
②【安全・安心】平均				2.93		2.93		2.91		4.12		4.08		4.04
③	【産業・交流】	1 雇用・就労環境の整備	41	2.64	40	2.64	42	2.60	10	4.02	12	4.00	8	4.03
		2 事業所立地と雇用創出の推進	40	2.65	39	2.64	41	2.65	20	3.84	25	3.81	15	3.87
		3 農林水産業の活性化	33	2.78	28	2.84	34	2.78	26	3.76	32	3.68	30	3.70
		4 多様な資源を活用した都市魅力の創造	5	3.13	4	3.10	4	3.11	35	3.49	36	3.48	36	3.50
		5 観光産業の振興	4	3.14	6	3.09	3	3.13	27	3.76	27	3.77	26	3.75
		6 良好な交通環境の整備	43	2.53	43	2.42	43	2.57	7	4.10	6	4.12	10	4.01
		7 交通基盤の整備	38	2.68	42	2.61	37	2.73	12	3.96	14	3.94	16	3.85
③【産業・交流】平均				2.79		2.76		2.80		3.85		3.83		3.81
④	【教育・文化】	1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進	25	2.87	30	2.82	25	2.87	11	4.00	8	4.04	11	3.99
		2 青少年の健全育成	34	2.77	36	2.69	36	2.76	9	4.08	7	4.12	7	4.04
		3 生涯学習の推進	13	2.99	16	2.96	16	2.98	39	3.40	38	3.44	38	3.40
		4 地域スポーツの活性化	15	2.94	19	2.94	19	2.95	38	3.41	40	3.39	39	3.35
		5 国際化の推進	20	2.91	20	2.91	18	2.95	41	3.38	39	3.39	42	3.32
		6 人権と平和意識の醸成	19	2.92	14	2.96	17	2.97	34	3.49	35	3.51	37	3.49
		7 文化遺産の継承	1	3.32	1	3.38	1	3.33	24	3.81	21	3.83	24	3.77
		8 文化芸術の継承及び創造	9	3.05	9	3.04	7	3.07	40	3.40	41	3.37	40	3.35
④【教育・文化】平均				2.97		2.96		2.99		3.62		3.64		3.59
⑤	【環境・都市】	1 居住環境の整備	39	2.67	35	2.69	40	2.67	25	3.80	28	3.77	24	3.78
		2 上水道等の整備	3	3.18	3	3.13	5	3.11	14	3.90	23	3.82	22	3.79
		3 下水道等の整備	11	3.02	11	2.99	14	2.98	17	3.88	23	3.82	23	3.78
		4 良好な都市空間の形成	21	2.91	21	2.89	23	2.88	33	3.56	34	3.56	33	3.53
		5 計画的な土地利用の推進	42	2.62	41	2.63	38	2.71	30	3.70	30	3.71	31	3.68
		6 自然環境の保全	22	2.89	18	2.94	21	2.92	31	3.69	31	3.69	27	3.72
		7 資源の有効活用とごみの適正処理	2	3.19	2	3.19	2	3.20	21	3.84	19	3.88	17	3.84
		8 節水型都市づくりの推進	12	3.00	12	2.98	13	2.98	19	3.87	20	3.88	14	3.90
⑤【環境・都市】平均				2.94		2.93		2.93		3.78		3.77		3.75
⑥	【自治・行政】	1 市民主体のまちづくり	17	2.93	13	2.98	12	2.99	43	3.30	43	3.29	43	3.30
		2 市民参画による政策形成	14	2.98	15	2.96	11	3.00	42	3.34	42	3.35	41	3.33
		3 地方分権に対応する体制の整備	18	2.92	17	2.94	20	2.93	37	3.44	37	3.47	34	3.51
		4 効率的な行財政運営の推進	35	2.76	38	2.65	33	2.78	23	3.83	17	3.89	20	3.81
		5 行政情報の適正運用	23	2.89	27	2.85	15	2.98	28	3.74	26	3.77	32	3.63
⑥【自治・行政】平均				2.89		2.88		2.94		3.53		3.55		3.52
全体平均				2.90		2.89		2.90		3.80		3.81		3.77

2. 施策の優先度について

松山市の実施している施策のうち、市民が優先的に取り組むべきだと思う上位 10 位までの施策は、1 位「子育て環境の充実と整備(①-1)」が 6.6%で、以下 2 位「高齢者福祉の充実(①-3)」(6.2%)、3 位「医療体制の整備(①-8)」(4.8%)、4 位「雇用・就労環境の整備(③-1)」(4.6%)、5 位「災害発生時における体制の整備(②-2)」(4.4%)、6 位「良好な交通環境の整備(③-6)」(4.4%)、7 位「社会保障制度の充実(①-7)」(4.3%)、8 位「安定した水の供給(②-7)」(4.2%)、9 位「防災対策等の推進(②-1)」(3.4%)、10 位「交通基盤の整備(③-7)」(3.4%) の順となった。

施策の優先度ランキング

順位	H27年度順位	H26年度順位	施策名	件数
1	2	1	①-1 子育て環境の充実と整備	773
2	1	2	①-3 高齢者福祉の充実	719
3	3	4	①-8 医療体制の整備	561
4	4	3	③-1 雇用・就労環境の整備	534
5	8	7	②-2 災害発生時における体制の整備	509
6	5	9	③-6 良好な交通環境の整備	506
7	7	6	①-7 社会保障制度の充実	496
8	6	5	②-7 安定した水の供給	488
9	12	10	②-1 防災対策等の推進	399
10	9	16	③-7 交通基盤の整備	390
11	13	14	①-4 障がい者福祉の充実	383
12	11	11	④-2 青少年の健全育成	379
13	10	8	④-1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進	354
14	15	13	②-4 消防・救急・救助体制の整備	301
15	14	12	⑤-1 居住環境の整備	264
16	21	20	①-6 健康づくりの推進	248
17	28	24	③-3 農林水産業の活性化	246
18	17	27	③-5 観光産業の振興	232
19	22	19	⑤-7 資源の有効活用とごみの適正処理	223
20	19	17	⑤-6 自然環境の保全	222
20	16	15	⑥-4 効率的な行財政運営の推進	219
22	23	18	②-5 生活安全対策の推進	214
23	18	22	⑤-3 下水道等の整備	213
24	26	28	①-5 地域福祉の促進	208
25	25	23	⑤-8 節水型都市づくりの推進	193
26	32	26	②-3 地域防災力の向上	189
27	20	31	④-7 文化遺産の継承	178
28	27	29	⑤-2 上水道等の整備	177
29	24	25	⑤-5 計画的な土地利用の推進	176
30	35	33	①-2 出会いからの環境整備	168
31	30	35	⑤-4 良好な都市空間の形成	166
31	29	20	③-2 事業所立地と雇用創出の推進	160
33	34	30	②-6 良好な衛生環境の維持	146
34	36	39	④-4 地域スポーツの活性化	133
35	38	36	④-3 生涯学習の推進	128
36	33	31	⑥-1 市民主体のまちづくり	124
37	37	34	④-6 人権と平和意識の醸成	116
38	31	38	⑥-5 行政情報の適正運用	110
39	39	40	④-5 国際化の推進	108
40	43	43	④-8 文化芸術の継承及び創造	82
41	40	37	③-4 多様な資源を活用した都市魅力の創造	81
42	41	42	⑥-2 市民参画による政策形成	61
43	42	41	⑥-3 地方分権に対応する体制の整備	50



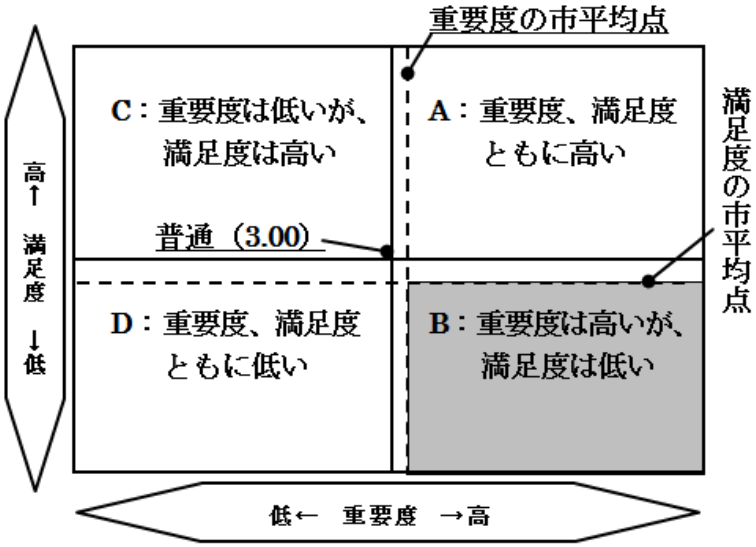
3. 重要度及び満足度、優先度の関係

下図のとおり、第 6 次松山市総合計画 43 施策毎の満足度と重要度の評価は、「普通」（3.00）を基準に、「Ａ：重要度、満足度ともに高い」、「Ｂ：重要度は高いが、満足度は低い」、「Ｃ：重要度は低いが、満足度は高い」、「Ｄ：重要度、満足度ともに低い」に整理できる。

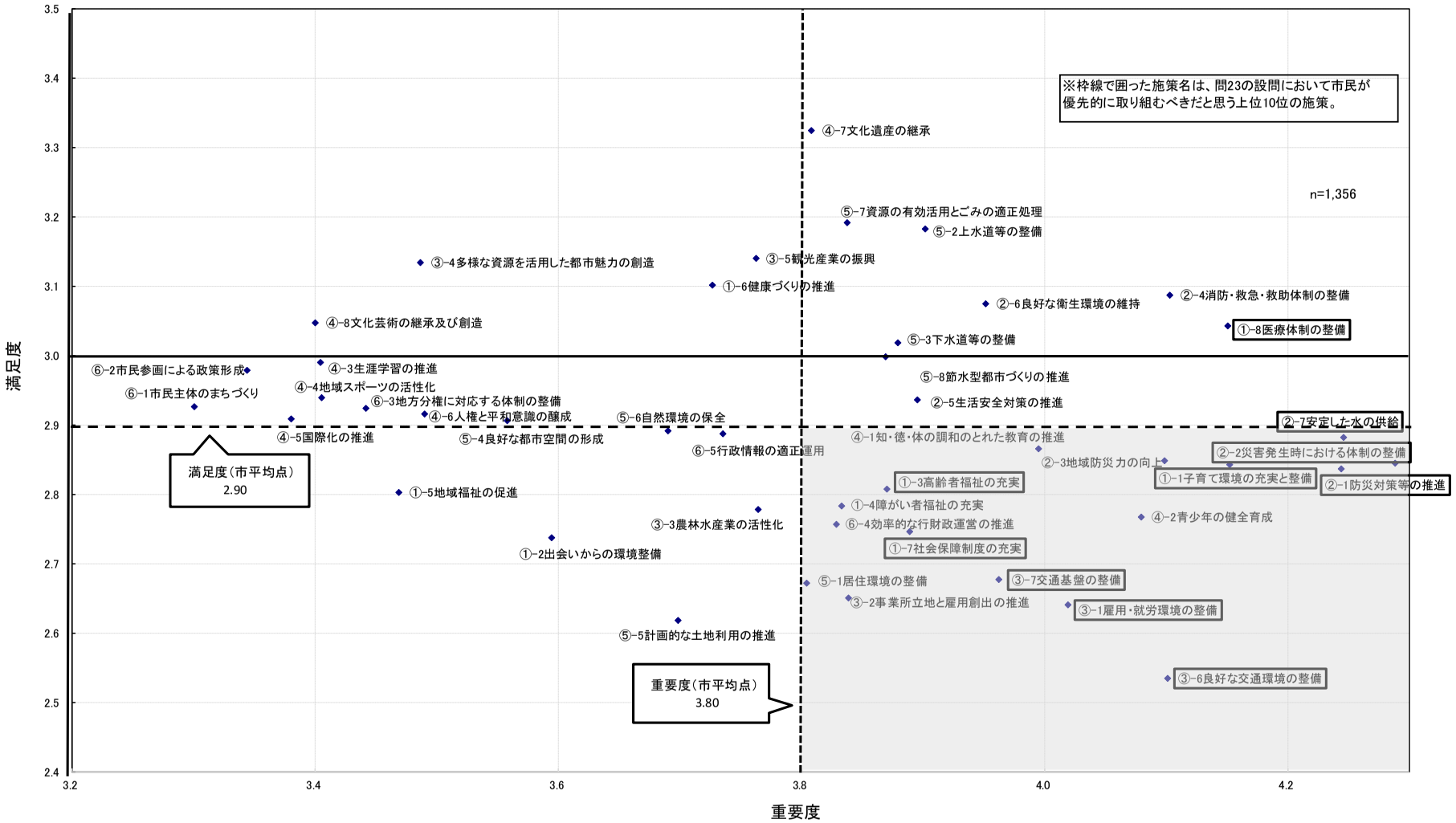
市民は、この結果のうち、特に「Ｂ：重要度は高いが、満足度は低い」の領域に属し、かつ優先度ランキングの上位に位置する施策を、これまでの市の取り組み状況から重要と判断しながらも、現状に対する満足度が低く、今後優先的に取り組むべき施策ととらえていると考えられる。

こうした施策に該当する、重要度が平均点（3.80）以上かつ満足度が平均点(2.90)以下の施策としては、「安定した水の供給(②-7)」、「災害発生時における体制の整備(②-2)」、「高齢者福祉の充実(①-3)」、「良好な交通環境の整備(③-6)」、「子育て環境の充実と整備(①-1)」、「雇用・就労環境の整備(③-1)」、「社会保障制度の充実(①-7)」、「防災対策等の推進（②-1)」、「交通基盤の整備(③-7)」が挙げられる。

このうち、平成 28 年度から新たに該当した項目は「防災対策等の推進（②-1)」となる。



市民意識調査における各施策の満足度・重要度の分布と市民優先度の関係



平成 28 年度　松山市　市民意識調査　報告書（概要版）

発　行：平成 29 年 3 月
編　集：松山市総合政策部企画戦略課
所在地：〒790-8571　愛媛県松山市二番町四丁目 7-2
電　話：(089)948-6213　　ＦＡＸ：(089)934-1804
電子メール： kikaku@city.matsuyama.ehime.jp